

平成13年4月3日の 静岡県中部を震源とする地震についてのアンケート

調査報告書



平成13年5月

(財) 静岡総合研究機構 防災情報研究所

(株) サーベイリサーチセンター



目次



・ 調査概要	1
・ まとめと提言（東京大学 廣井 脩）	3
・ 回答者の属性	5
・ 調査結果	7
1. 地震発生時の状態	7
2. 地震で揺れている間の行動	9
3. その後の行動	10
4. 被害状況	11
5. 家具の固定状況	15
6. 地震で困ったこと	17
7. 地震直後の情報ニーズ	19
8. 情報を知るために役に立った媒体	21
9. 今回の地震の揺れを体験して感じたこと	25
10. 気象庁の解説情報について	29
11. 東海地震について	38
12. 地震への具体的な備え	45
13. 自主防災組織への加入状況	50
14. 地域の危険性について	52
15. 耐震診断・耐震補強について	55
16. 地域防災に関して行政に望むこと	64
・ 自由回答一覧	67

付 調査票（単純集計結果）

付 サーベイリサーチセンターの業務案内

調査概要

調査目的

“平成13年4月3日23時57頃発生した静岡県中部を震源とする地震”に関して、住民の発生直後の意識や行動を把握し、東海地震対策を含めた今後の防災のあり方や住民の防災対策に役立つ基礎的な資料を提供する目的で実施した。

調査事項

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 地震発生時の状態 | 2. 地震で揺れている間の行動 |
| 3. その後の行動 | 4. 被害状況 |
| 5. 家具の固定状況 | 6. 地震で困ったこと |
| 7. 地震直後の情報ニーズ | 8. 情報を知るために役に立った媒体 |
| 9. 今回の地震の揺れを体験して感じたこと | 10. 気象庁の解説情報について |
| 11. 東海地震について | 12. 地震への具体的な備え |
| 13. 自主防災組織への加入状況 | 14. 地域の危険性について |
| 15. 耐震診断・耐震補強について | 16. 地域防災に関して行政に望むこと |

調査方法

- | | |
|----------|---|
| (1) 調査地域 | <u>静岡市、清水市、由比町、焼津市、島田市、藤枝市、川根町</u> |
| (2) 調査対象 | <u>20代から70代までの男女で</u>
<u>4月3日の地震が起きた際に、静岡県中部にいた人 400人</u>
<u>(400サンプル回収するために、訪問した件数=415件)</u> |
| (3) 調査方法 | <u>エリアサンプリングによる無作為抽出</u>
<u>(性・年代を考慮して20サンプル/地点)</u> |
| (4) 調査期間 | <u>平成13年4月12日(木)～4月15日(日)</u> |
| (5) 調査主体 | <u>財団法人 静岡総合研究機構 防災情報研究所(所長 井野 盛夫)</u>
<u>株式会社 サーベイリサーチセンター(本社 東京 代表取締役 藤澤 士朗)</u> |
| | <u>上記2団体による共同調査</u> |
| (6) 調査実施 | <u>株式会社 サーベイリサーチセンター 静岡事務所</u> |

回収状況

全 体	男性	女性	合 計
20代	23	27	50
30代	36	38	74
40代	36	35	71
50代	36	34	70
60代	35	36	71
70代	36	30	66
合 計	202	200	402

静岡地区	男性	女性	合 計
20代	11	15	26
30代	17	19	36
40代	18	17	35
50代	18	18	36
60代	17	18	35
70代	18	15	33
合 計	99	102	201

清水・庵原地区	男性	女性	合 計
20代	5	7	12
30代	10	10	20
40代	10	9	19
50代	8	7	15
60代	9	9	18
70代	8	8	16
合 計	50	50	100

志太・榛原地区	男性	女性	合 計
20代	7	5	12
30代	9	9	18
40代	8	9	17
50代	10	9	19
60代	9	9	18
70代	10	7	17
合 計	53	48	101

*調査対象数は400人であったが、予備票として2票回収できたので、今回の調査結果には含めた。

報告書を読む際の注意事項

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入している。このため、百分比の合計が100%にならないことがある。
- (2) 基数となる調査数は、N = と表示しており、回答比率はこれを100%として算出している。
- (3) 一部の設問においては、1人の回答者が2つ以上回答してもよい項目があり、その百分比の合計は100%を超える場合がある。

まとめと提言

東京大学 社会情報研究所 所長 廣井 脩

調査結果をまとめ、合わせていくつかの提言をしたい。

第一に、住民の事前の地震対策と今回の地震発生時の行動について見ると、今回の地震では建物の被害はほとんどなかったが、家の中の状況は「花瓶や額縁、人形ケースなど比較的小さいものが倒れたり、落下した程度」という回答が15.9%あり、一部で震度5強を観測した静岡市では22.9%となっていた。また、事前の地震対策として、家具を「大部分固定している」人が10.2%、「一部固定している」人が36.8%と合計しても半数以下である。家具の固定の重要さは、今までもしばしば強調され、行政としても対策をとってきたが、この調査結果を見ると、住民の間にまだ徹底しているとは言い難い。改めて、家具の固定の徹底をはかる必要がある。また、地震発生直後の行動として、「じっと様子を見ていた」という回答が最も多く、62.2%となっているが、深夜であり寝ている人も60.2%いたことを差し引いても、とっさの行動として「机などの下にもぐった」「ふとんをかぶった」等の身を守る行動を取るべきだったのではないかと思う。こうした行動からも、防災知識の風化がうかがえ、地震発生時の対応行動についても広報の徹底が必要であろう。

第二に、解説情報の発表とその受け取り方について見ると、今回の地震では、地震発生後、2時間余り経過した午前2時、気象庁が解説情報を発表した。解説情報は緊急性が小さいから、ふつう執務時間内（平日の昼間）に発表することになっているが、今回は異例の措置をとったわけである。人体に感じない地殻活動の場合には、今まで通りの原則でいいが、今回の地震は住民をびっくりさせるくらい大きく、中には、この地震が東海地震の前震ではないかと思った人がいたようなので、このような時には、たとえ休日であろうと夜間であろうと、住民の不安を解消するために、臨機応変に情報を出すことが必要であり、その意味で、今回の気象庁の対応は適切であった。この発表は一部のテレビ・ラジオで即刻伝えられた。したがって、こうしたテレビ・ラジオ等の放送によって解説情報を得た人がほとんどだが、「解説情報であることも知っていて内容まで知っている」人が12.4%、「解説情報であることは知らなかったが、内容は知っている」人が15.7%、「解説情報が発表されたのは知っているが、内容まではわからない」人が11.2%となり、住民の受け取り方はバラバラであった。現在、静岡県等の行政機関は、解説情報は、直接は東海地震に関連したものではないという判断から、積極的に住民に広報しない方針をとっている。しかし、解説情報は当面の安心情報という意味も持っているため、相当規模の地震の場合には、安心情報として、住民に知らせることも検討していいのではないか。調査結果の「行政に力を入れて取り組んでもらいたい防災対策」の設問で、「災害時の正確かつ迅速な情報を伝える体制を充実させる」という回答が48.0%と最も高くなっているのは、住民が、行政からも情報を伝えてもらいたいと考えていることを示すものである。解説情報の伝達方針とその方法について、あるいはマスメディアと行政のサイドの広報の連携について、検討が必要であろう。

第三に、解説情報の内容である。今回の解説情報は、「想定される東海地震と結びつくものではないと判断しています」という内容であった。しかし、解説情報は、正確にいえば、長期的にみれば東海地震と関係あるかもしれないが、現在の状況は東海地震と直接的に関係するものではないという意味の情

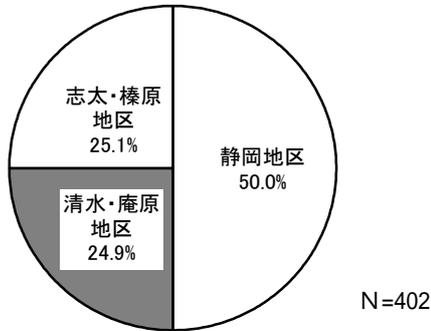
報であり、現に、平成11年5月に出された第1号は、「この活動が東海地震に直接つながるものとは考えていません」という内容になっている。前述したように、確かに解説情報は安心情報の意味を持っているが、同時に、地震活動や地殻活動に何らかの変化がある場合（それだけではないが）に出すものであり、これをきっかけにして、強化地域の住民に改めて東海地震のことを想起してもらい、地震対策を考えてもらうという、防災上の意味も持っている。こういう観点から、長期的な意味での東海地震との関連性、および当面の安全性を含め、「当面は東海地震と結びつくものではない」とか「直接は東海地震に結びつくものではない」とする方が良かったと思われる。また、文章上の問題をいえば、今までの解説情報は、まず観測事実を列挙し、最後に結論として、「東海地震と結びつくものではない」という形を取っている。しかし、わかりやすさからいえば、むしろ、まず「今回の は、東海地震と結びつくものではない」と結論を先に出し、その理由を後半に持っていくという形の方がいいのではないかと、気象予報部の警報・注意報の発表における、見出し文と本文の関係のような表現法の方がいいのではないかと、ということである。

昨年夏に発生した新島・神津島の群発的地震や、東海地震が迫っているという学識経験者のシナリオなどがあり、東海地震が近くなったという気持ちを持っている住民が最近増加している。そのため、今回の地震では、「東海地震に結びつくものではないが、引き続き注意すべきと思った」人が63.7%、「東海地震の発生の可能性をより強く意識した」人が29.6%もいた。また、東海地震が起こる可能性についても顕著な傾向が見られ、平成11年10月～11月にかけて静岡県防災局が実施した『東海地震についての県民意識調査』（以降「県民調査」と略す）結果と比較すると、「非常に深刻に受け止めている」という回答は県民調査が9.3%であるのに対して、今回では18.4%となり、「深刻に受けとめている」は県民調査が24.1%、今回が29.4%となっている。今回の地震は、住民の東海地震への関心を、（おそらく一時的に）高めたといえよう。これを契機に、低下しつつあるといわれてきた防災意識を向上させねばならない。とりわけ、今回の地震をきっかけに耐震診断の必要があると回答した人が27%程おり、また、耐震補強の意向も20%程度となっているので、現在、県が積極的に推進しようとしている、「トウカイゼロ」施策にさらに力を入れる必要がある。

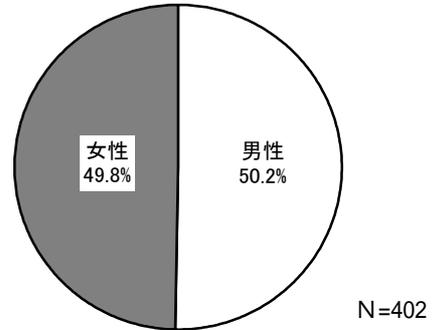
第五に、今回の地震では、「静岡で震度5強」という表現が新聞やテレビ・ラジオで大きく扱われていた。いわば今回の地震の「キーワード」といってもいい。けれども、震度5強を実際に観測したのは静岡市のごく一部の観測点であり、市内でもそれ以外は震度4、また周辺の揺れは震度4、或いは震度3であった。しかし、ほとんどのマスコミは、地域別の細かい震度を積極的に発表しなかったから、多くの市は「震度5強」を過小評価してしまった。調査結果を見ると、問12の「地震を体験しての感想」で、「非常に強い揺れであったが、これで震度5強なら大丈夫だと思った」という回答が26.9%、「震度5強はこの程度なのかとやや安心した」という回答が27.9%もあったのである。この回答は静岡市の住民でも両者合わせると53.8%と過半数を占め、焼津では90.0%にも達している。今回の経験で「震度5強」でも「ほとんど被害がない」と思うてしまうのは、危険なことだと思う。震度とは、計測震度計が置かれている場所の「点の情報」であり、自分が住んでいる地域全体の揺れではないことを住民に知ってもらうとともに、マスコミ、とりわけ県紙や全国紙・ブロック紙の地方版、県内のテレビ・ラジオ・CATVなどは、各地点の震度をきめ細かく報道する必要がある。また、市町村も、わが町の揺れを同報無線などを通じて、きめ細かく伝える必要があるのではないかと。

回答者の属性

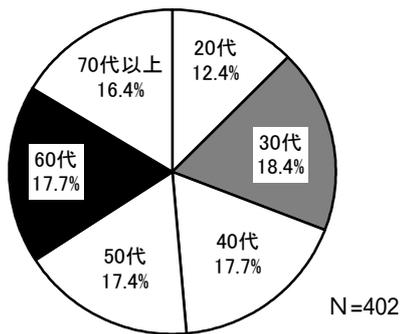
< 居住地別 >



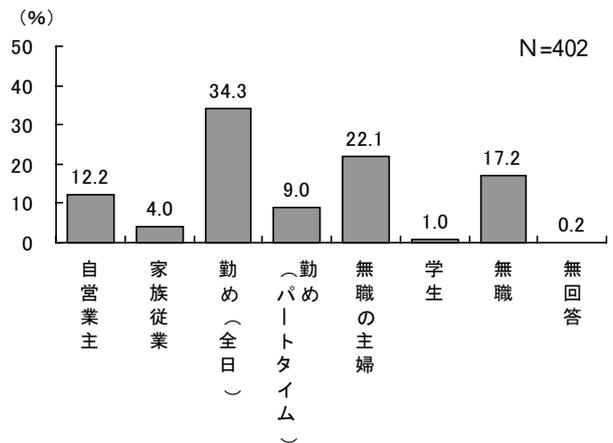
< 性別 >



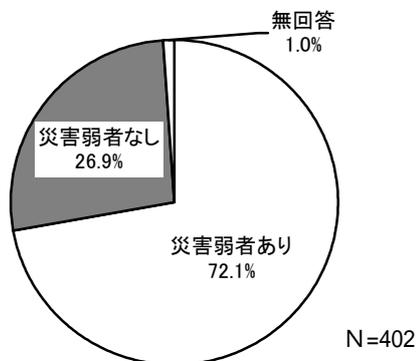
< 年代別 >



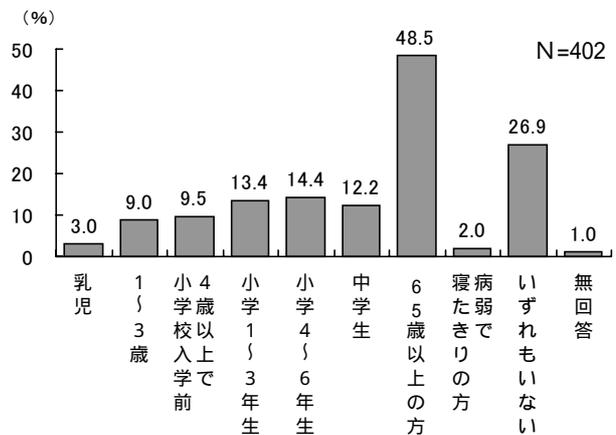
< 職業別 >



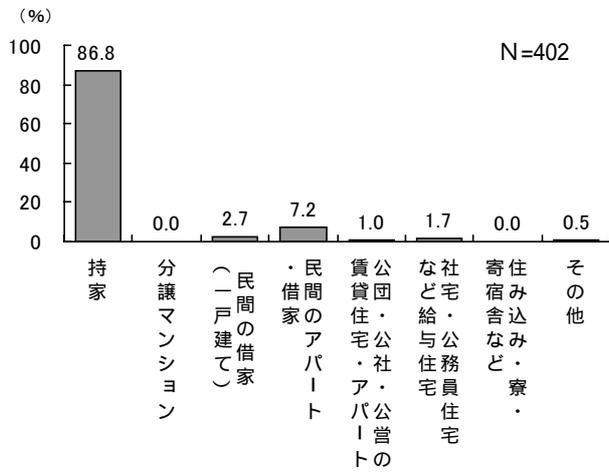
< 災害弱者の有無別 >



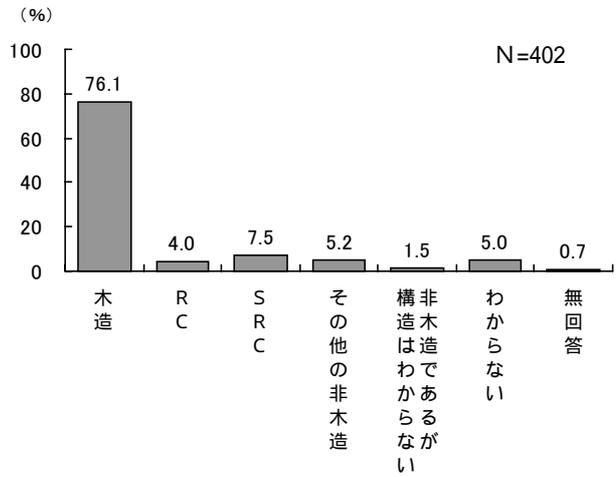
< 同居家族 >



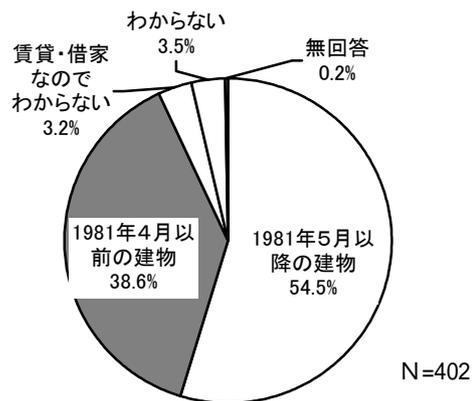
< 住居形態別 >



< 住居構造別 >



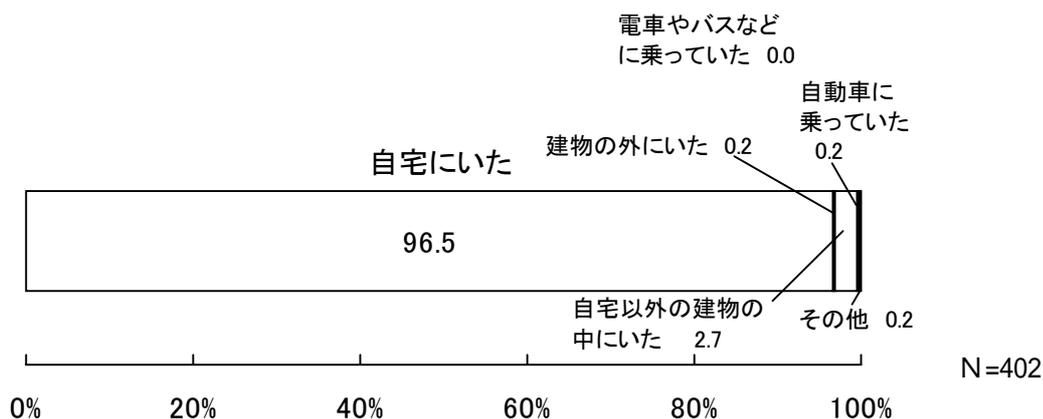
< 建築年代別 >



調査結果

1. 地震発生時の状態

問1 平成13年4月3日(火)23:57分頃、静岡県中部を震源(深さ33km)とするM5.1の地震が発生しました。あなたは、この地震が発生した時にどこにいらっしゃいましたか。

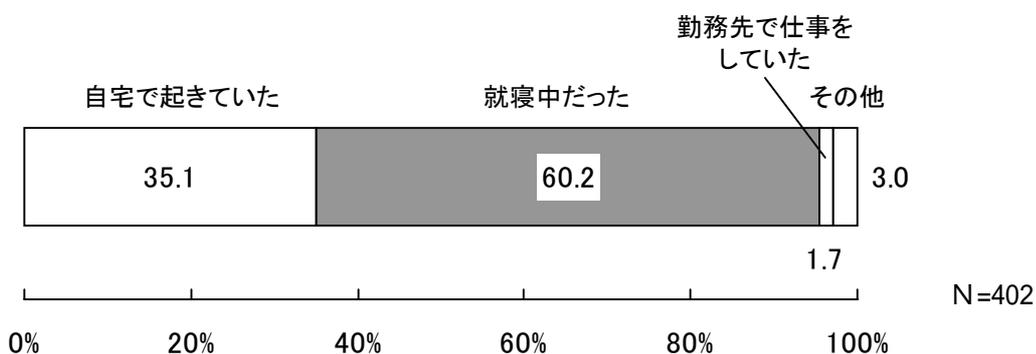


96.7

2.7

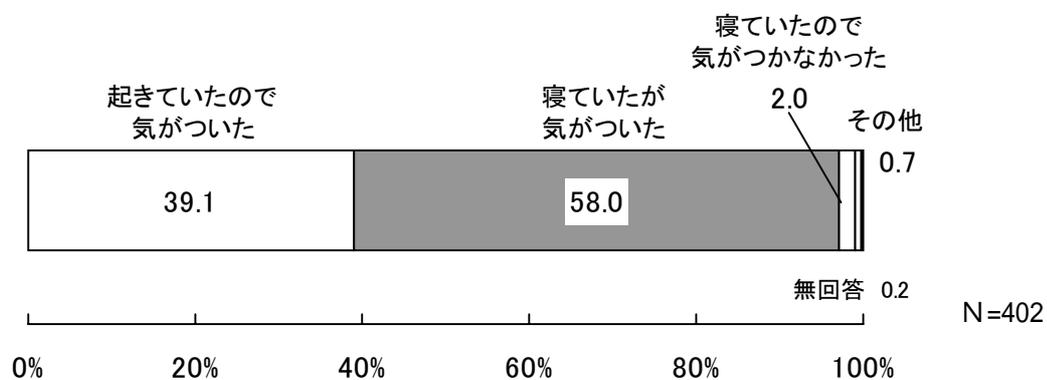
今回の地震は深夜に発生したため、「自宅にいた」が96.7%と、大半を占めている。「自宅以外の建物」を含めると、ほぼ全員が屋内で地震を体験している。

問2 あなたは、この地震が発生した時、何をしていましたか。



地震発生時の状況は、「就寝中だった」が60.2%と、半数以上を占めている。次いで「自宅で起きていた」が35.1%となっており、この2項目で大半を占めている。

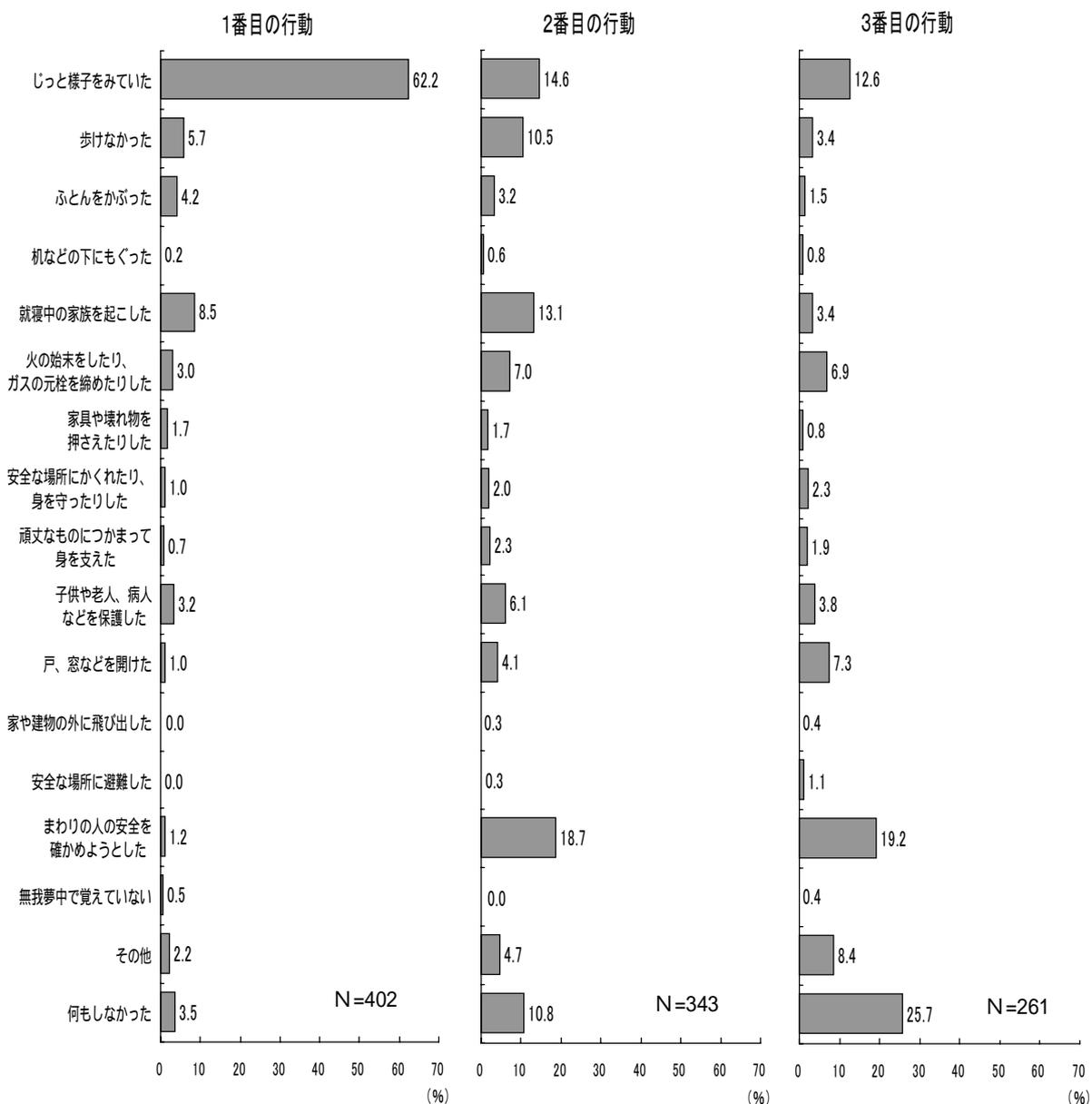
問3 あなたは、この地震が起きた時、その時点で気がつきましたか。



地震発生時に就寝中の回答者が6割いたが、その大半は地震が発生したことに気づいている。また、「寝ていたので、気がつかなかった」人が2.0%（8人）となっている。

2. 地震で揺れている間の行動

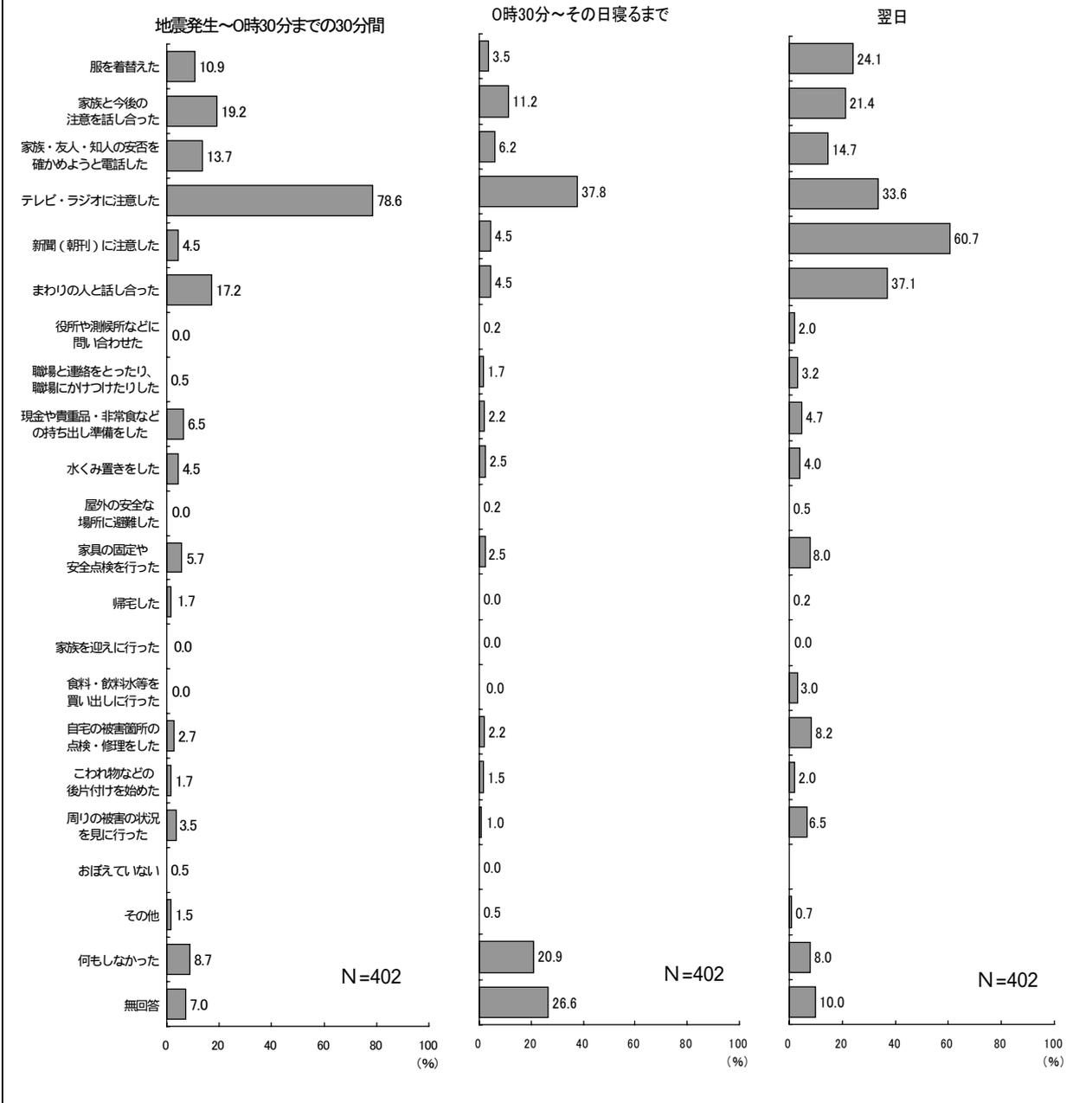
問4 地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、あなたはとっさにどんなことができましたか。あなたが行った行動を、最初にしたものから順に3つまで教えてください。



揺れがおさまる間のまず最初の行動は「じっと様子を見ていた」が62.2%と、6割以上を占めている。その後は「就寝中の家族を起こした」や「まわりの人の安全を確かめようとした」といった行動が多くなっている。

3. その後の行動

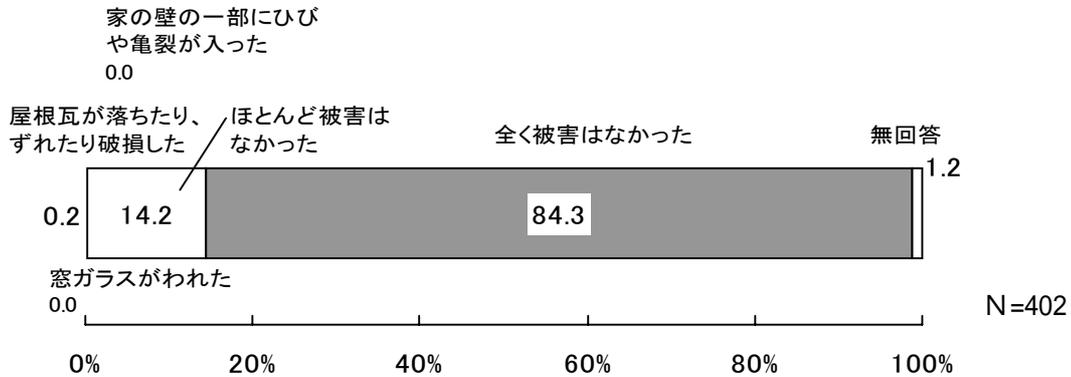
問5 地震の揺れがおさまった後、あなたは何をしましたか。時間帯別にあてはまるものを全てお答えください。



揺れがおさまった後の30分間は8割近くが「テレビ・ラジオに注意」して、情報収集を行っている。翌日になっても情報収集は続いているが、その媒体は「新聞(朝刊)」や「まわりの人」へと移行している。

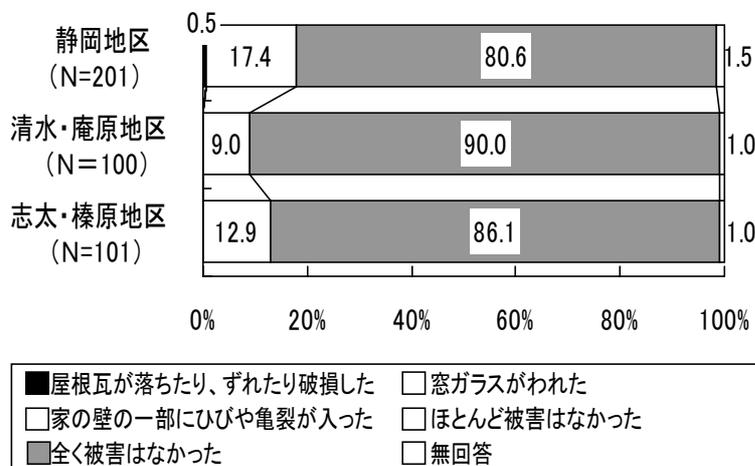
4. 被害状況

問6 お宅では家屋（建物）に被害がありましたか。次の中から1つだけお答えください。



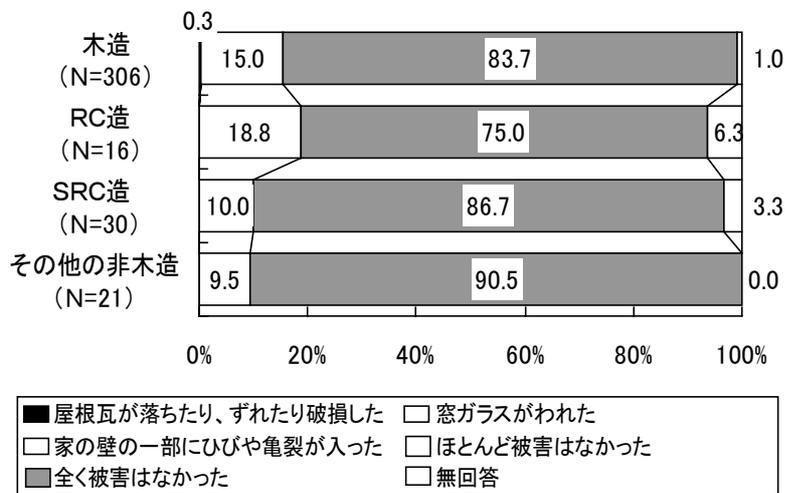
家屋（建物）は「全く被害はなかった」が 84.3%と大半を占めており、「ほとんど被害はなかった」を含めると、ほとんどの家屋に被害はない。

<居住地別>



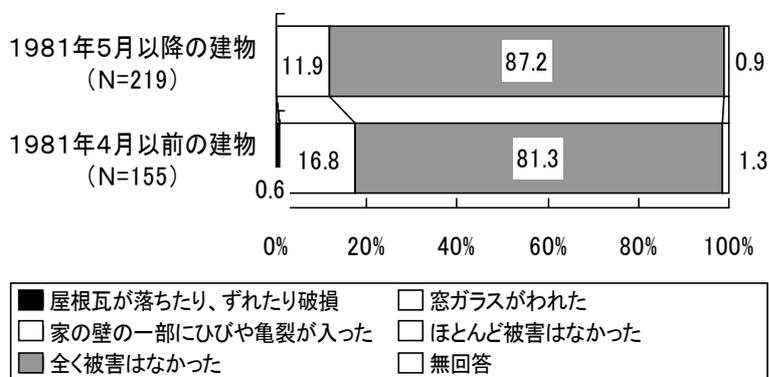
居住地別にみると、被害が発生したのは静岡地区で、「屋根瓦が落ちたり、ずれたり破損した」家屋が 0.5%となっている。しかし、それ以外の被害は特にみられず、「ほとんど被害はなかった」が 1～2 割弱、「全く被害はなかった」が大半を占めている。特に清水・庵原地区は「全く被害はなかった」が 9 割と高い。

< 住居構造別 >



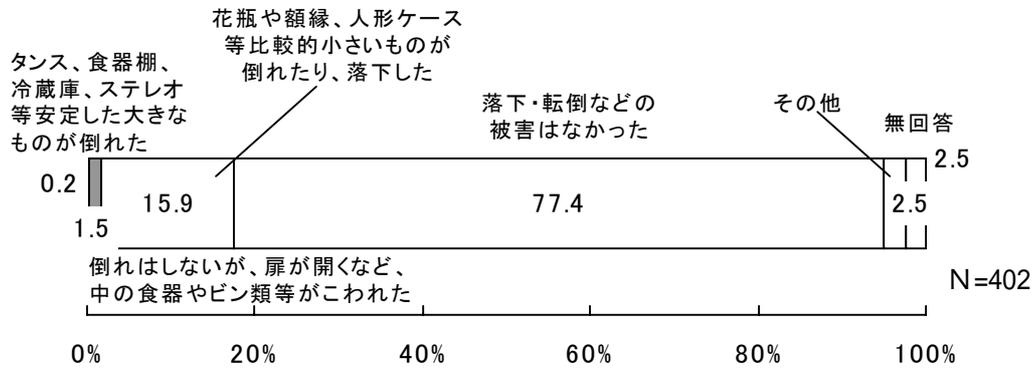
住居構造別にみると、サンプル数に偏りがみられるが、家屋の破損がみられるのは木造のもので、「屋根瓦が落ちたり、ずれたり破損した」が 0.3%となっている。「ほとんど被害はなかった」はRC造で 18.8%と他の構造に比べ高く、「ほとんど」「全く」両者を合わせた「被害はなかった」がほとんどを占めている。

< 建築年代別 >



家屋の建築年代別にみると、1981年4月以前(古い耐震基準)に建てた家屋に被害がみられ、「屋根瓦が落ちたり、ずれたり破損した」が 0.6%となっている。

問7 では、家具など家の中はどのような状況でしたか。次の中からあてはまるものを1つだけお答えください。

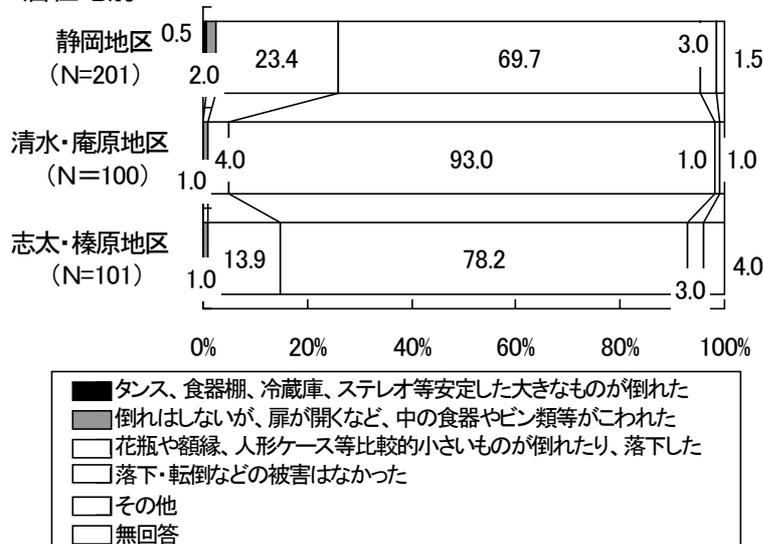


\$ 5.9

家の中の状況は、「落下・転倒などの被害はなかった」が 77.4%と 8 割近くを占めている。何らかの被害の発生は 15.9%で、そのほとんどは小さな物の転倒、落下が占めている。

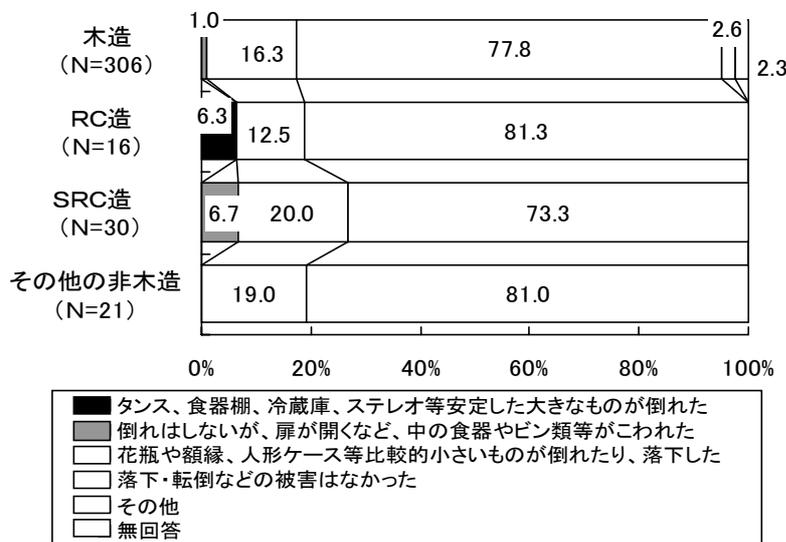
また、被害の具体的な内容については 67 ページ以降に一覧表で記載した。

< 居住地別 >



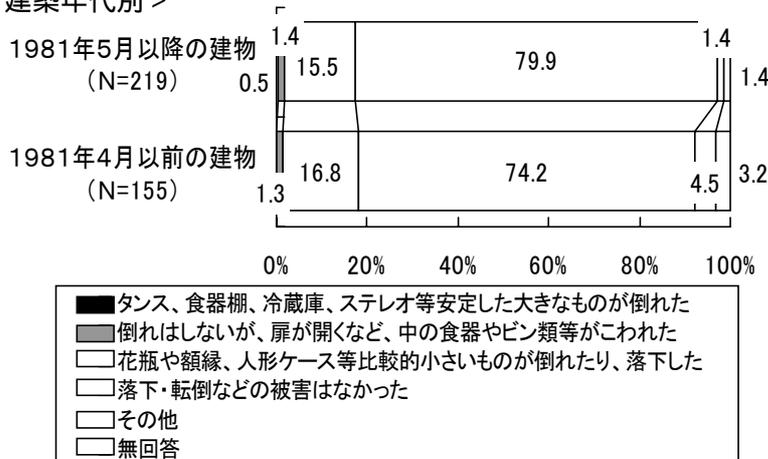
居住地別にみると、静岡地区での被害が多く、「安定した大きなものが倒れた」が 0.5%、「倒れはしないが、扉が開くなど、中の食器やビン類等がこわれた」が 2.0%、「比較的小さいものが倒れたり落下した」が 23.4%で、合計 25.9%の屋内で何らかの被害が発生している。清水・庵原地区は「被害はなかった」が 9 割を占めている。

< 住居構造別 >



住居構造別にみると、サンプル数に偏りがあるものの、RC造の建物において「安定した大きなものが倒れた」が6.3%（1件）となっている。また、比較的被害の大きいといえる「倒れはしないが、扉が開くなど、中の食器やビン類等がこわれた」はSRC造で6.7%と目立っている。「小さいものが倒れたり、落下した」はいずれも1～2割を占めている。

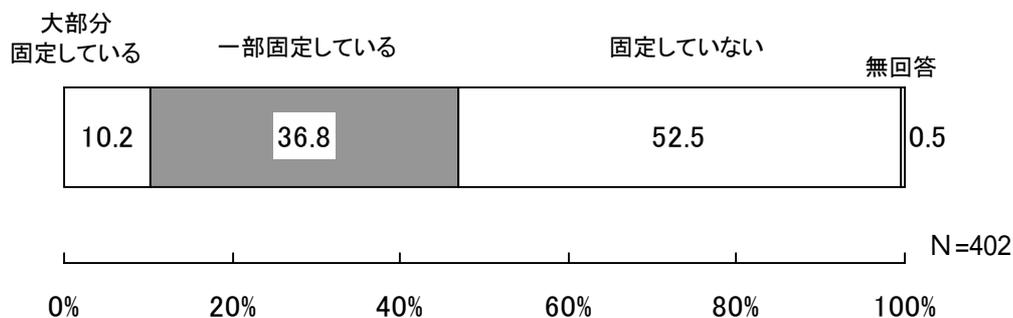
< 建築年代別 >



家屋の建築年代別にみると、被害の割合に大きな違いはみられないが、「安定した大きなものが倒れた」に回答があったのは新しい耐震基準の建物で、0.5%となっている。

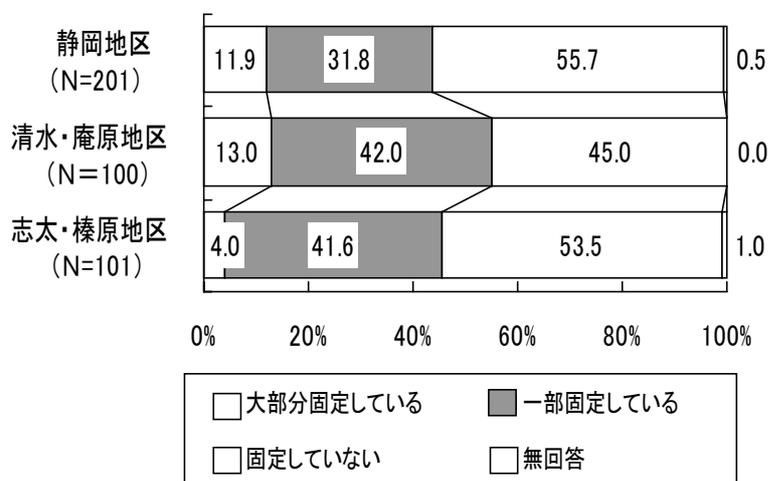
5. 家具の固定状況

問8 お宅では、地震に備えて家具の固定をしていますか。



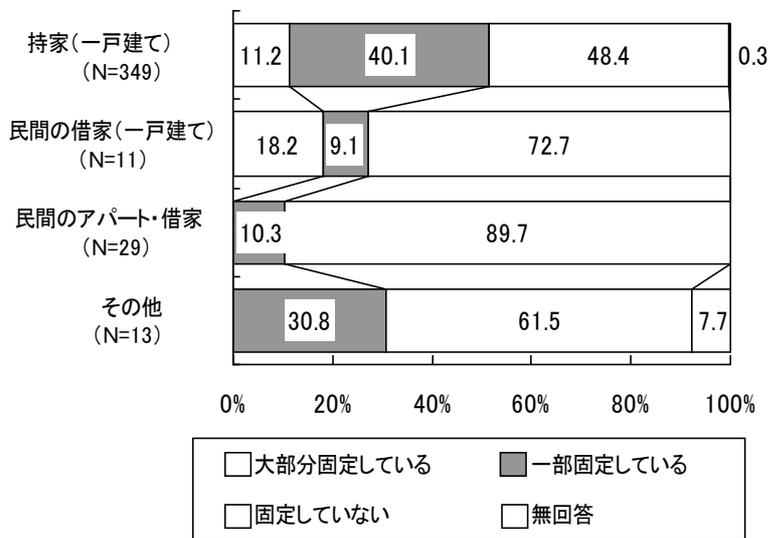
地震に備えた家具の状況は、「固定していない」が 52.5%と過半数を占めている。「大部分固定している」は 10.2%で僅か 1 割にとどまっている。

<居住地別>



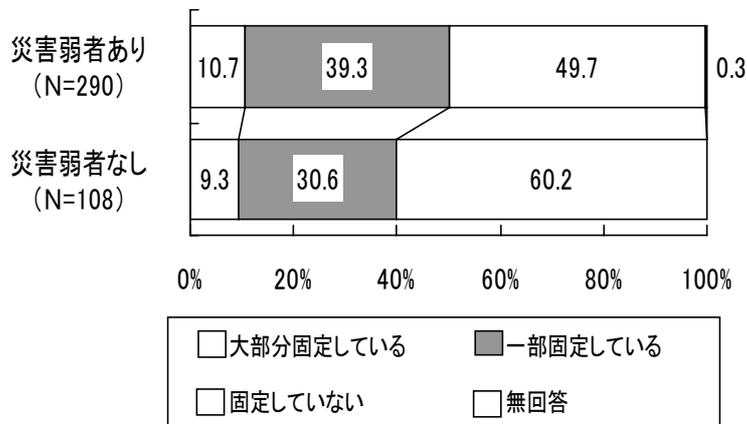
居住地別にみると、清水・庵原地区は固定している割合が過半数を占めている。一方、志太・榛原地区では「大部分固定している」が少なく、4.0%にとどまっている。

< 住居形態別 >



居住形態別にみると、「一部」を含む「固定している」は持家で多く、過半数を占めている。民間のアパート・借家では固定は「一部」で1割にとどまっており、『できない』ケースが多いことがうかがえる。

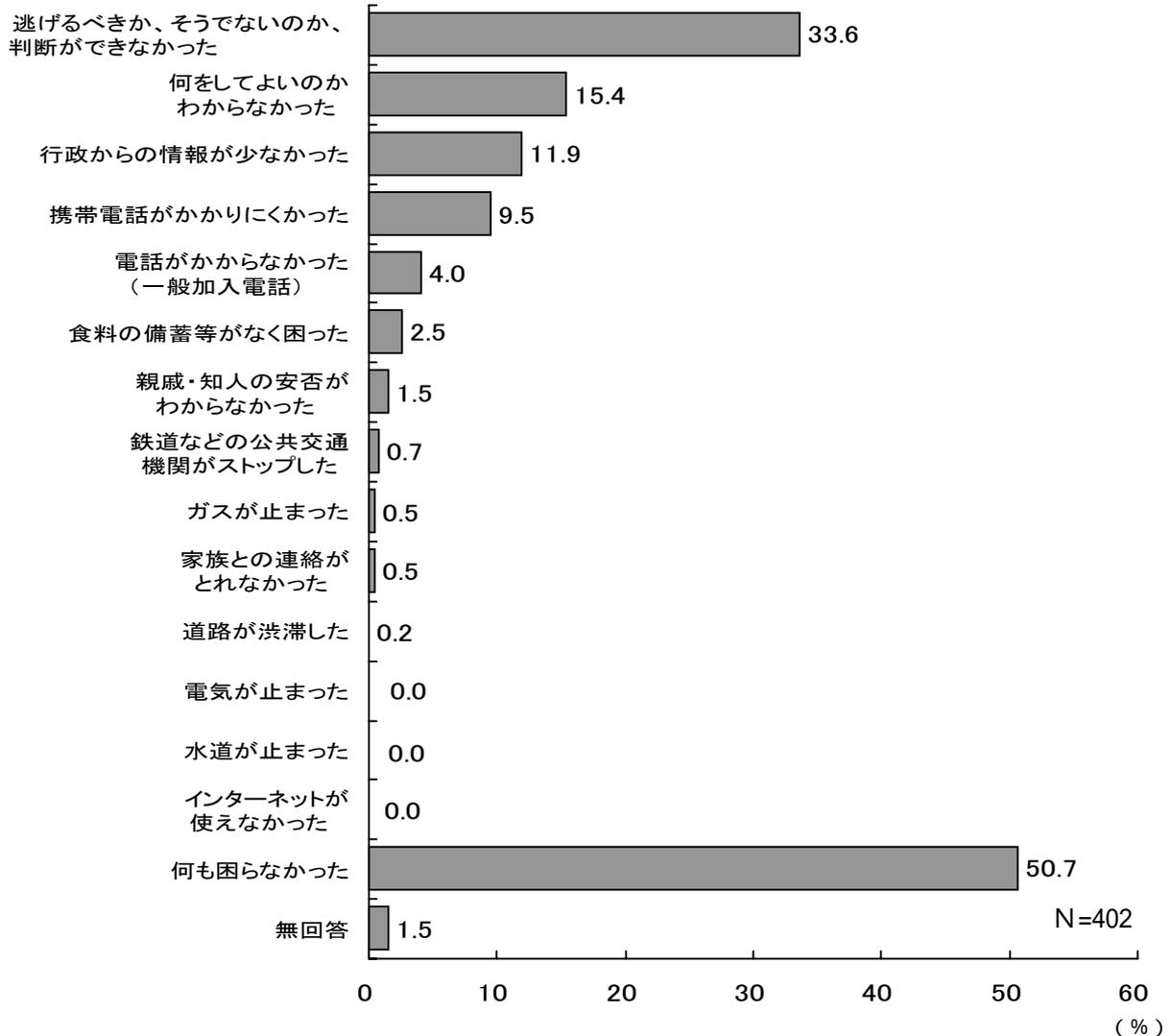
< 災害弱者の有無別 >



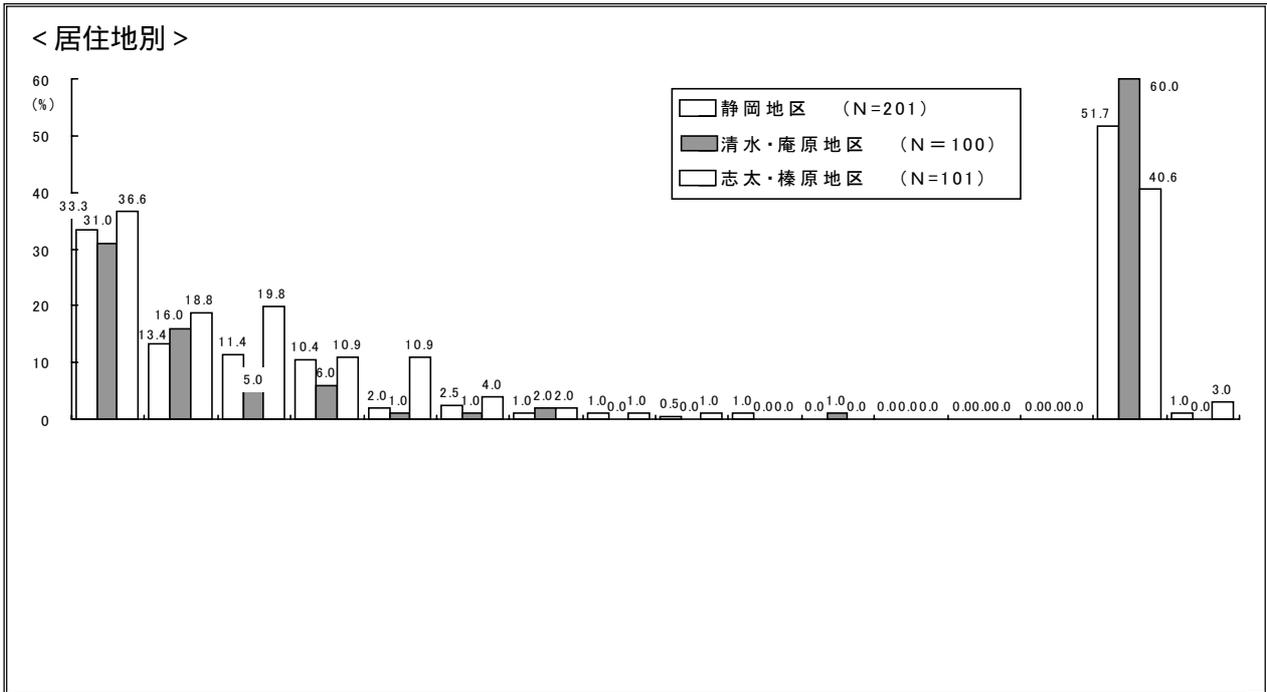
災害弱者の有無別にみると、災害弱者のいる家庭は「一部」を含めて「固定している」割合が高く、50.0%と過半数に達している。

6. 地震で困ったこと

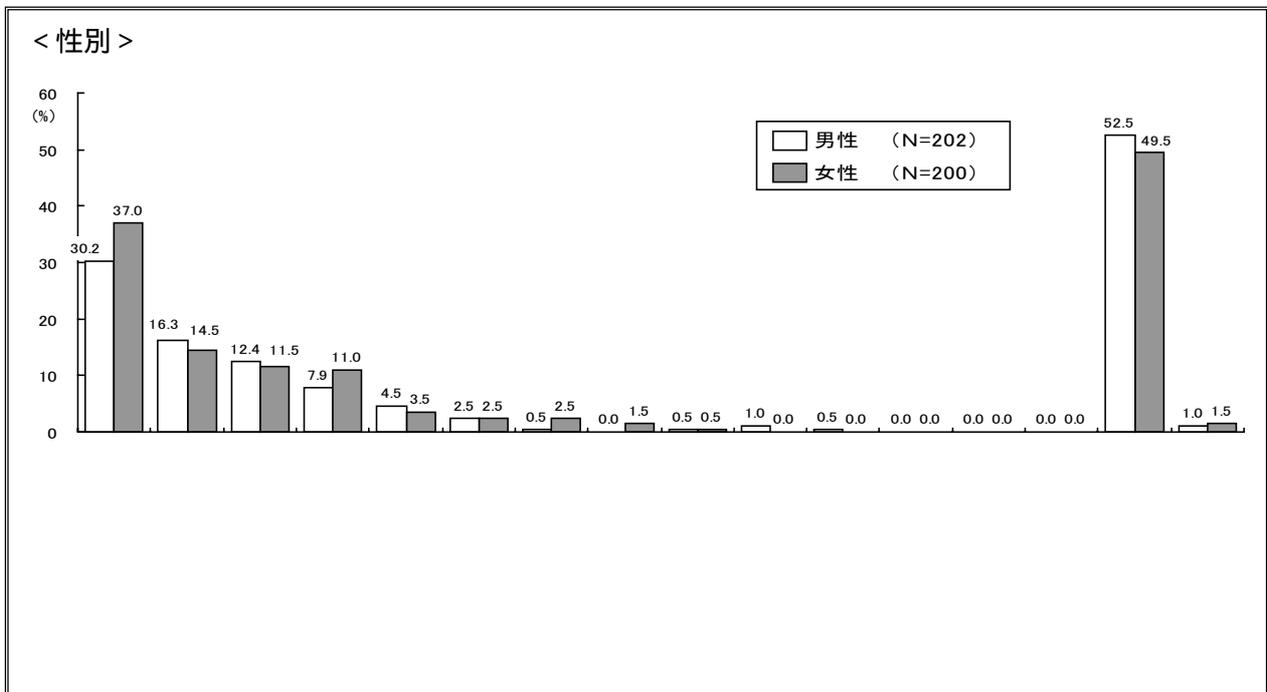
問9 あなたは今回の地震で何が最も困りましたか。次の中からあてはまるものを3つ以内でお答えください。



今回の地震では「何も困らなかった」人が過半数を占めているが、困ったことの中で最も回答の多い項目は、「逃げるべきか、そうでないのか、判断ができなかった」で33.6%、次いで「何をしてよいのかわからなかった」が15.4%となっている。これら上位の項目は、揺れがおさまるまでの行動に関連していることがうかがえる。



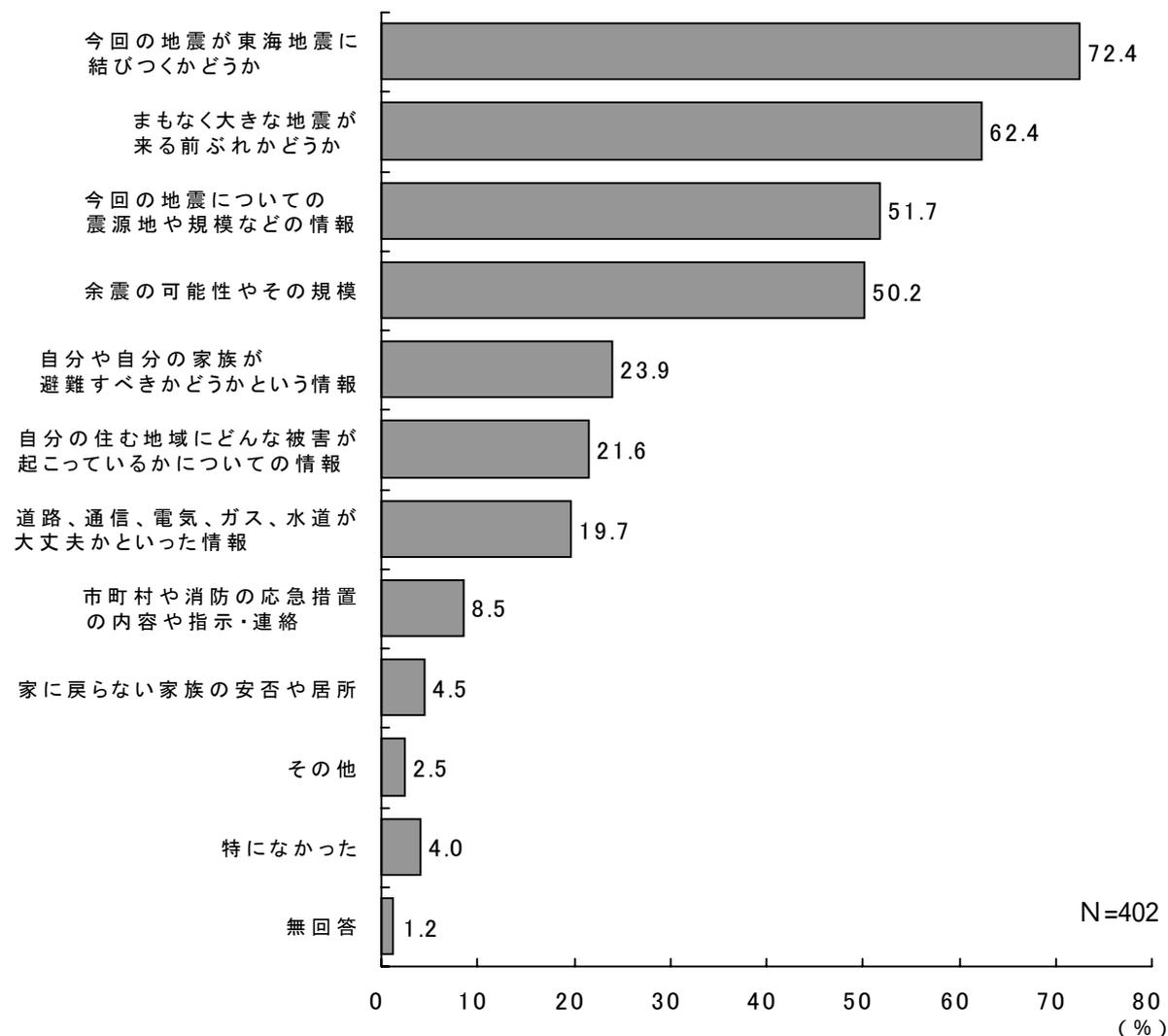
居住地別にみると、上位項目はいずれも志太・榛原地区の回答が多く、特に「行政からの情報がなかった」「電話がかからなかった」は他地区に比べて著しく多い。全体で最も多い「判断ができなかった」については、いずれの地区も30%台となっている。



性別では、「逃げるべきか、そうでないのか、判断ができなかった」は女性が男性を6.8ポイント上回り、37.0%となっている。また、女性は「携帯電話がかかりにくかった」が男性より多い。

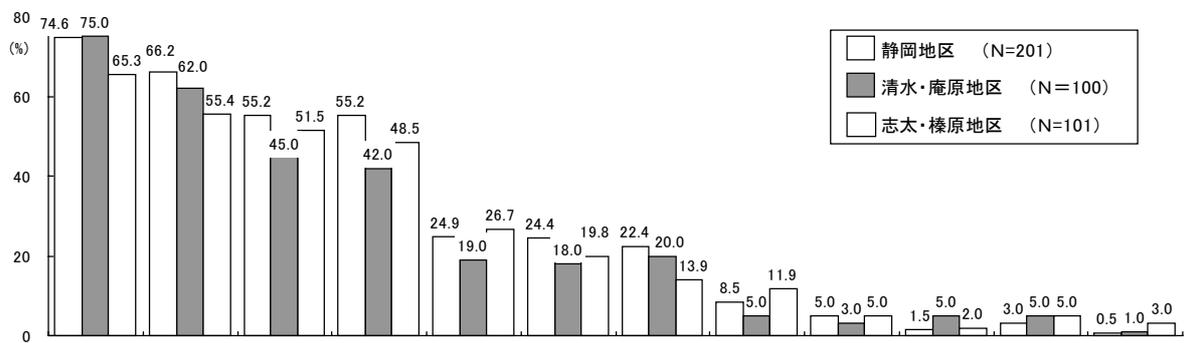
7. 地震直後の情報ニーズ

問 10 地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。次の中からあてはまるものをいくつかでもお答えください。



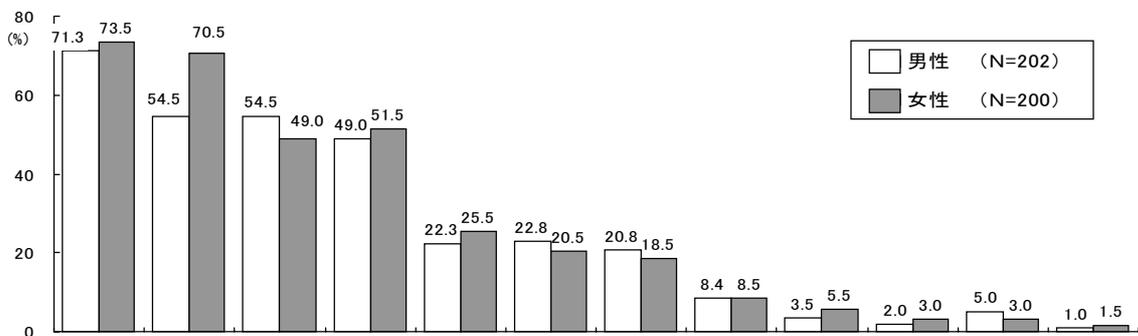
地震直後に必要な情報は「今回の地震が東海地震に結びつくかどうか」が 72.4%で最も多い。また、震源地、規模、余震といった今回の地震そのものに関する情報はいずれも過半数を占めている。一方、被害、避難など地震発生後の状況については1割～2割にとどまっている。

< 居住地別 >



居住地別にみると、全体で上位にあがっている地震そのものに関する情報は、静岡地区で多い。また、揺れが比較的小さかった清水・庵原地区では、震源地や余震についてのニーズは他の2地区より低くなっている。

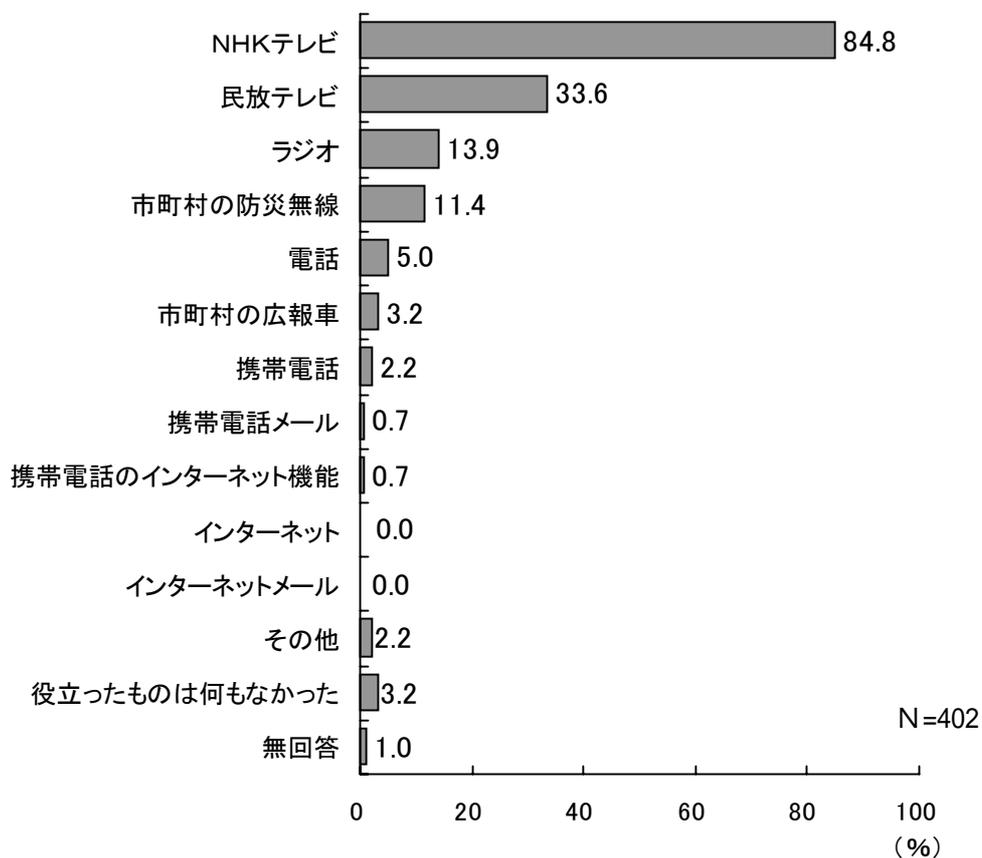
< 性別 >



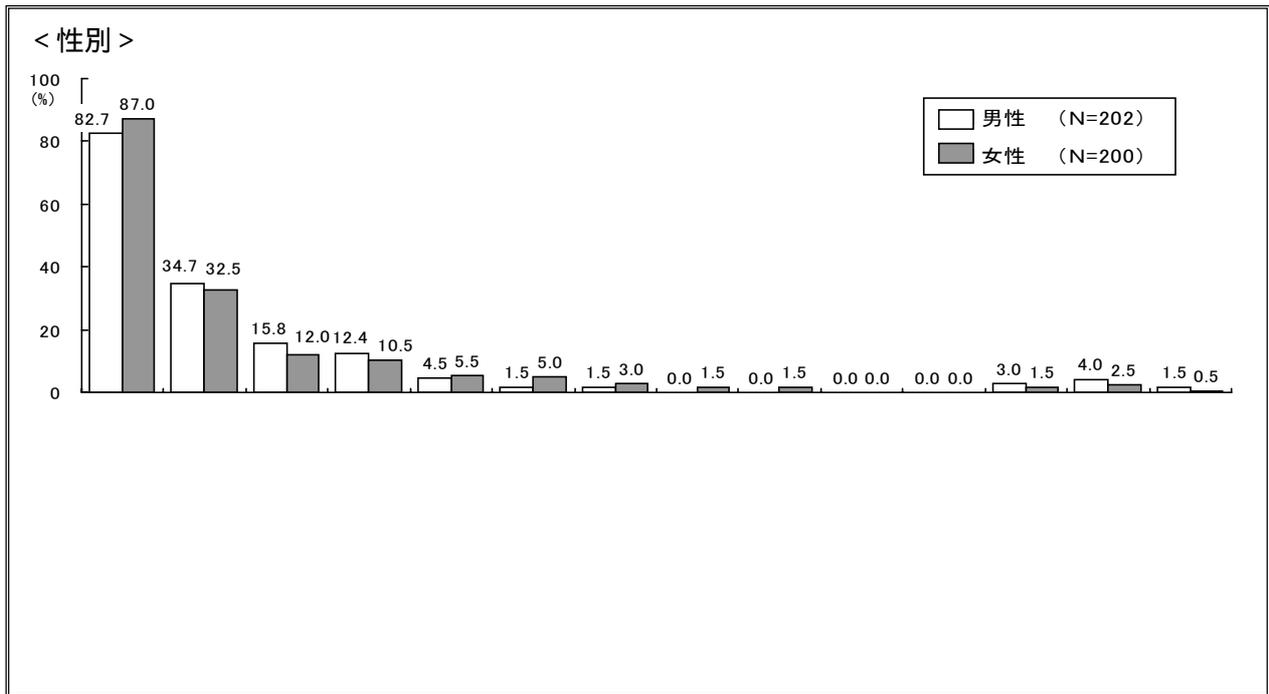
性別にみると、「その他」を含めた10項目中、7つの情報において女性のニーズが高くなっている。特に「まもなく大きな地震が来る前ぶれかどうか」は男性を16.0ポイント上回り、70.5%となっている。

8. 情報を知るために役に立った媒体

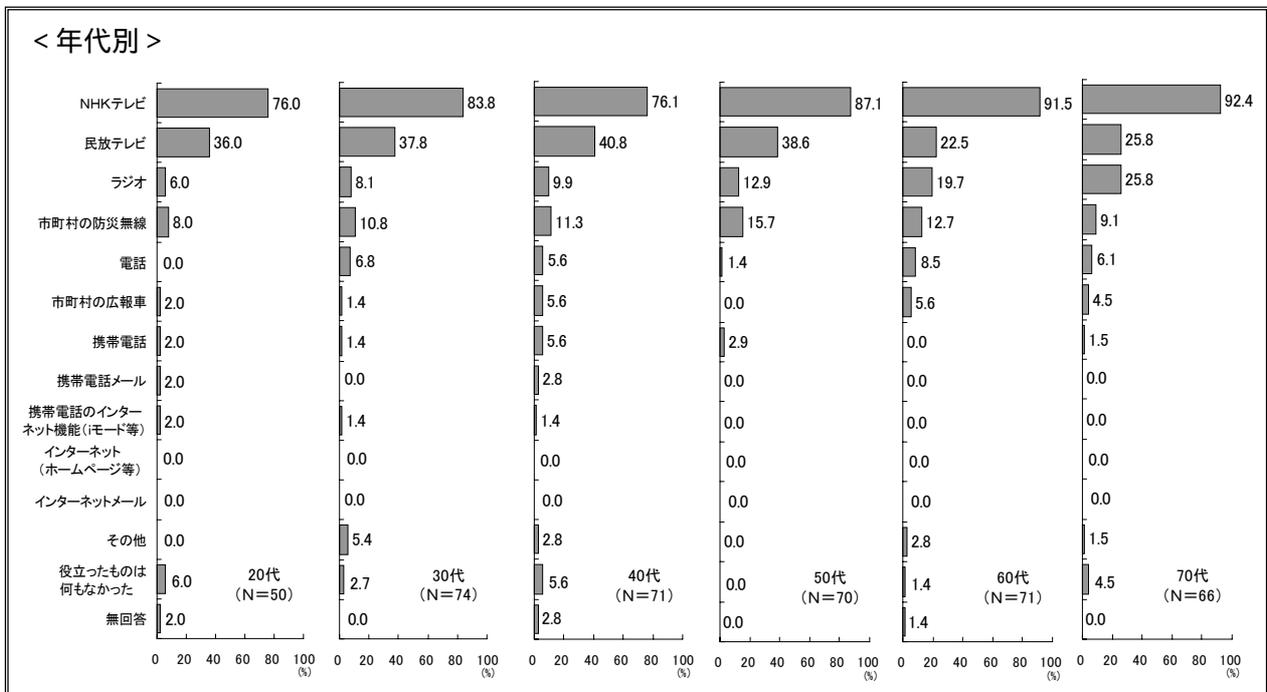
問 11 では、そのような情報を知るために役に立ったものは何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでもお答えください。



情報を知るために役立った媒体は「NHKテレビ」が 84.8%と大半を占めており、次いで「民放テレビ」が 33.6%で多くなっている。地震発生直後の行動にもみられるように、テレビによる情報収集は重要な位置を占めている。

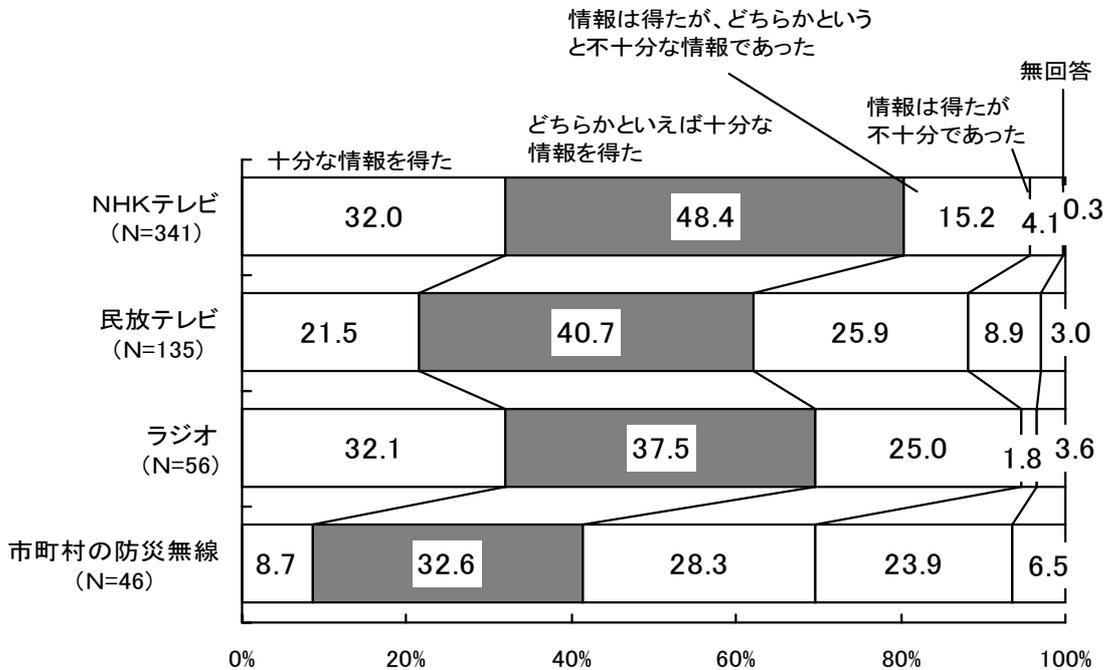


性別にみると、最も多い「NHKテレビ」は女性が男性を4.3ポイント上回り、87.0%となっている。その他の主用媒体は男性が多く、利用者の少なかった「携帯電話メール」「携帯電話のインターネット」は女性だけの回答となっている。



年代別にみると、「NHKテレビ」は高年代になるほど高い傾向がみられ、60代、70代は9割と、ほとんどがNHKテレビで情報を入手している。40代についてはばらつきがみられ、「民放テレビ」が年代中で最も高い40.0%、「メール」を含む「携帯電話」も多い。

問 11 - 1 また、それらの方法で得た情報には、どの程度満足しましたか。方法ごとに下記から選んでお答えください。

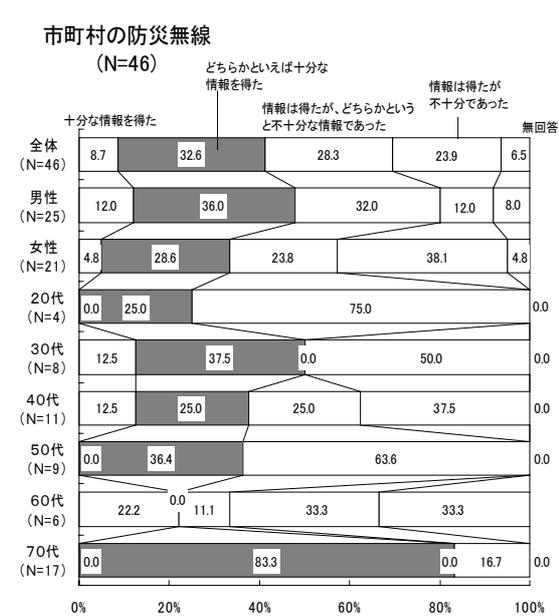
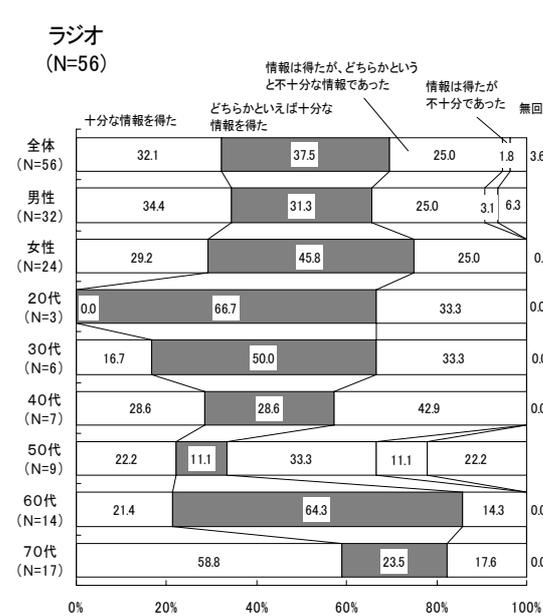
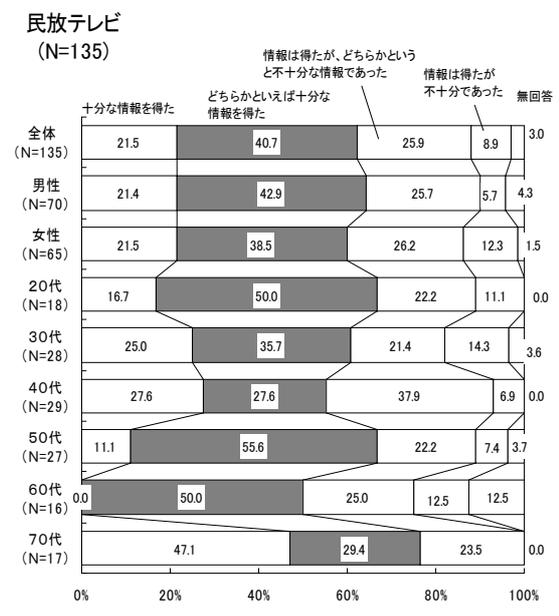
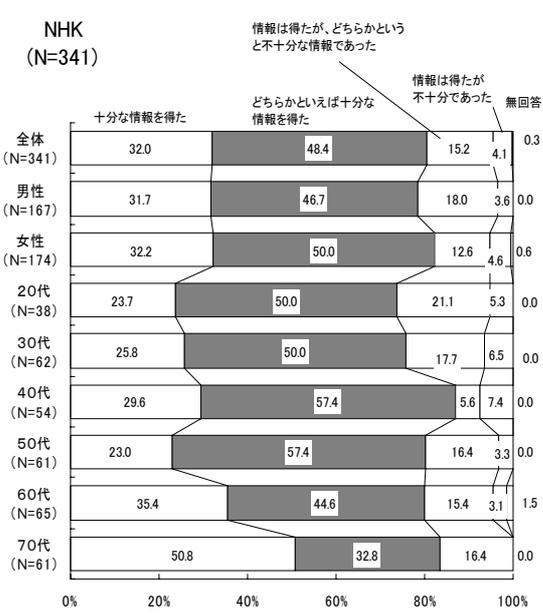


	十分な情報を得た	どちらかといえば十分な情報を得た	情報は得たが、どちらかというと不十分な情報であった	情報は得たが、不十分であった	無回答
電話 (N=20)	60.0%	25.0%	5.0%	5.0%	5.0%
携帯電話 (N=9)	44.4%	44.4%	11.1%	0.0%	0.0%
携帯電話メール (N=3)	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
携帯電話のインターネット機能 (N=3)	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
市町村の広報車 (N=13)	7.7%	23.1%	15.4%	38.5%	15.4%
その他 (N=9)	22.2%	33.3%	0.0%	33.3%	11.1%

注) サンプル数にかなり偏りがあるため、20以下の媒体に関してはグラフではなく表で記載した。

8割の人が得た『NHKテレビ』からの情報は、「どちらかといえば十分な情報を得た」が48.4%と半数近くを占め、「十分な情報を得た」と合わせると8割で、満足度は高い。

一方、約1割の回答(46人)を得た『市町村の防災無線』は、「どちらかといえば」を含む「情報を得た」割合は4割にとどまり、満足度は高いとはいえない。

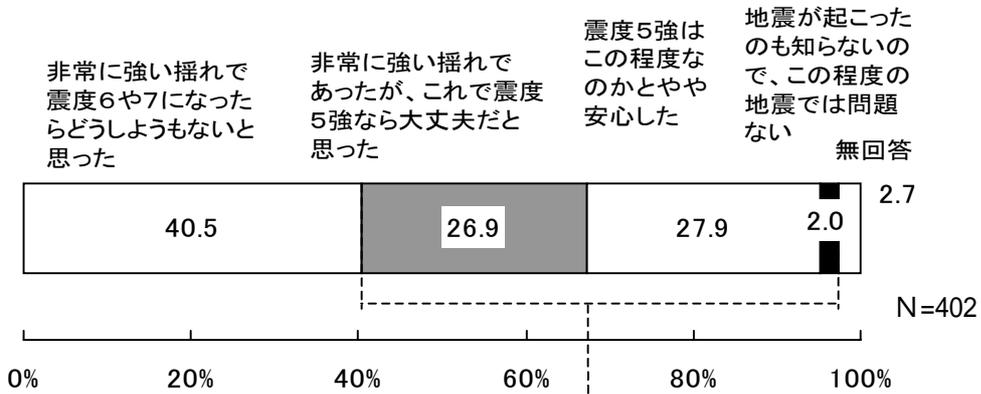


* 上記以外の媒体については、サンプル数が少ないので省略した。

情報入手媒体として利用の多い4媒体の満足度を性別にみると、女性は『NHKテレビ』『ラジオ』において、「どちらかといえば」を含めて満足度が高い。『市町村の防災無線』は差が著しく、男性の満足度が高い。年代別にみると、『NHKテレビ』は40代で満足度が最も高いことを除いて、加齢に伴い高くなっている。民放テレビは「どちらかといえば」を含む「情報を得た」が20代、50代で高く、『ラジオ』は60代以上で高い。さらに『市の防災無線』は70代で「十分な情報を得た」は皆無であるものの、「どちらかといえば」は8割を占めている。

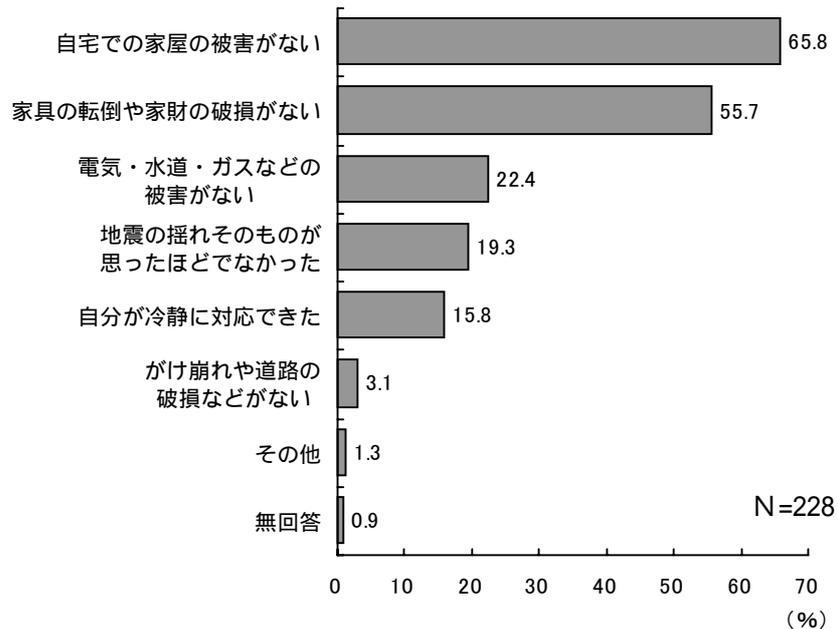
9. 今回の地震の揺れを体験して感じたこと

問 12 今回の静岡県中部を震源とする地震では、最も強い揺れは静岡市の一部で震度5強を観測しましたが、あなたはこの揺れを体験してどのように感じましたか。



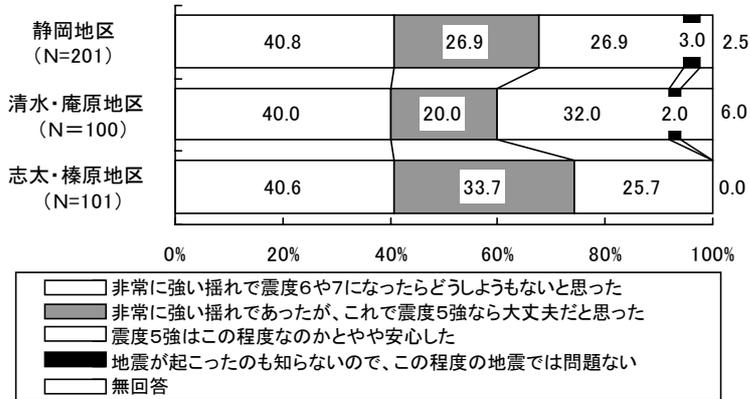
注) 無回答には、回答者の地域が震度5強ではないので答えられないという人を含める。

問 12 - 1 そう思った理由はどのようなことですか。主なものを2つお答えください。



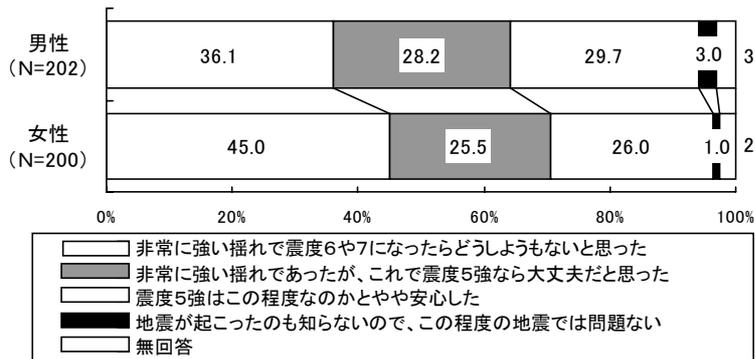
今回の地震の揺れを体験して感じたことは「非常に強い揺れで震度6や7になったらどうしようもないと思った」が40.5%で最も高い。しかし、「この程度なら」と安心感を持った人は過半数を占めている。またその理由としては、自宅内外での被害がなかったことが半数以上を占めている。

< 居住地別 >



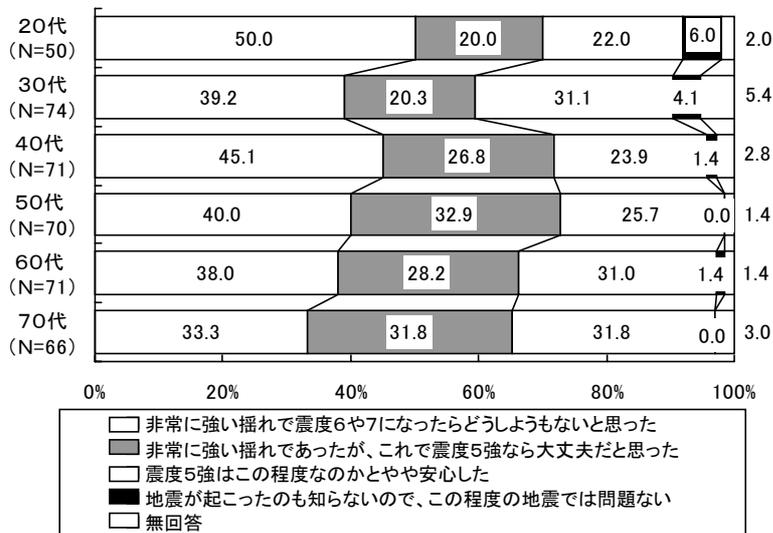
居住地別にみると、「これで震度5強なら大丈夫だと思った」は、志太・榛原地区で多く、33.7%と3割を占めている。またいずれの地区も「大丈夫だと思った」を含む安心感をもった人は、過半数を占めている。

< 性別 >

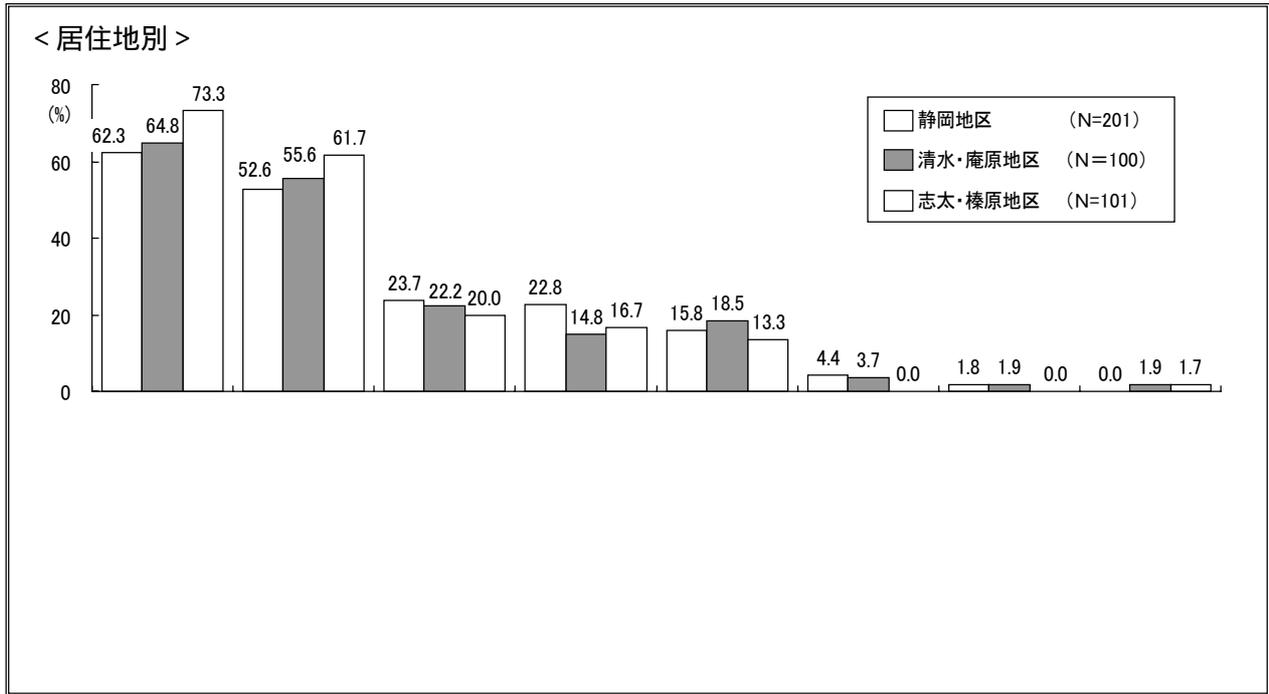


性別にみると、女性の不安が大きく、「震度6や7になったらどうしようもないと思った」は45.0%と、男性を8.9ポイント上回っている。

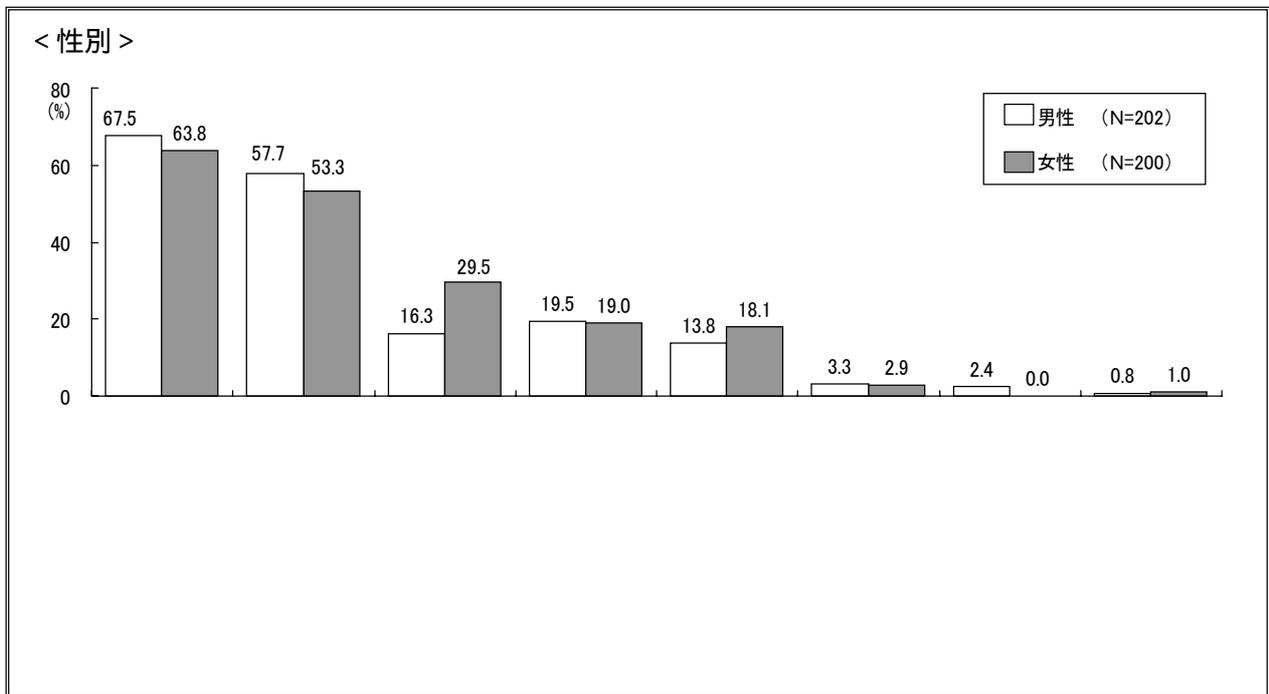
< 年代別 >



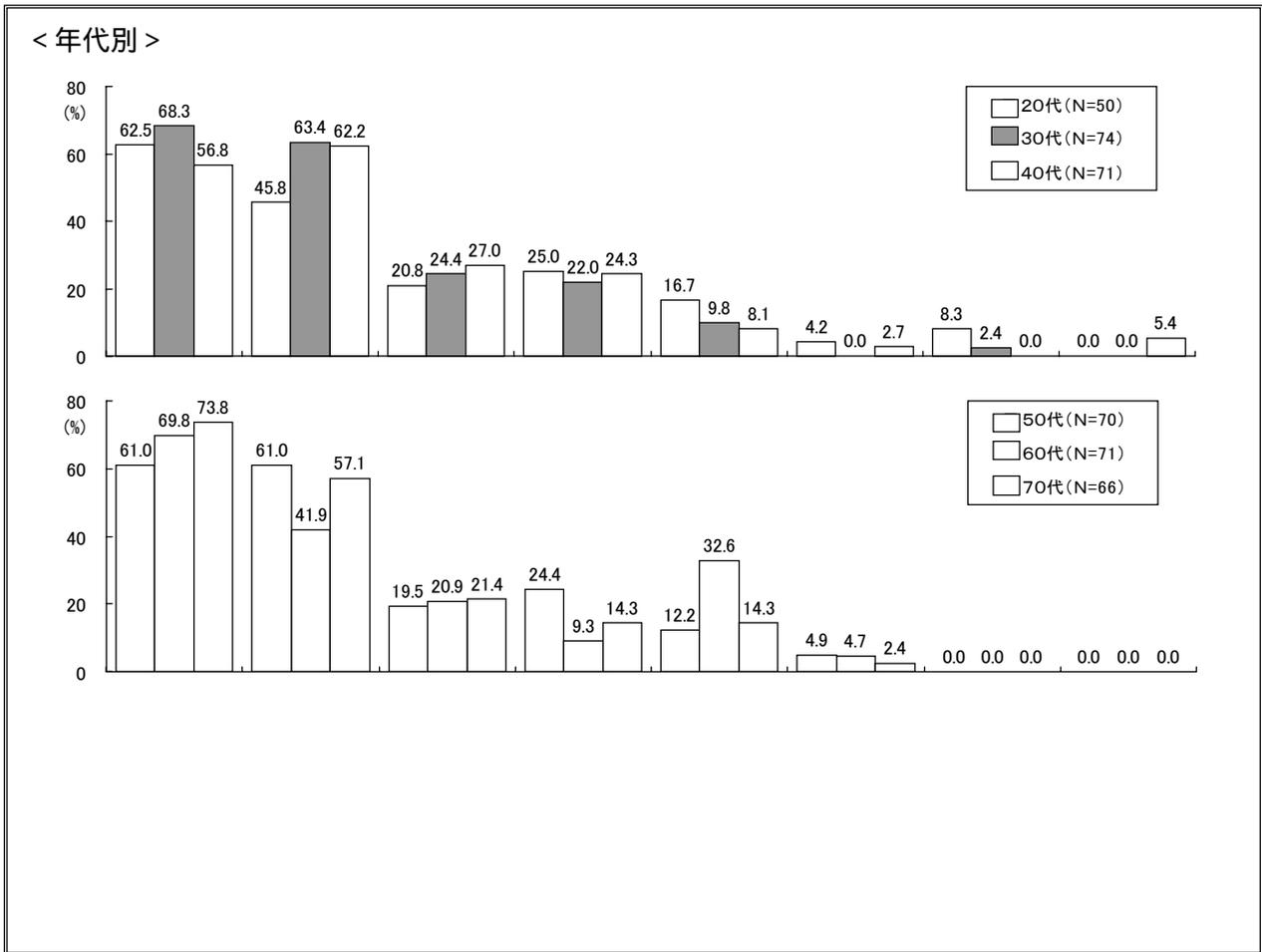
年代別では年代が高くなるにつれ不安感は減少しており、20代で「震度6や7になったらどうしようもないと思った」は半数を占めているが、70代では33.3%と少ない。



「大丈夫」「やや安心した」「問題ない」などの安心感を持った人の理由を居住地別にみると、自宅内外での被害がないことを理由とする割合は、志太・榛原地区で最も高い。



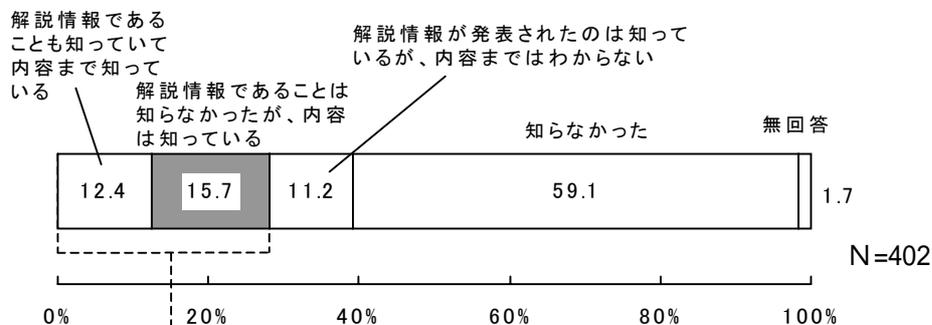
性別にみると、自宅内外の被害にないことについてはいずれも男性が女性を上回り、「電気・水道・ガスなどの被害がない」は女性が29.5%で男性を13.2ポイント上回っている。



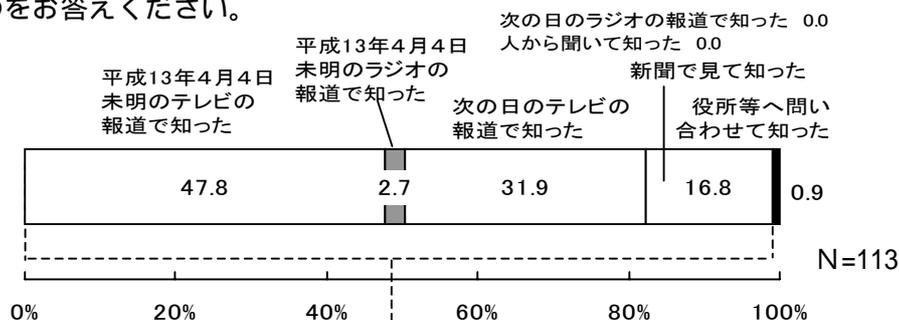
年代別にみると、「自宅での屋外の被害がない」は高年代で特に高く、70代は7割に達している。「家具の転倒や家財の破損がない」は中間年代で高い。また「地震の揺れそのものが思ったほどでなかった」は若年代、中間年代で高くなっている。

10. 気象庁の解説情報について

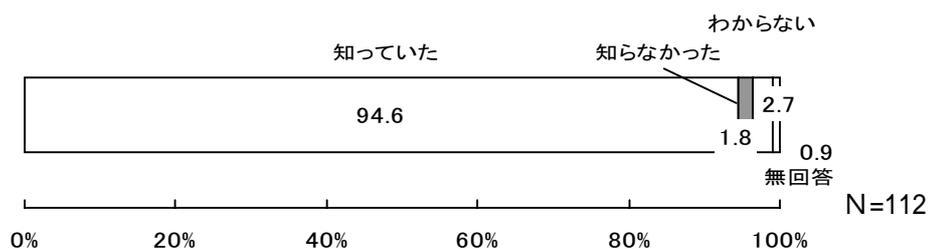
問 13 気象庁は、今回の地震に関して、平成 13 年 4 月 4 日、深夜 2 時に「東海地域の地震・地殻活動に関する情報」(解説情報)を公表しましたが、このことをご存知でしたか。



問 13 - 1 あなたはそれを「いつ」「どのようにして」知りましたか。はじめに知ったものをお答えください。



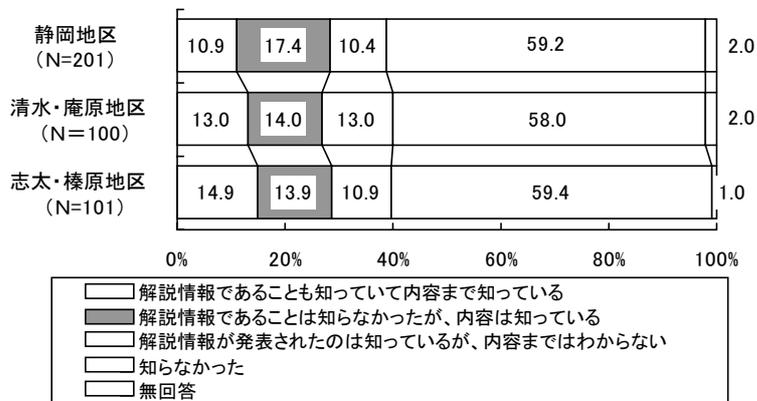
問 13 - 2 その発表の中で、「今回の地震が東海地震と結びつくものではないと判断しています」との説明がありますが、このことをご存知でしたか。



気象庁の解説情報の認知度は低く、「知らなかった」が 59.1%と過半数を占めている。解説情報の認知に関わらず「内容は知っている」人は 28.1%で、内容の入手状況については、「平成 13 年 4 月 4 日未明のテレビの報道で知った」が 47.8%で最も多い。次いで「次の日のテレビの報道で知った」が 31.9%で、ここでもテレビからの情報収集が主となっている。

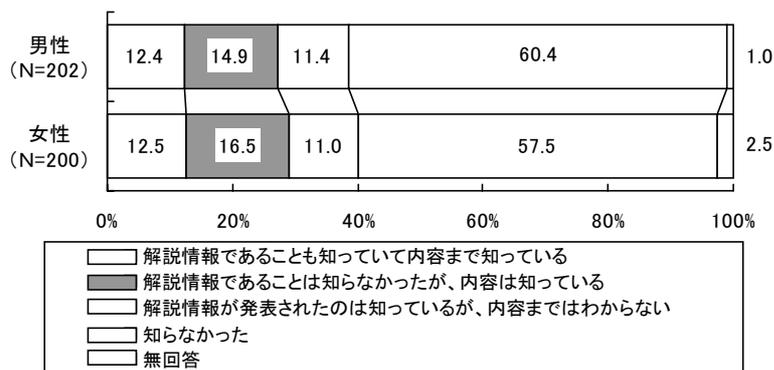
また、問い合わせずに情報を得た人のうち「今回の地震が東海地震と結びつくものではない」との説明を「知っていた」人は、94.6%とほとんどを占めている

< 居住地別 >



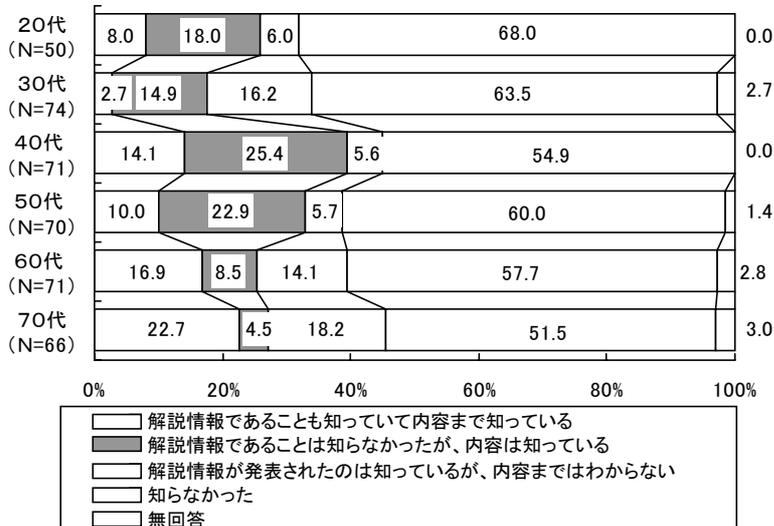
居住地別にみると、認知度には大差は見られないが、「内容まで知っている」が最も高いのは志太・榛原地区で、14.9%となっている。

< 性別 >



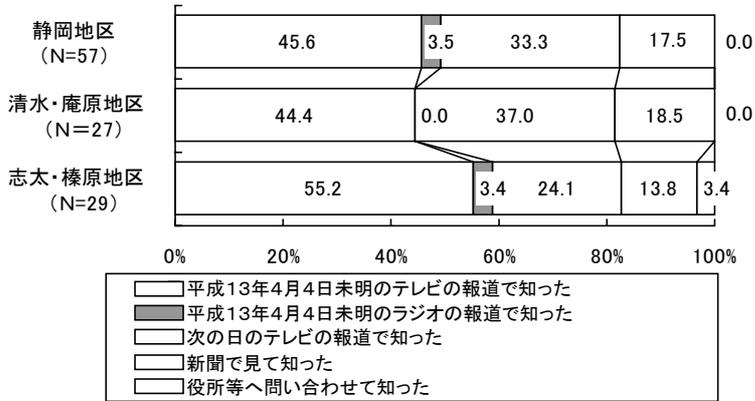
性別では、「解説情報であることは知らなかったが、内容は知っている」が、女性で16.5%と男性を1.6ポイント上回っている。

< 年代別 >



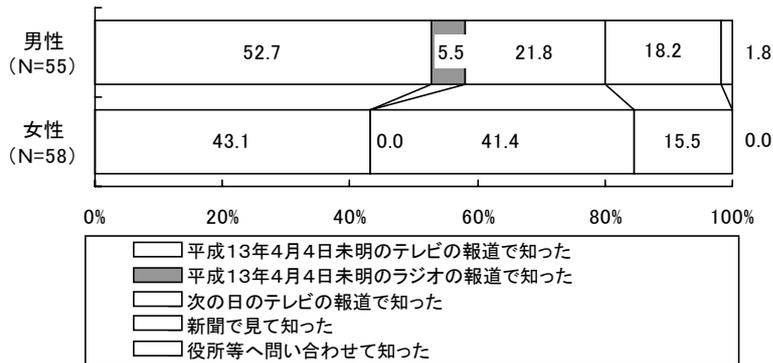
年代別にみると、「内容まで知っている」は、年代が高くなるにつれて増加する傾向はみられ、「内容は知っている」割合は、高年代では若年代より低くなっていることから、認知度は中間年代で高い。

<居住地別>



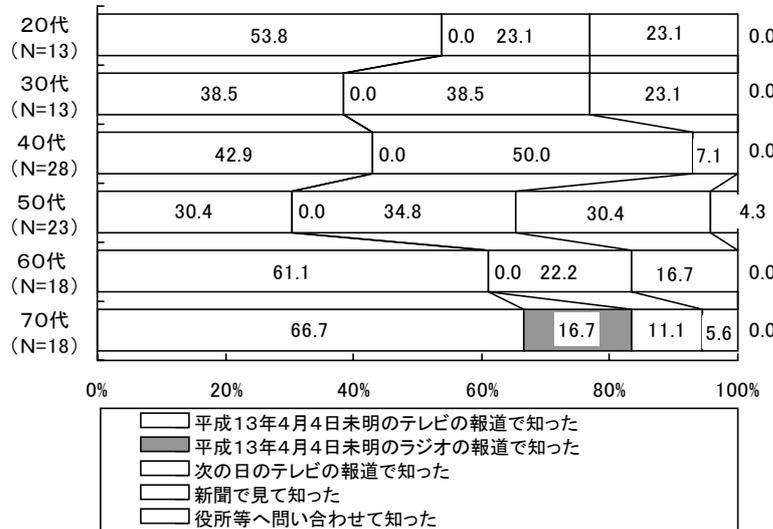
内容の入手状況を居住地別にみると、志太・榛原地区は「平成13年4月4日未明のテレビの報道で知った」が55.2%と過半数を占めている。その他の地区も40%台と高い。

<性別>



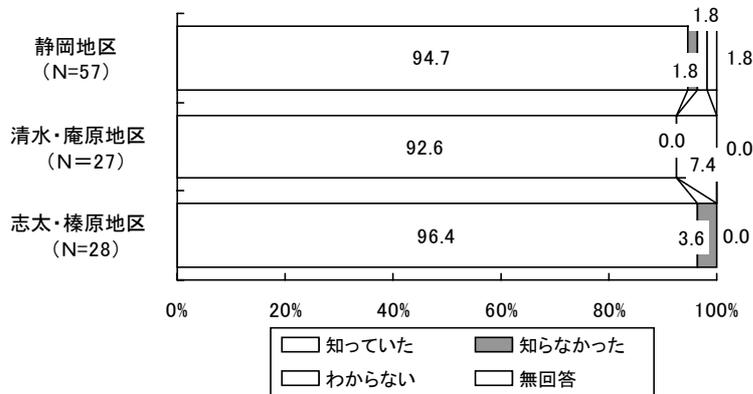
性別にみると、男性は「平成13年4月4日未明のテレビの報道で知った」が52.7%と過半数を占めているが、女性は「次の日のテレビの報道で知った」も41.4%で、「未明のテレビ」との差は僅かと、高い割合を占めている。

<年代別>



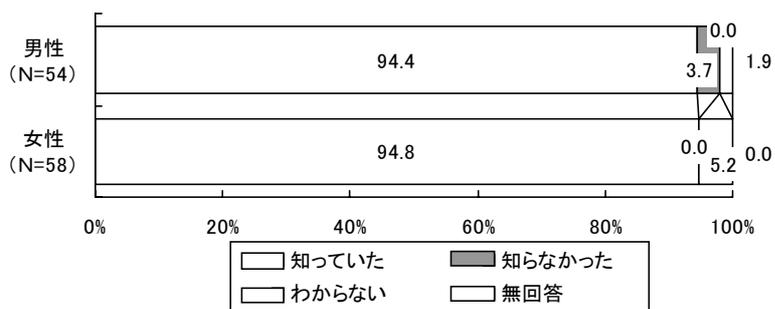
年代別にみると、「平成13年4月4日未明のテレビの報道で知った」は20代、60代、70代で過半数を占めている。また、70代のみ「ラジオの報道で知った」への回答があり、16.7%となっている。

< 居住地別 >



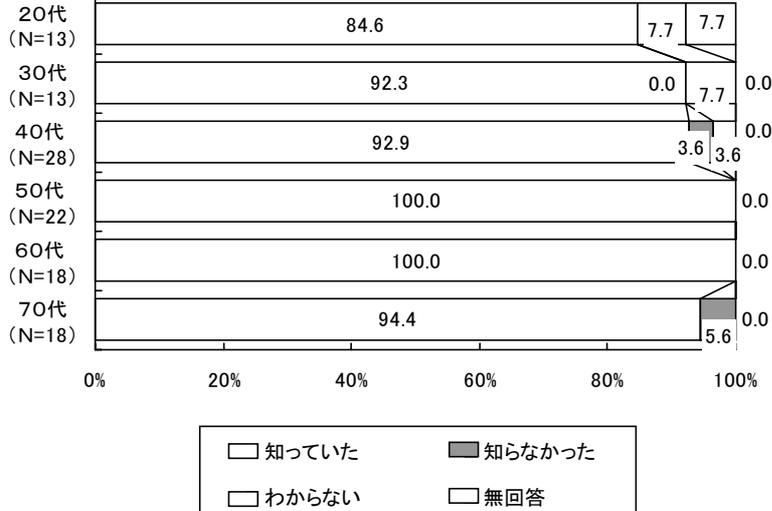
「東海地震と結びつくものではない」との説明の認知状況を居住地別にみると、いずれの地区も「知っていた」が9割と高い。特に志太・榛原地区の認知度は96.4%で最も高い。

< 性別 >



性別による差はほとんどみられず、認知度は僅か0.4ポイントの差で、女性が高い。

< 年代別 >



年代別にみると、50代、60代においては、100.0%と全ての人が「知っていた」と回答している。

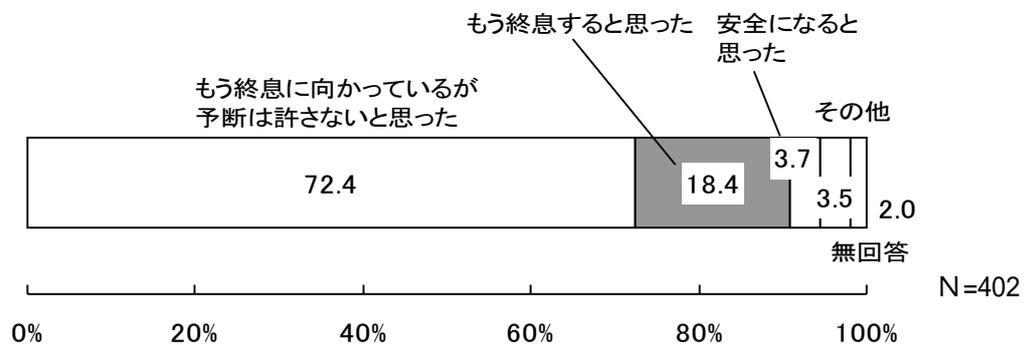
問 14 気象庁が平成 13 年 4 月 4 日午前 2 時に発表した内容は下記の通りです。

4月3日 23 時 57 分頃、静岡県中部の深さ 33km で M5.1 (暫定値) の地震がありました。この地震により、静岡県の静岡市で震度 5 強を観測したほか、島田市、岡部町、川根町で震度 5 弱、東海地方を中心に関東地方から近畿地方にかけて震度 1 以上を観測しました。

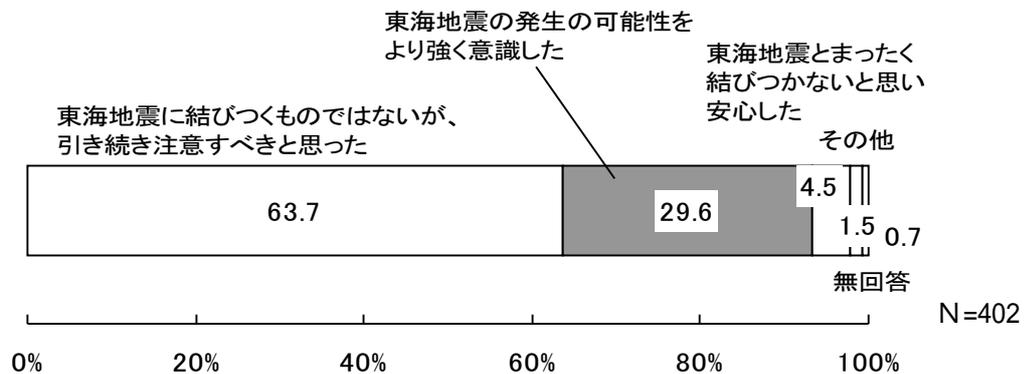
震度 1 以上を観測した余震は、2 時現在 3 回で、余震活動は順調に減衰しています。発震機構は、正断層型でフィリピン海プレート内部の地震と考えられます。なお、この地域では、1996 年 10 月 5 日に川根付近で M4.3 の地震が発生しており、今回の地震と同様の発震機構でした。

地殻変動については、地震と同時にステップ状の変化が観測されましたが、その後変化は観測されていません。以上のことから、今回の地震は、想定される東海地震と結びつくものではないと判断しています。

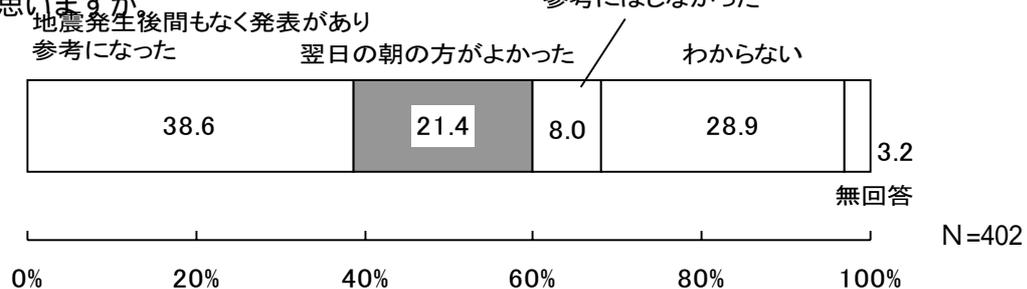
問 14 - A 上記の発表を受けて、「静岡中部地域」の地震についてはどのように思われましたか。



問 14 - B 上記の発表を受けて、「東海地震」についてどのように思われましたか。



問 14 - C 地震発生から約 2 時間後に解説情報が発表されましたが、このことをどのように思いますか

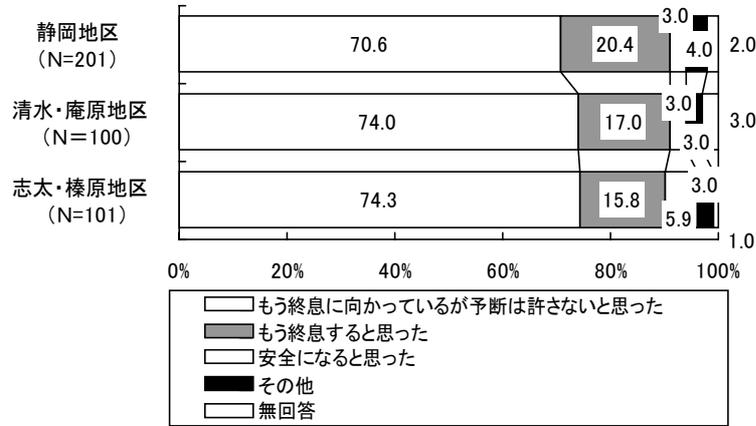


気象庁から発表された解説情報を受けて、「静岡中部地域」の地震について「もう終息に向かっているが予断は許さないと思った」が 72.4%と大半を占めている。「安全になると思った」は 3.7%となっている。

この発表を受けて「東海地震」についての考え方は、「東海地震に結びつくものではないが、引き続き注意すべきと思った」が 63.7%で最も高い。「東海地震の発生の可能性をより強く意識した」人は 3割と、前者のおよそ半数を占めている。

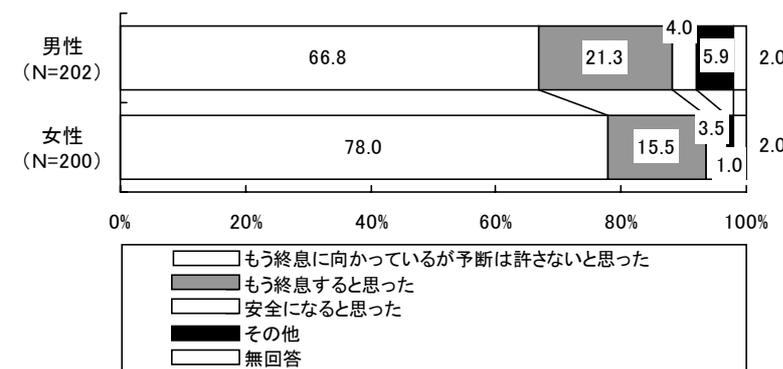
また、解説情報の発表時間については、「参考になった」が 38.6%で最も高くなっているが、「参考にはしなかった」「わからない」との回答も多い。

< 居住地別 >



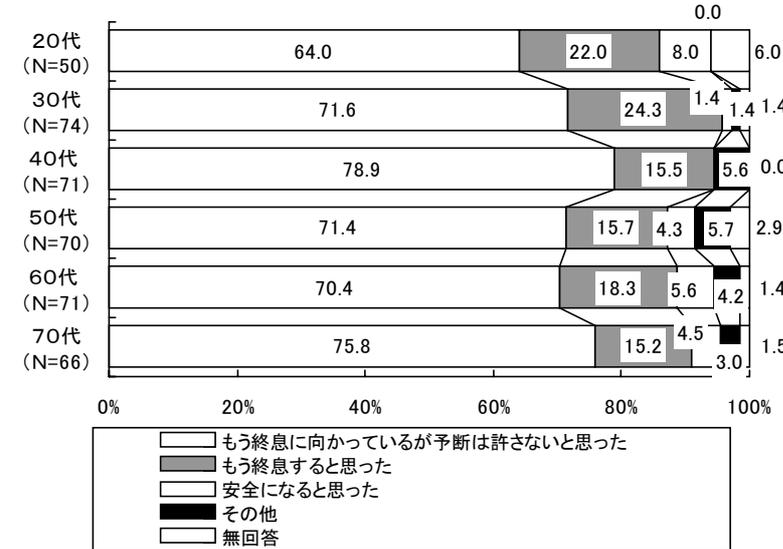
居住地別では、「もう終息に向かっているが予断は許さないと思った」がいずれの地区でも70%台となっているが、静岡地区では他の2地区に比べ、若干低い。

< 性別 >



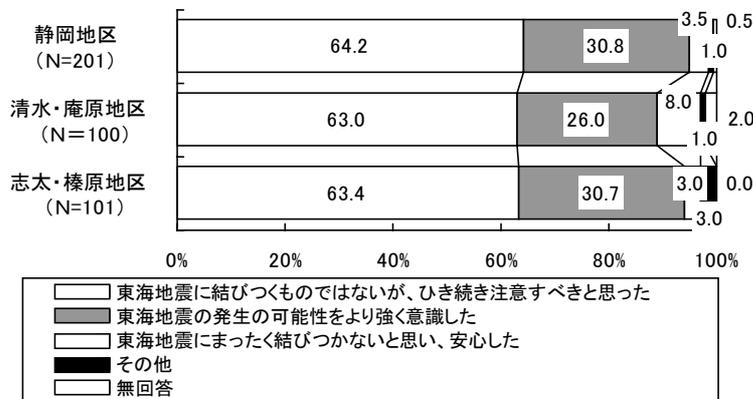
性別にみると、女性の方が警戒心は強く、「予断は許さないと思った」は78.0%で男性を11.2ポイント上回っている。

< 年代別 >



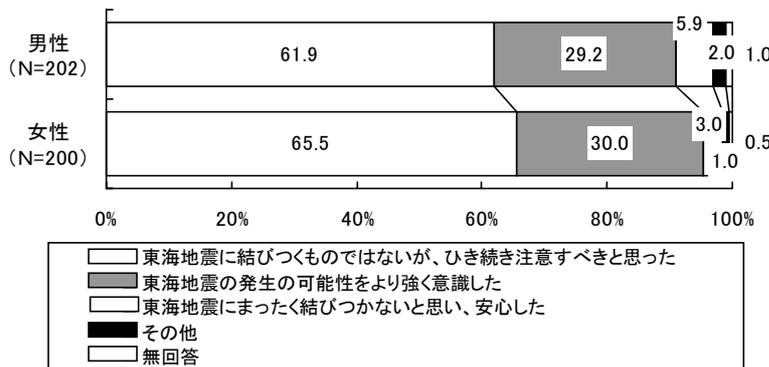
年代別にみると、20代以外は「予断は許さないと思った」がいずれも7割と、大半を占めている。

<居住地別>



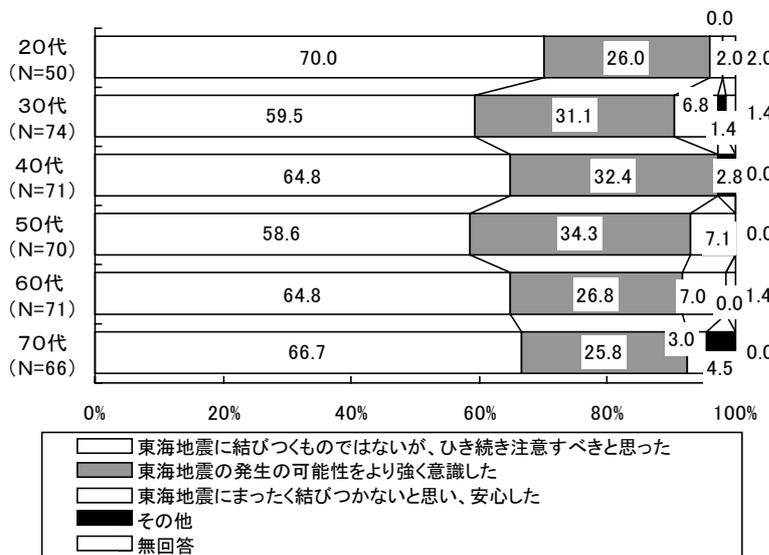
東海地震についての意識を居住地別にみると、「ひき続き注意すべきと思った」「可能性をより強く意識した」の両者を合わせた意識の高い人の割合は、いずれも約9割とほとんどを占めているが、清水・庵原地区は「安心した」割合が他地区に比べ高く、8.0%となっている。

<性別>



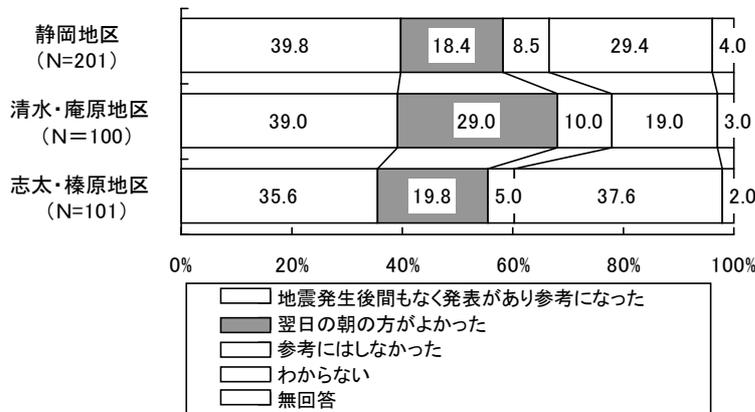
性別にみると、女性の方が東海地震への結びつきを強く感じており、意識は高い。「ひき続き注意すべきと思った」は3.6ポイント、「可能性をより強く意識した」は0.8ポイント男性を上回っている。

<年代別>



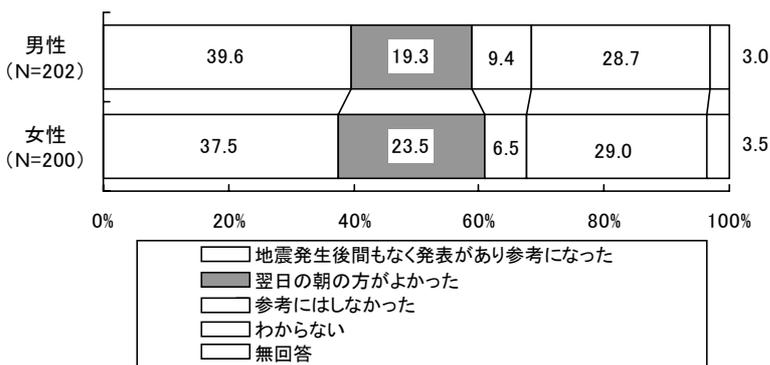
年代別では、20代で「ひき続き注意すべきと思った」が7割と最も高く、「可能性をより強く感じた」は50代で高いが、両者を合わせた、東海地震への意識が高いのは40代で、97.2%とほとんどを占めている。

<居住地別>



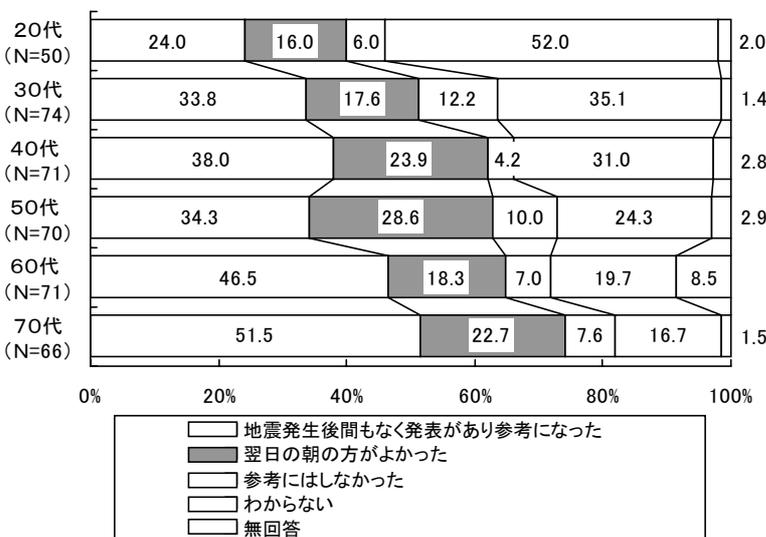
解説情報の発表時間に対する評価を居住地別にみると、志太・榛原地区は「参考になった」が他地区と同じ30%台ではあるが、若干低くなっている。「翌日の朝の方がよかった」は、清水・庵原地区で29.0%と「参考になった」割合に近く、最も高い。また、「参考にしなかった」についても最も高くなっている。

<性別>



性別にみると、男性は「参考になった」「参考にならなかった」の両評価で女性を2～3ポイント上回っている。

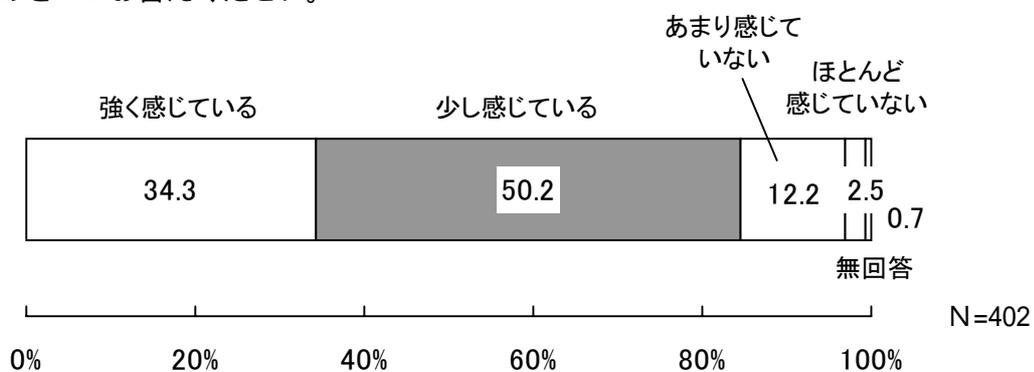
<年代別>



年代別にみると、「参考になった」は、年代が上がるにつれて高い傾向にある。70代では過半数を占めており、一方の20代は24.0%にとどまり、「わからない」が過半数となっている。

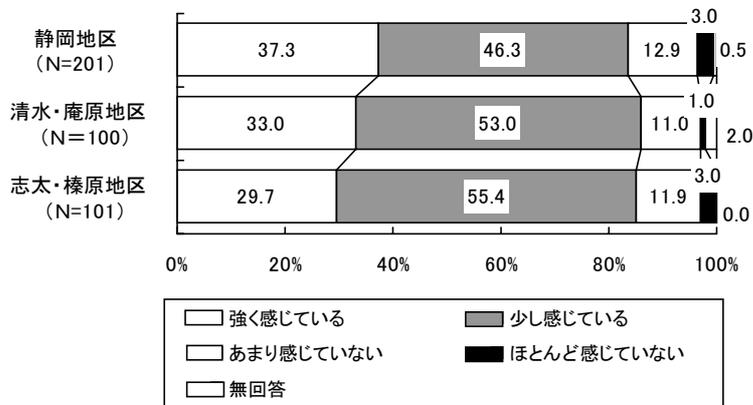
11. 東海地震について

問 15 あなたは、東海地震が切迫しているという不安を感じていますか。次の中からあてはまるものを1つお答えください。



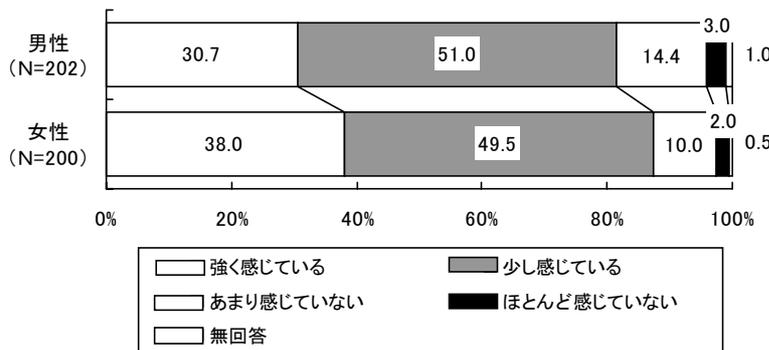
東海地震が切迫しているという不安感は「少し感じている」が 50.2%と過半数を占めている。「強く感じている」を含めてみると、8割と大半が不安を感じている。

<居住地別>



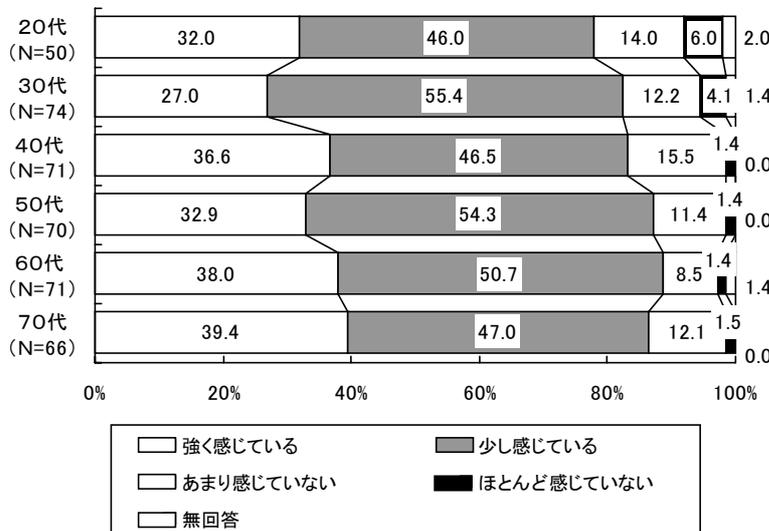
居住地別にみると、東海地震への切迫感を「強く感じている」が最も高いのは静岡地区で、37.3%となっている。しかし、「あまり感じていない」も12.9%で最も高い。

<性別>



性別にみると、切迫感は女性の方が強く、「少し」を含む「感じている」は、9割近くにのぼる。

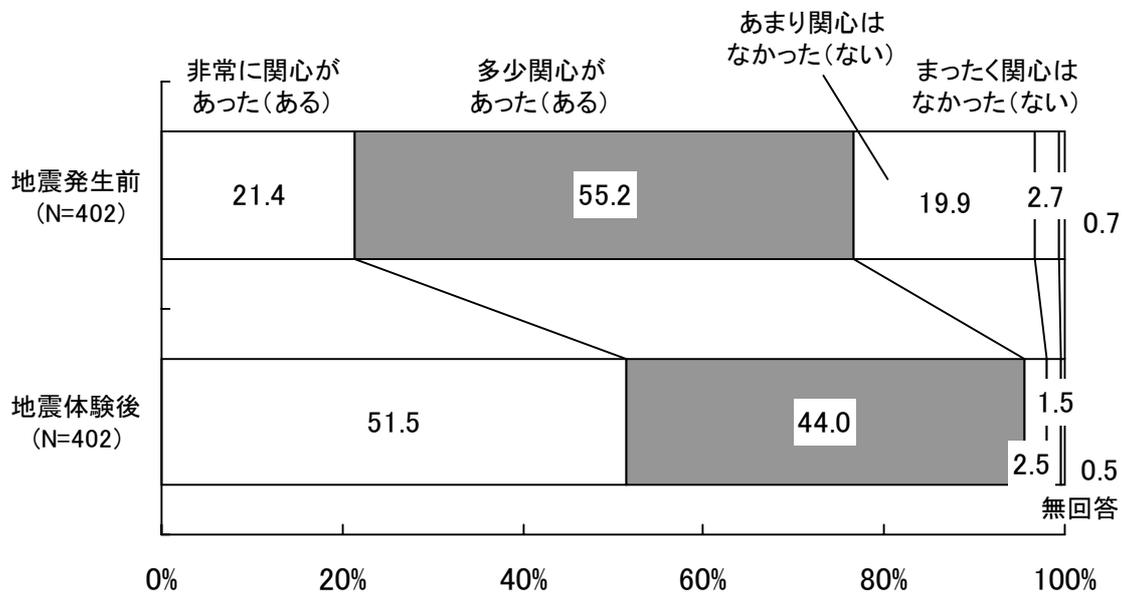
<年代別>



年代別では、若干ながら、高齢年代で切迫感が高くなっており、60代、70代は「強く感じている」が約4割を占めている。

問 16 今回の地震が発生する前には、東海地震にどの程度の関心を持っていましたか。

問 17 今回の地震を体験した現在では、東海地震にどの程度の関心を持ちましたか。



今回の地震発生前と体験後での東海地震の関心度は、「非常に感心があった(ある)」は体験後が 51.5%で過半数を占めており、発生前の 2 倍以上となっている。「多少関心があった(ある)」は体験後の方が減少しているが、「非常に」と「多少」を合わせた関心度は、18.9 ポイント高くなっている。

<地震発生前と地震体験後の東海地震への関心度のクロス表>

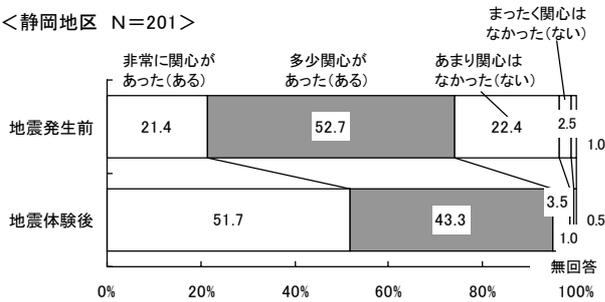
(単位: 上段=人数・下段=%)

		地震体験後				
		関心がある		関心がない		
		非常に 関心がある	多少 関心がある	あまり 関心はない	まったく 関心はない	
地震 発 生 前	あ 関 心 が あ っ た が	非常に 関心があった	81 94.2%	5 5.8%	0 0.0%	0 0.0%
		多少 関心があった	106 47.7%	116 52.3%	0 0.0%	0 0.0%
	な 関 心 が あ っ た	あまり 関心はなかった	19 23.8%	52 65.0%	9 11.3%	0 0.0%
		まったく 関心はなかった	0 0.0%	5 45.5%	1 9.1%	5 45.5%

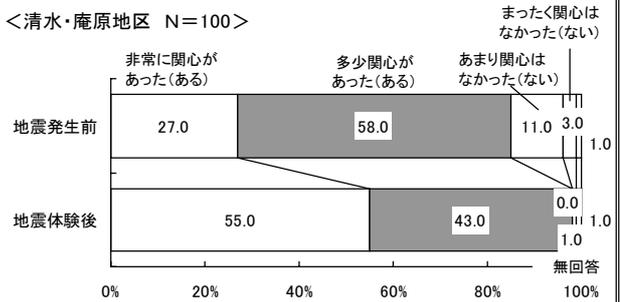
東海地震への関心度を、地震発生前と体験後でクロス集計したところ、左表のとおりで、発生以前も体験後も関心がある人は 308 人(76.6%)、今回の地震で関心を持った人が 76 人(18.9%)、今回の地震を体験しても関心がない人が 15 人(3.7%)(無回答 3 人)となっている。

< 居住地別 >

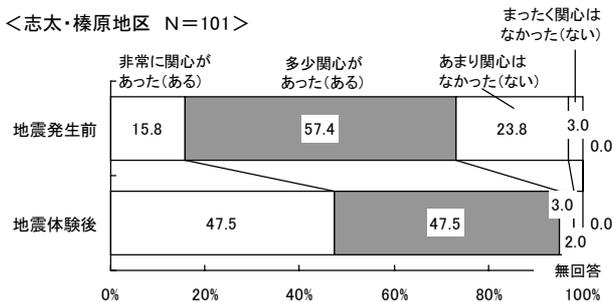
< 静岡地区 N=201 >



< 清水・庵原地区 N=100 >



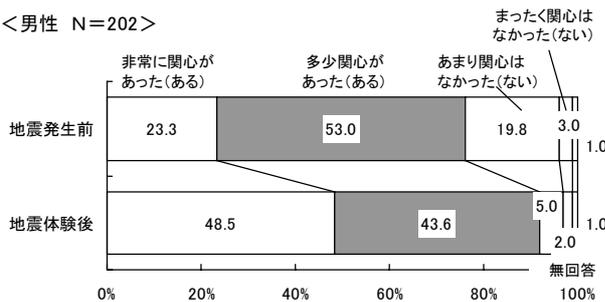
< 志太・榛原地区 N=101 >



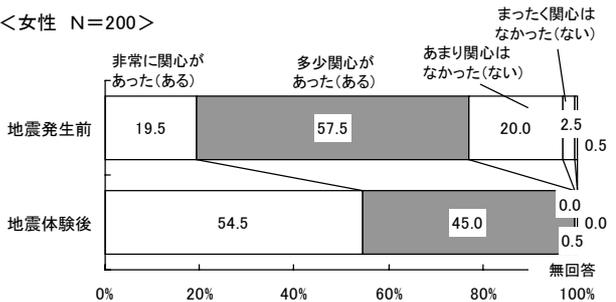
居住地別の関心度は、いずれの地区も「非常に関心がある」が発生前の2倍以上に増加している。特に志太・榛原地区では3倍と、関心の高まりは著しい。

< 性別 >

< 男性 N=202 >



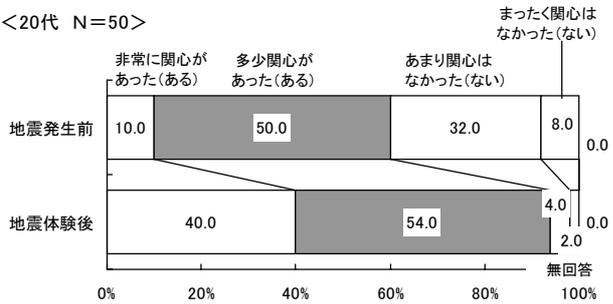
< 女性 N=200 >



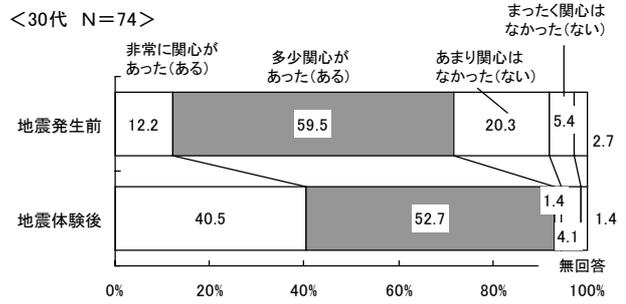
性別にみると、女性の関心の高まりは大きく、「非常に関心がある」は発生前に比べ、35.0ポイント高くなっている。男女ともに「多少」を含め「関心がある」割合は9割を占めている。

<年代別>

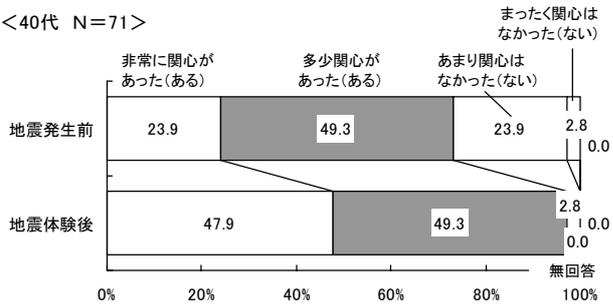
<20代 N=50>



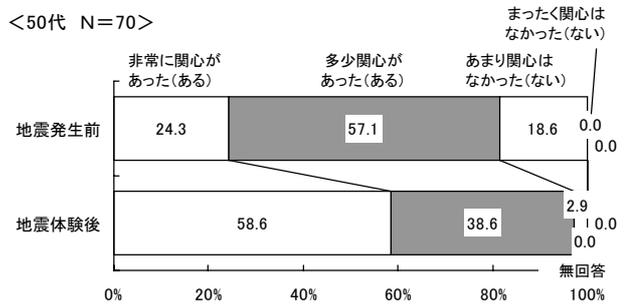
<30代 N=74>



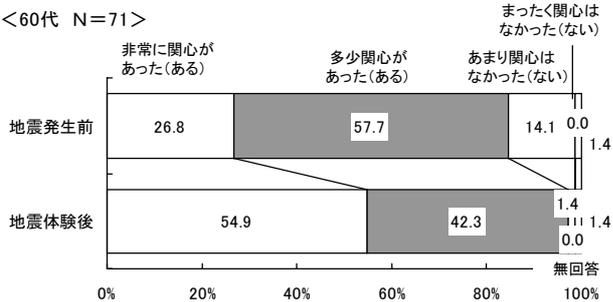
<40代 N=71>



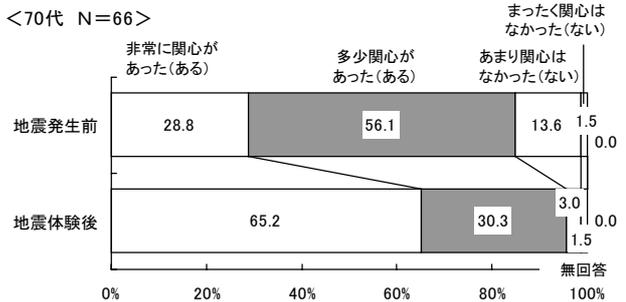
<50代 N=70>



<60代 N=71>

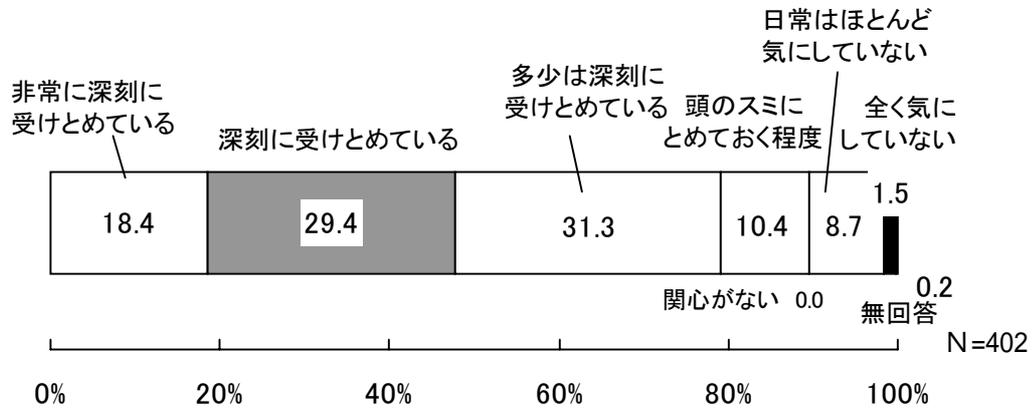


<70代 N=66>



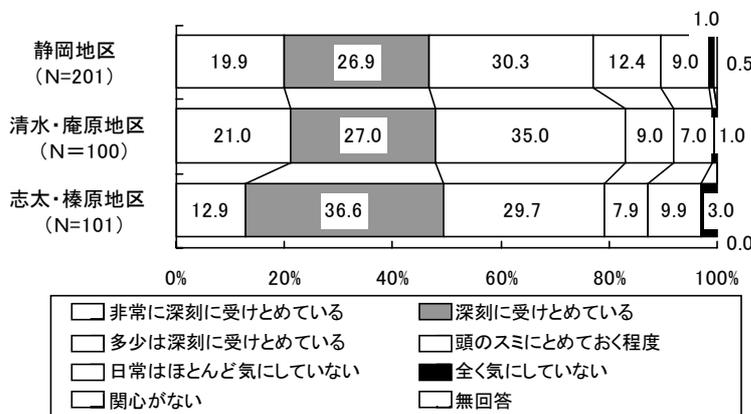
年代別にみると、若年代は地震発生前の関心度が低く、6～7割で、「非常に関心があった」についても、1割にとどまっていたが、体験後はそのおよそ4倍と、著しく高くなっている。また、50代以上の高年代についてみると、「非常に関心がある」が過半数を占めている。

問 18 あなたは、東海地震の起こる可能性について、どの程度に受けとめていますか。



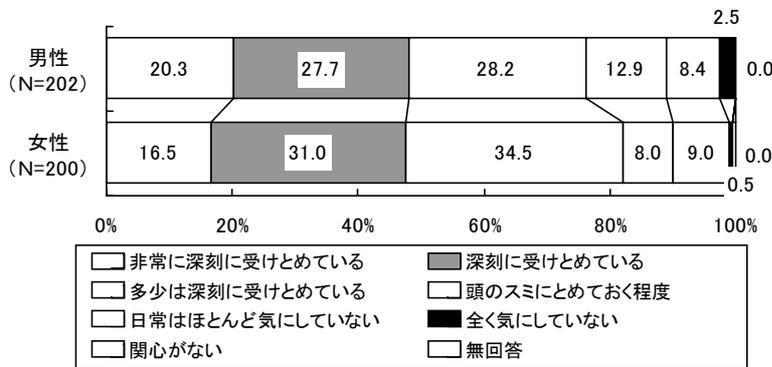
東海地震の起こる可能性に対する深刻度は高く、およそ8割が深刻に受けとめている。中には「多少は深刻に受けとめている」が31.3%で最も高い。一方「全く気にしていない」は1.5%となっている。

<居住地別>



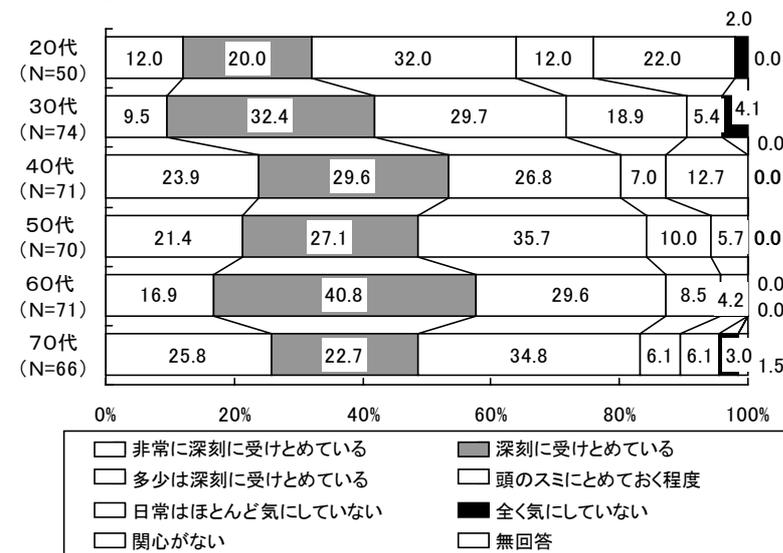
居住地別の深刻度は、「非常に」「多少は」を含め、清水・庵原地区が最も高く、8割を占めている。特に「非常に深刻に受けとめている」が21.0%と高い。

<性別>



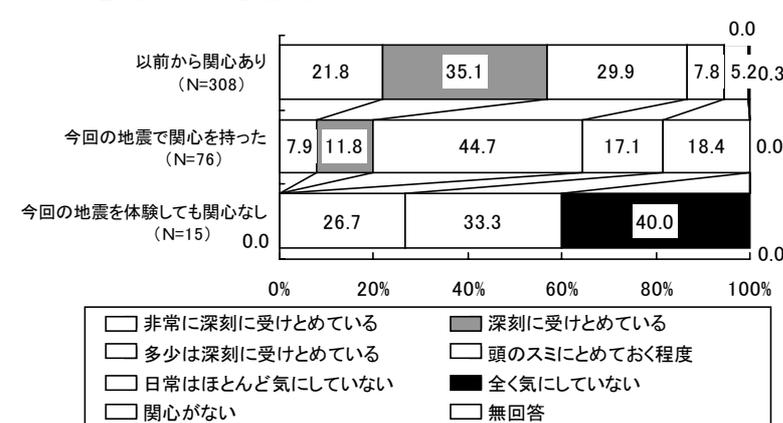
性別にみた深刻度は、女性が8割で高いが、「非常に深刻に受けとめている」については、男性が女性を3.8ポイント上回る20.3%となっている。

<年代別>



年代別では、年代が高くなるにつれて、深刻度が高くなる傾向がみられ、若年代では6～7割にとどまっている。「非常に深刻に受けとめている」については40代、50代、70代が2割を占めている。

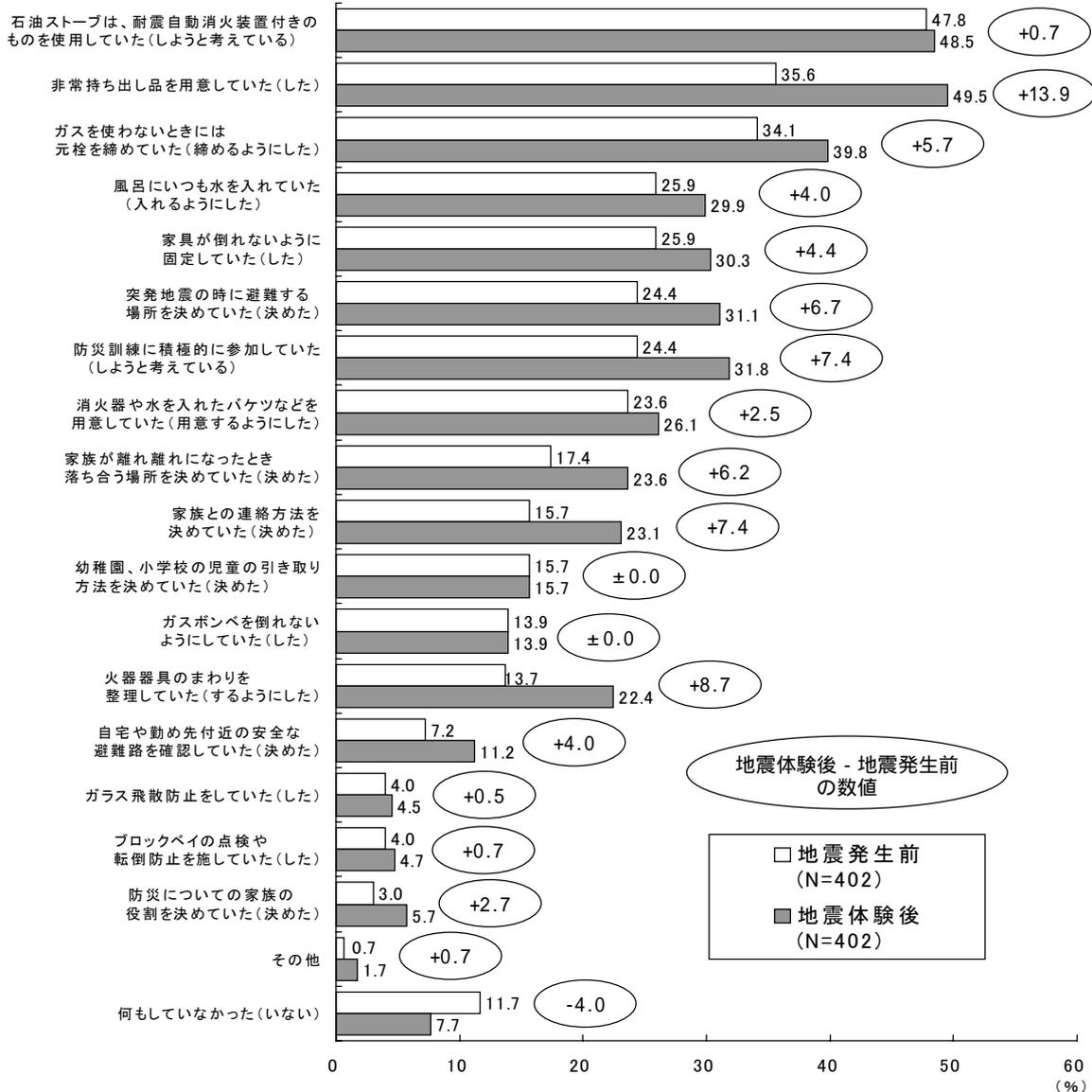
<東海地震への関心度別>



東海地震への関心度別にみると、深刻度は関心度に比例しており、『以前から関心あり』と関心度の高い人は深刻度も高く8割を占めている。一方関心のない人は、「非常に」「多少」を含め「深刻に受けとめている」は皆無となっている。

12. 地震への具体的な備え

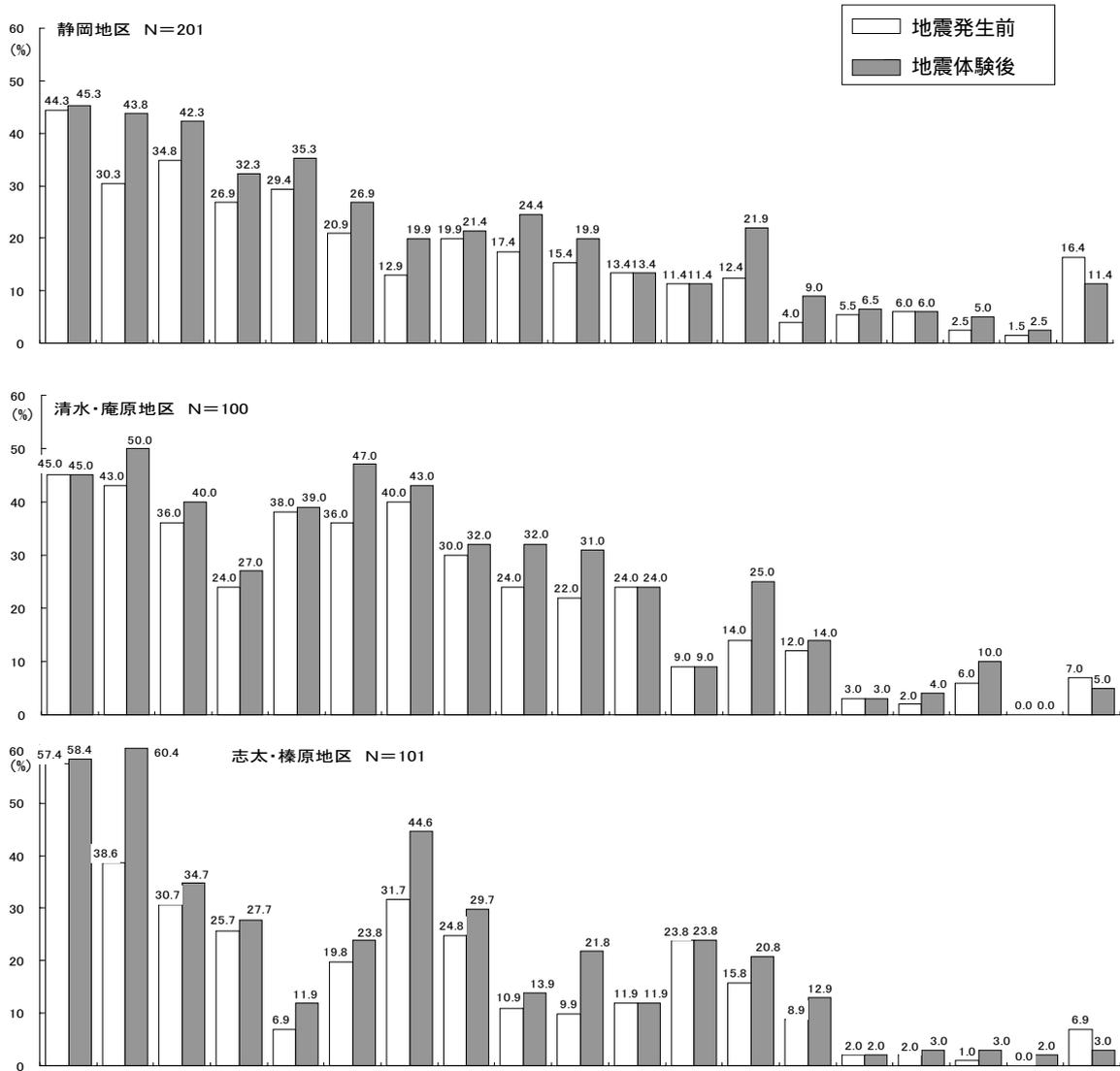
問 19 次にあげるものの中で、地震に備えてお宅で行っているものがありましたら、今回の地震前と地震後に分けて、次の中からいくつでもお選びください。



\$ 3.9

今回の地震が発生する以前から、既に地震に備えておいた項目は「石油ストーブは、耐震自動消火付きのものを使用していた」人が 47.8%で、最も多くなっているが、今回の地震を体験して新たに「非常持ち出し品を用意した」人が 13.9 ポイント伸びており、49.5% とほぼ半数の人が地震対策として非常持ち出し品を用意している。

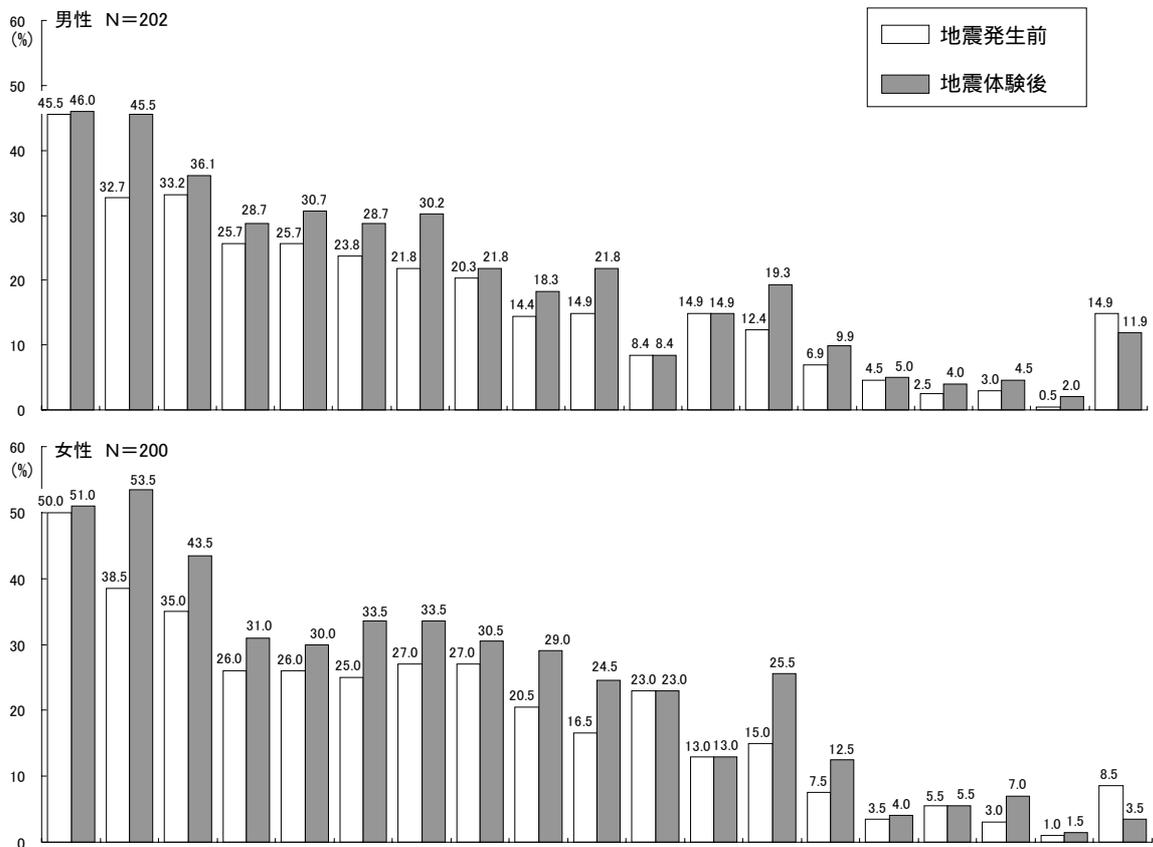
< 居住地別 >



地域別に比較してみると、震度が大きかった志太・榛原地区において地震体験後に行った備えが大きく伸びている傾向がみられる。特に「非常持ち出し品を用意した」は 60.4% と 6 割以上を占めている。

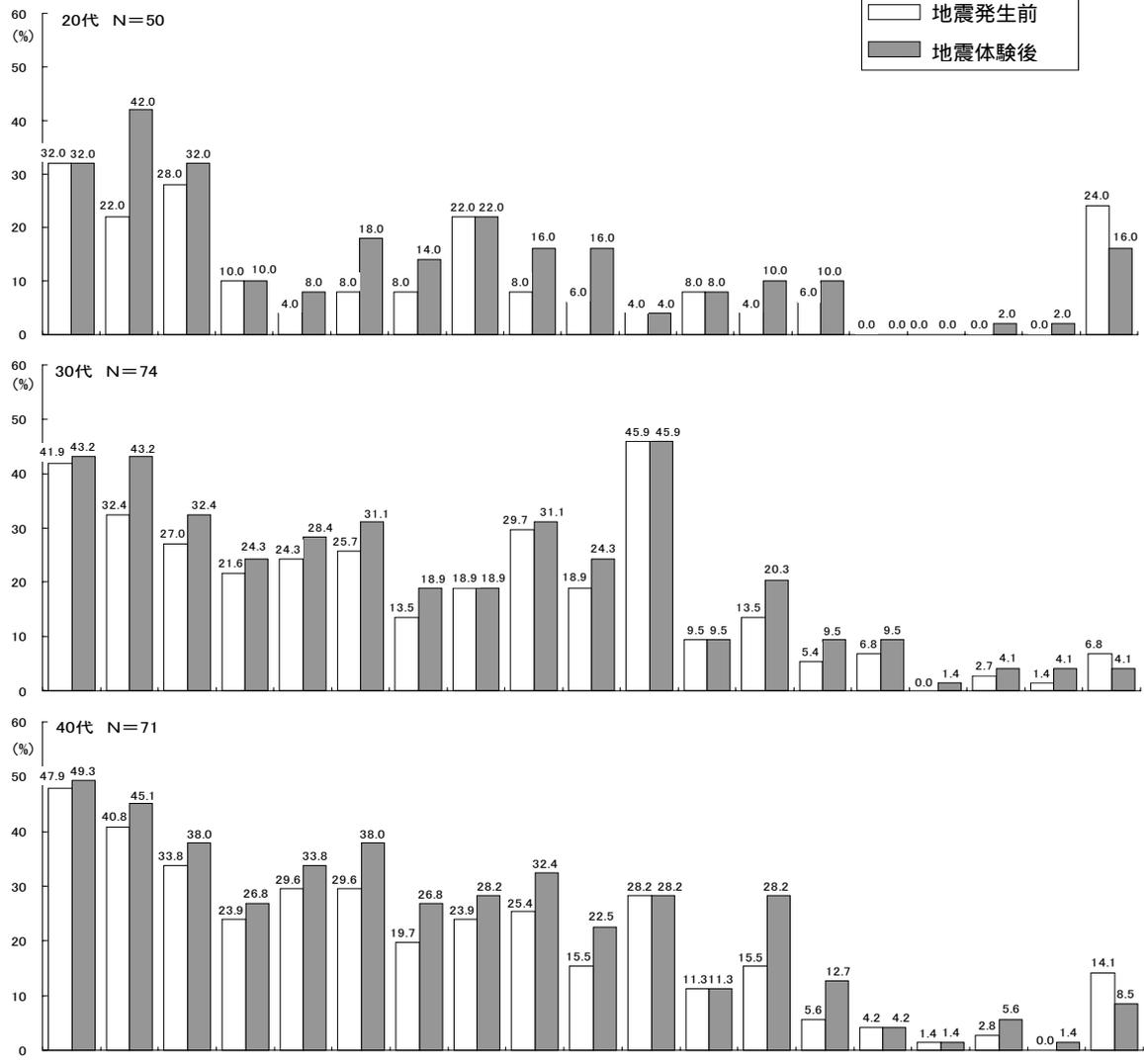
しかし、一方で、「家具が倒れないように固定した」は地震体験後も 11.9% と、約 1 割しかなく、他の 2 地域に比べてかなり低い数値となっている。

< 性別 >

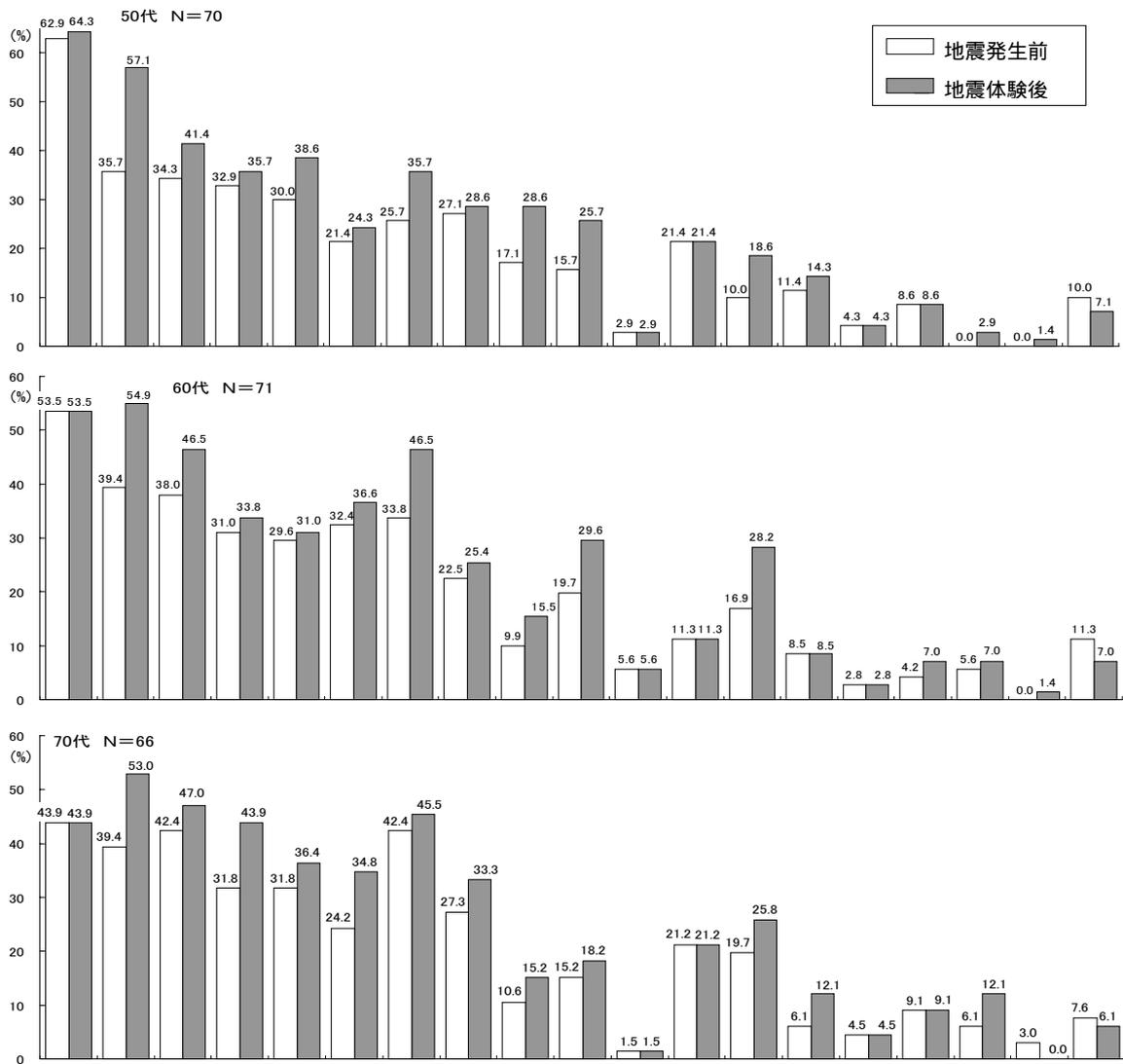


性別で比べると、ほとんどの項目において地震発生前も地震体験後も女性の方が高くなっている。また、その伸び率も女性のほうが大きい項目が多い。特に地震体験後の「非常持ち出し品を用意した」では、男性が45.5%に対し、女性は53.5%と、8ポイントの差がみられる。

<年代別 (20~40代)>



<年代別（50～70代）>



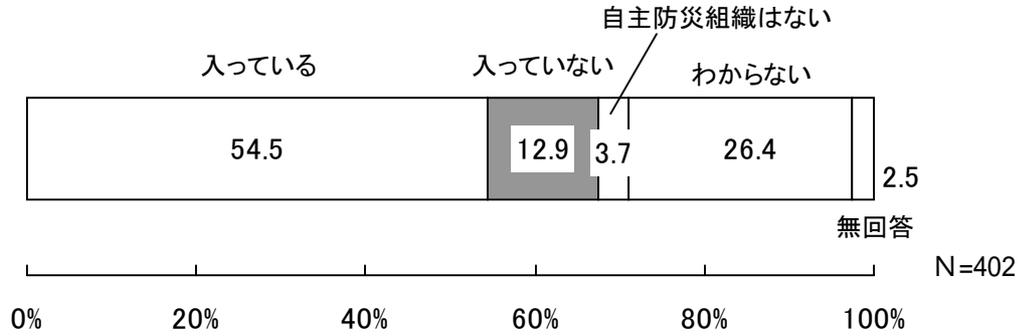
年代別にみると、20代は地震体験後も「何もしていない」が16.0%と他の年代に比べて最も高く、各項目に関しても備えを行っている割合は低く、意識が低いことがうかがえる。

また、子育て世代である30代～40代で「幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めていた（決めた）」が他の年代に比べ、著しく高くなっている。

全体的に、50代～70代の比較的高年代において、地震発生前と地震体験後の双方で実施している割合が高い項目が多くなっている。

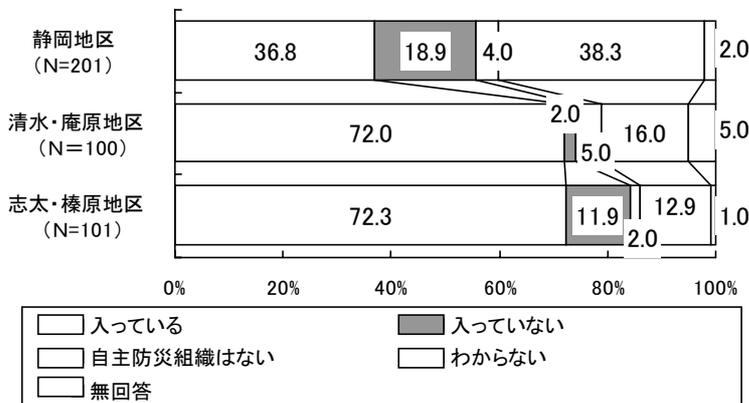
13. 自主防災組織への加入状況

問 20 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。



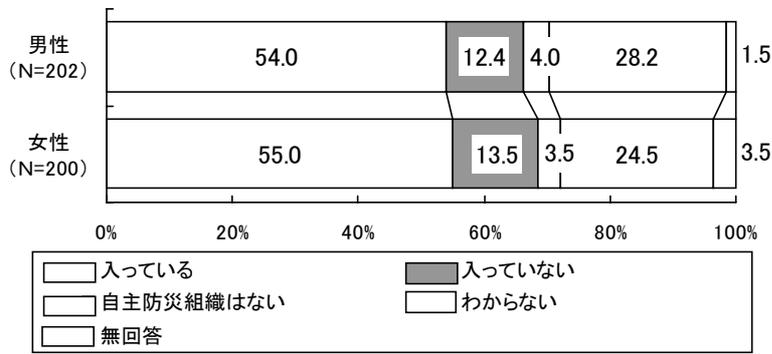
自主防災組織への加入状況は、「入っている」が 54.5%と過半数を占めている。しかし「わからない」についても 26.4%と 4 人に 1 人と比較的高い割合を占めている。

< 居住地別 >



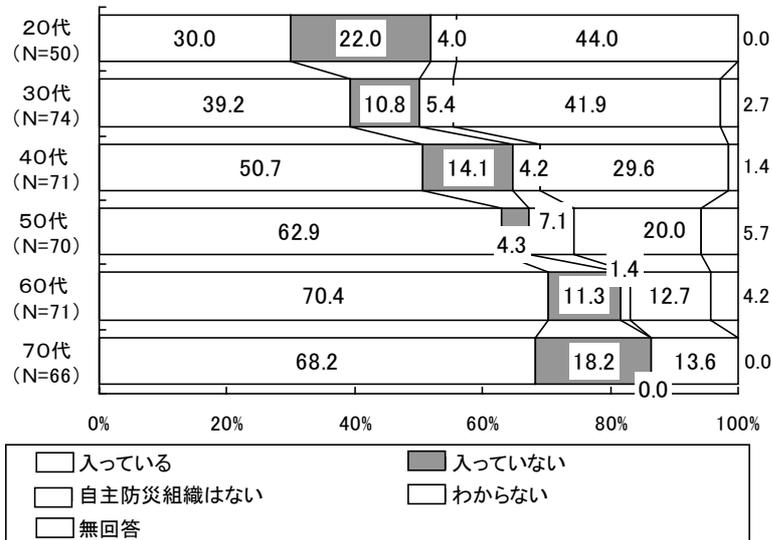
居住地別にみた自主防災組織の加入率は、清水・庵原地区、志太・榛原地区は 7 割を占めているのに対し、静岡地区は、そのおよそ半数の 36.8%に加入がとどまっている。「入っていない」人が多いこともあるが、「わからない」人が加入者の割合を上回っている。

<性別>



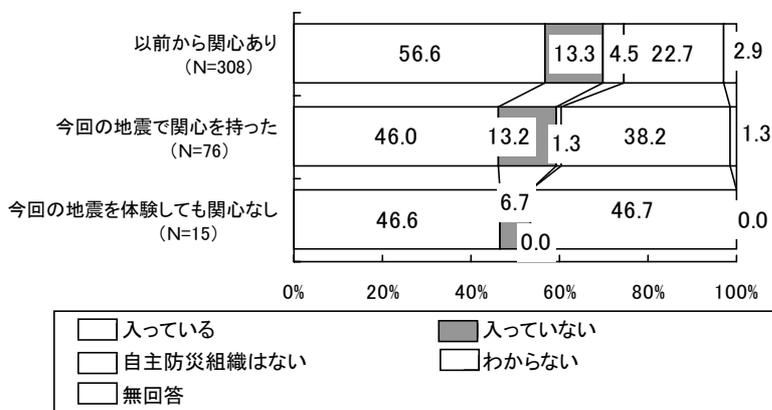
性別にみると、若干ながら、女性の加入率が男性を上回っているが、男女ともに「入っている」は過半数を占めている。

<年代別>



年代別で自主防災組織への加入率をみると、60代までは、加齢に伴い増加して傾向が顕著に表れている。

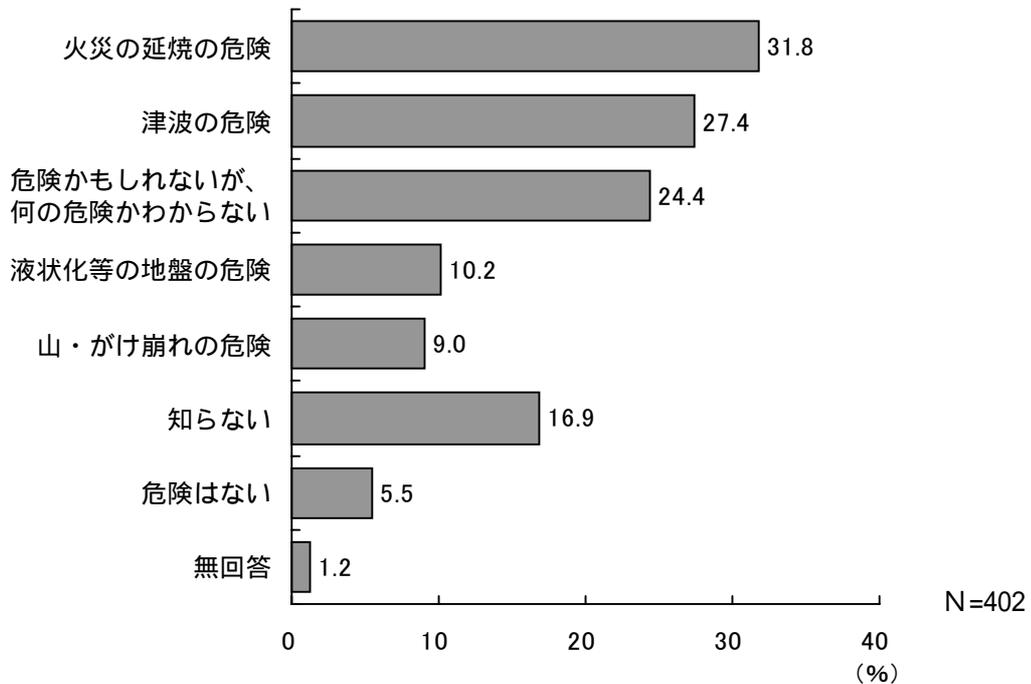
<東海地震への関心度別>



東海地震への関心度別にみると、『以前から関心あり』の場合は、加入率が高く、過半数を占めている。また、関心のない人は自主防災組織についても「わからない」人が多い。

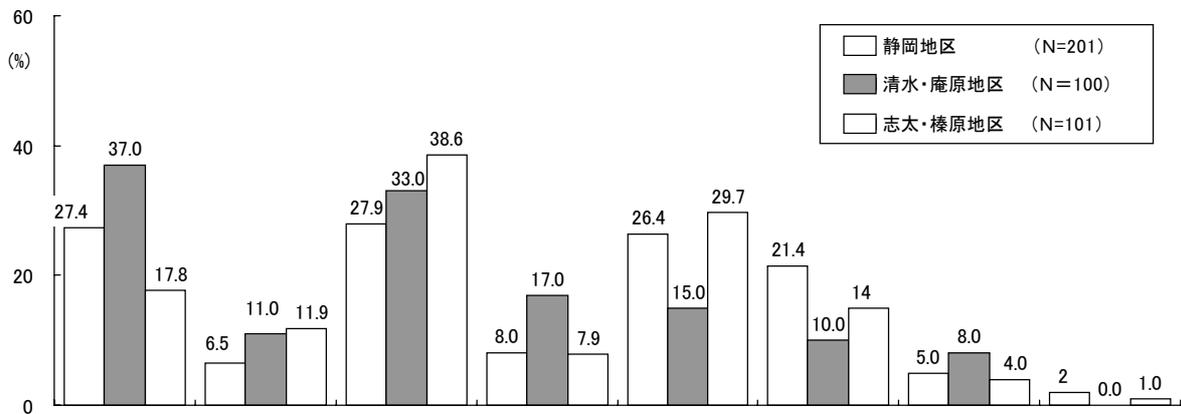
14. 地域の危険性について

問 21 あなたは、お住まいの地域の危険性について知っていますか。あてはまるものいくつかもお選びください。



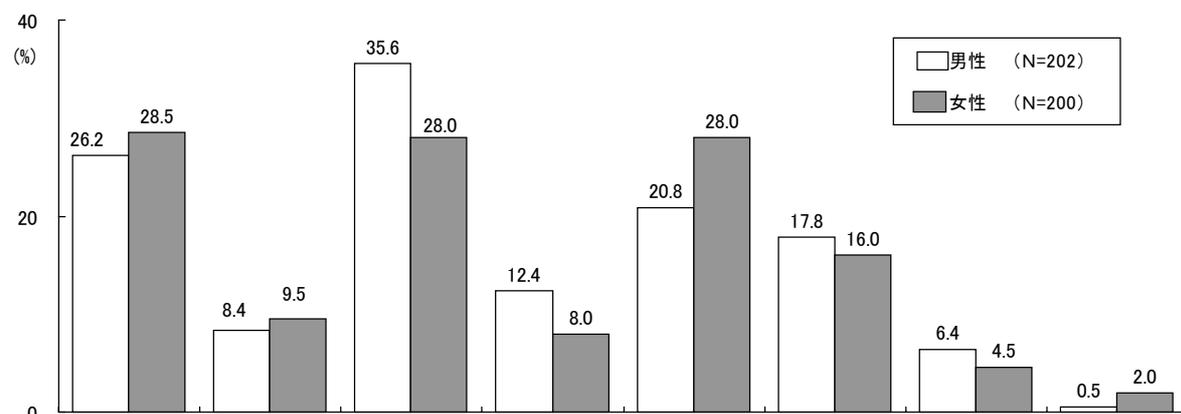
地域の危険性については、「火災の延焼の危険」が 31.8%で最も多い。「危険かもしれないが何の危険かわからない」が 24.4%と3番目に多く、「知らない」についても 16.9%の回答があり、地域のことについて把握できていない状況がうかがえる。一方「危険がない」は僅か 5.5%にとどまっている。

< 居住地別 >

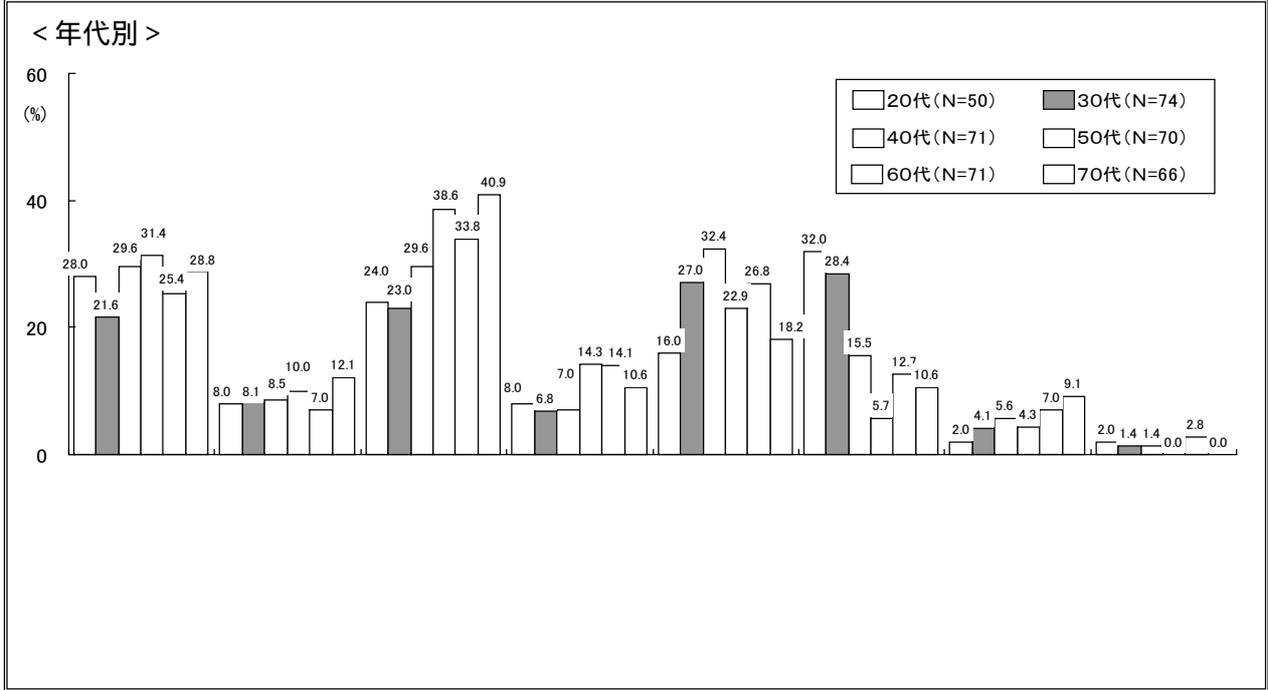


居住地別にみると、いずれの地区にも海はあるが、その割合の違いからか「津波の危険」は清水・庵原地区で 37.0%と最も多い。また、「危険かもしれないが、何の危険かわからない」が志太・榛原地区で3割り近くを占めている。

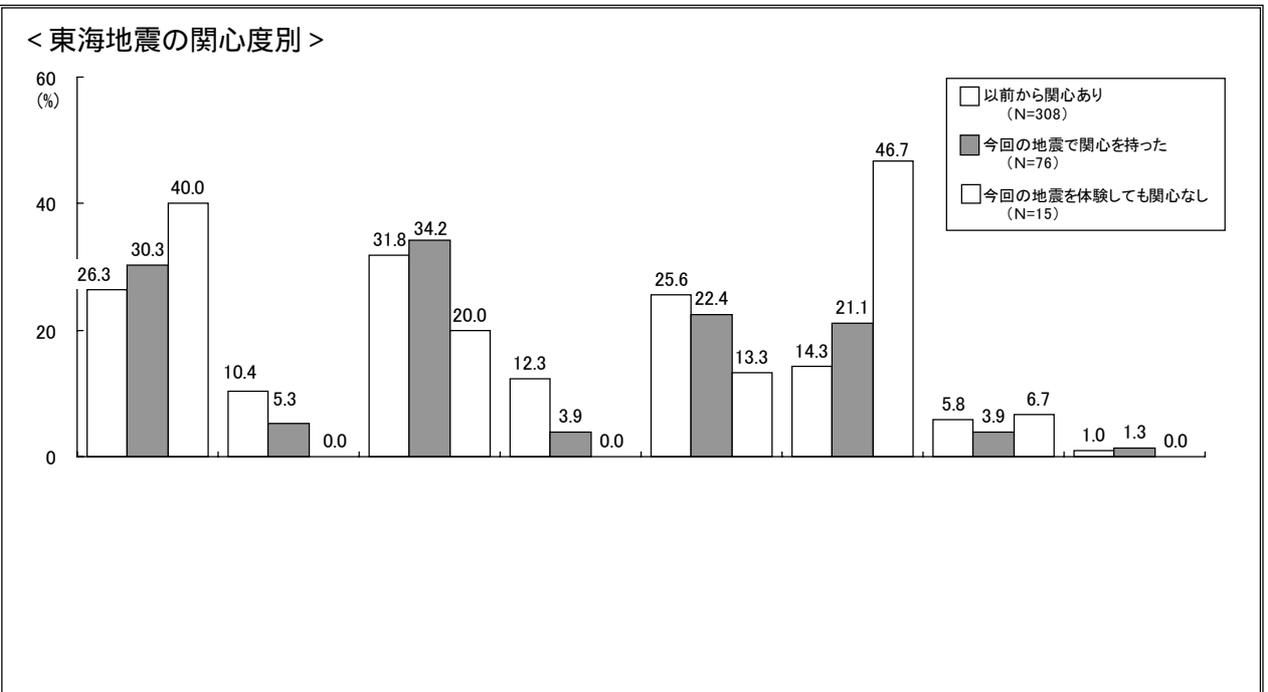
< 性別 >



性別にみると、「火災の延焼の危険」は男性が女性を 7.6 ポイント上回り 35.6%となっている。一方女性は「危険かもしれないが、何の危険かわからない」で男性を 7.2 ポイント上回り、把握はしていないが、不安に感じている人が多い。



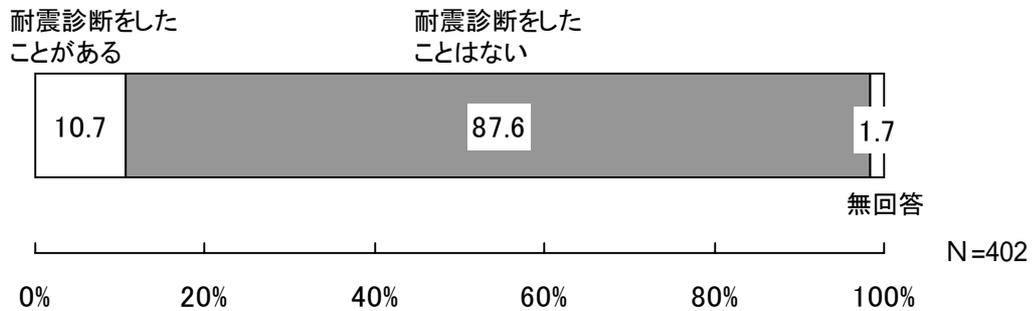
年代による差が著しいのは「火災の延焼の危険」で、若年代は20%台、中間年代は30%台、高年代は70代で40.9%に達している。危険のはっきりしている項目については、いずれも50代、70代の回答が多い。一方若年代は「知らない」が多く、3割を占めている。



東海地震の関心度別にみると、「危険かもしれないが、何の危険かわからない」は関心度が高い人ほど高く、「知らない」は関心度が低い人ほど高くなっている。

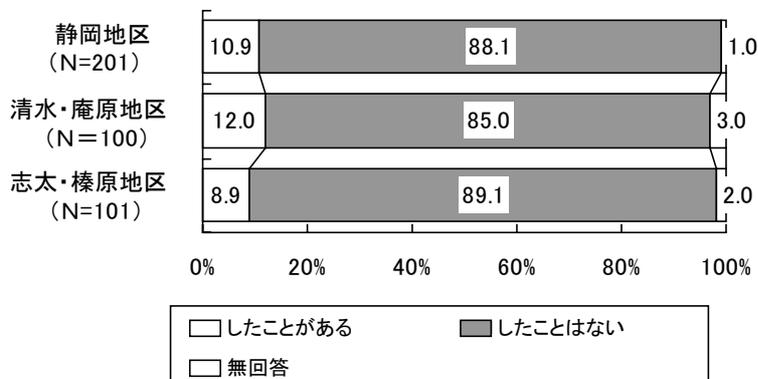
15. 耐震診断・耐震補強について

問22 あなたは、これまでに自分が住んでいる住宅の耐震診断をしたことがありますか。



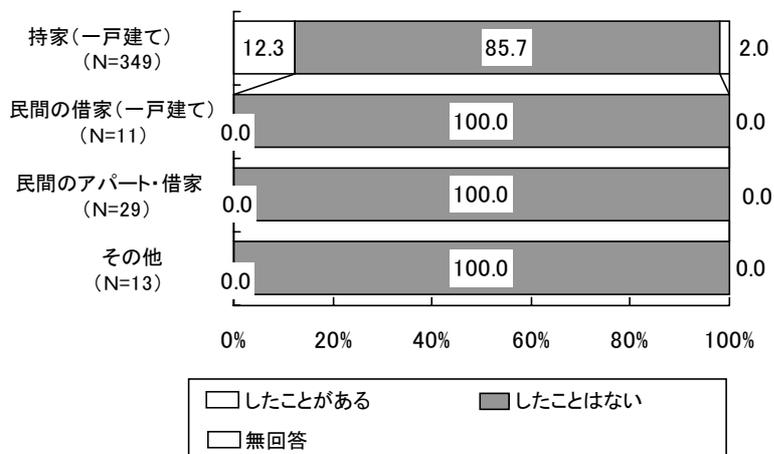
住宅の耐震診断は「したことはない」が87.6%と大半を占めている。「したことがある」はおよそ1割にとどまっている。

<居住地別>



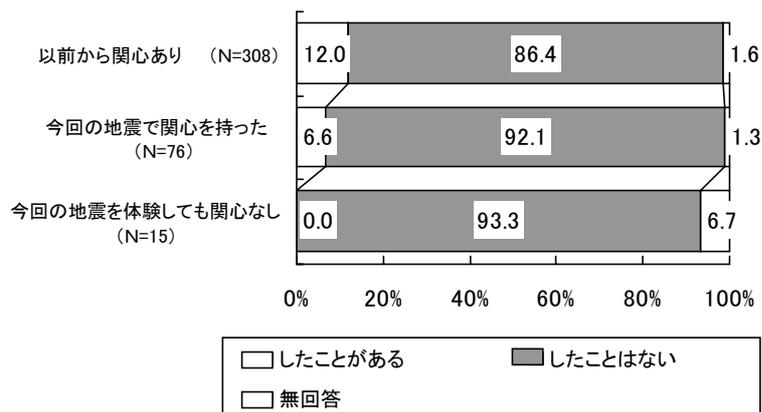
居住地別にみると、耐震診断を「したことがある」が最も多いのは、清水・庵原地区で、12.0%となっている。しかし、どの地区もその割合は1割前後と低い。

<住居形態別>



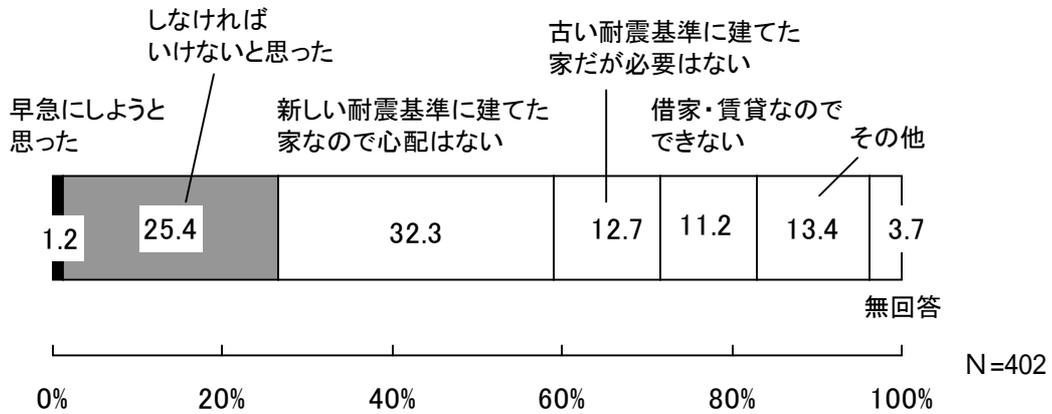
住居形態別にみると、耐震診断を「したことがある」住宅は、持家だけの回答となっており、12.3%となっている。

<東海地震の関心度別>



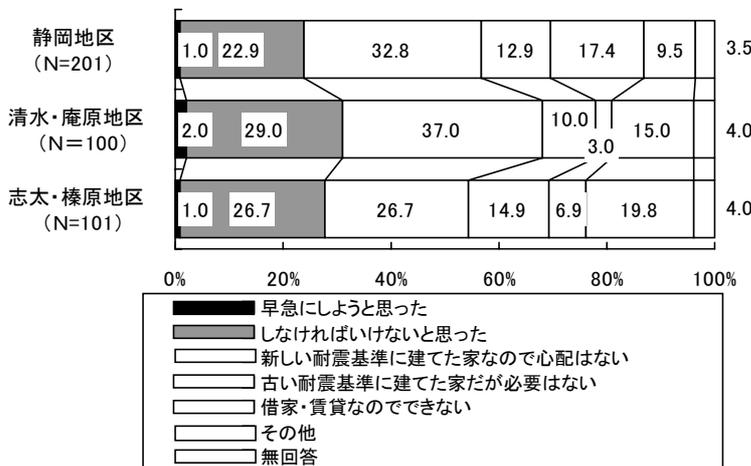
東海地震関心別では、『以前から関心あり』の場合は、「したことがある」割合が12.0%と高いが、関心のない人では皆無となっている。

問 23 あなたは、今回の地震を経験して、自宅の耐震診断をしようと思いますか。



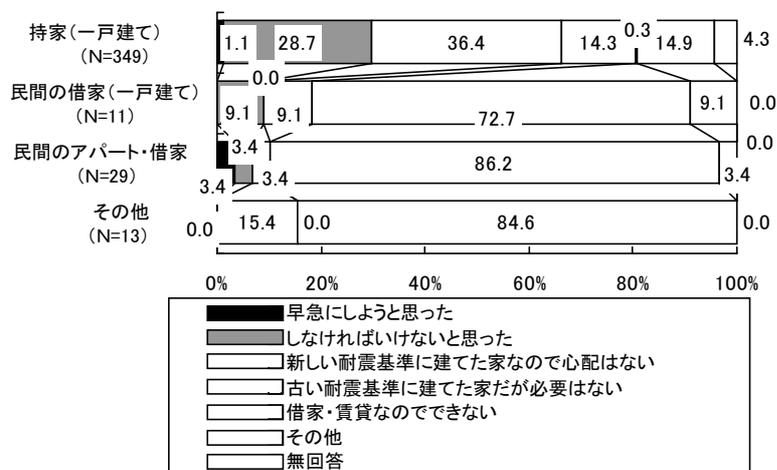
今回の地震を経験しての耐震診断への意向は「新しい耐震基準に建てた家なので心配はない」が32.3%で最も多い。次いで「しなければいけないと思った」が25.4%と4人に1人の割合を占めている。一方で「古い耐震基準に建てた家だが必要はない」が1割に達している。

<居住地別>



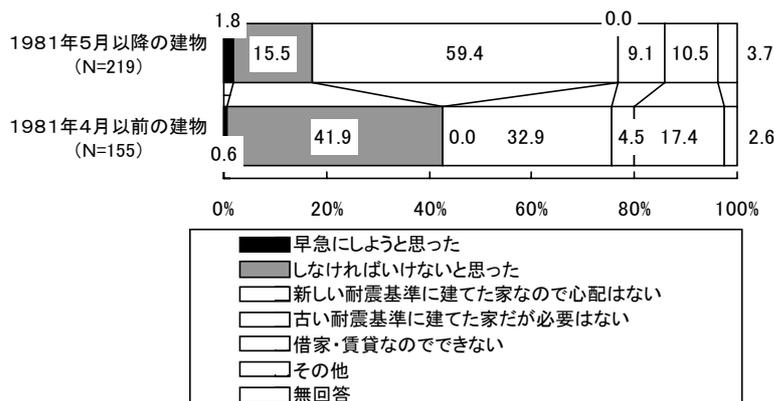
居住地別にみると、耐震診断への意向は、清水・庵原地区で強く、「早急にしようと思った」が2.0%、「しなければいけないと思った」が29.0%と、両者で3割を占めている。

< 住居形態別 >



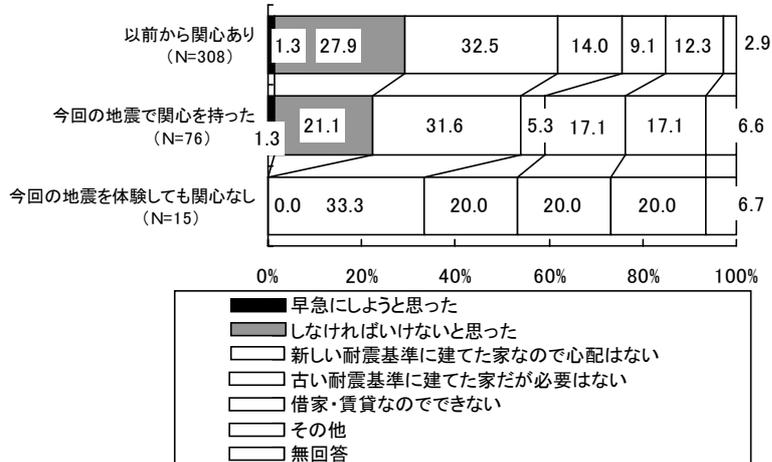
住居形態別にみると、耐震診断の前向きな意向は持家で高く、約3割となっている。借家の場合はいずれも「借家・賃貸なのでできない」が7～8割と、大半を占めている。

< 建築年代別 >



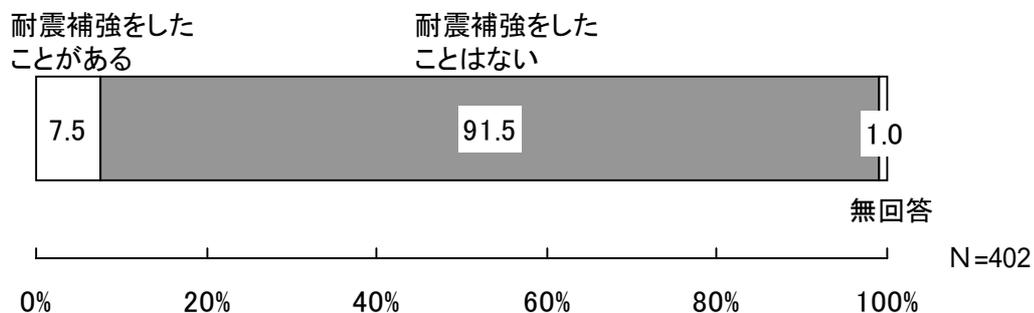
建築年代別では、1981年4月以前の古い耐震基準で建てた家の場合は、耐震診断への意向が強い。特に「しなければいけないと思った」が高く、4割を占めている。

< 東海地震の関心度別 >



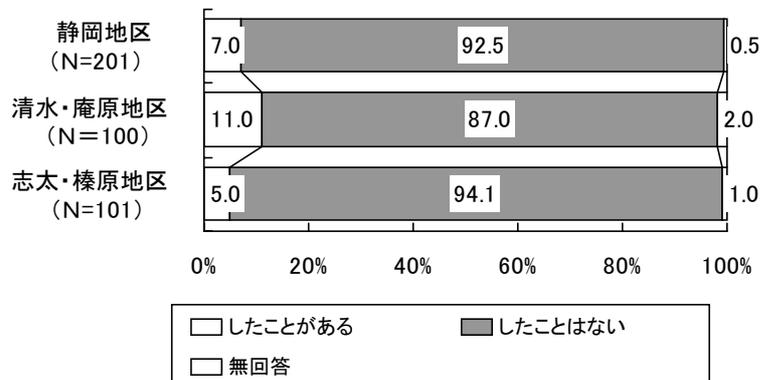
東海地震の関心度別では、「早急にしようと思った」については『以前から』『今回の地震で』両者の関心のある人で1.3%となっている。「しなければいけないと思った」を含む耐震診断意向の強い人の割合は『以前から関心あり』の場合が多い。

問 24 あなたは、これまでに自分が住んでいる住宅の耐震補強をしたことがありますか。



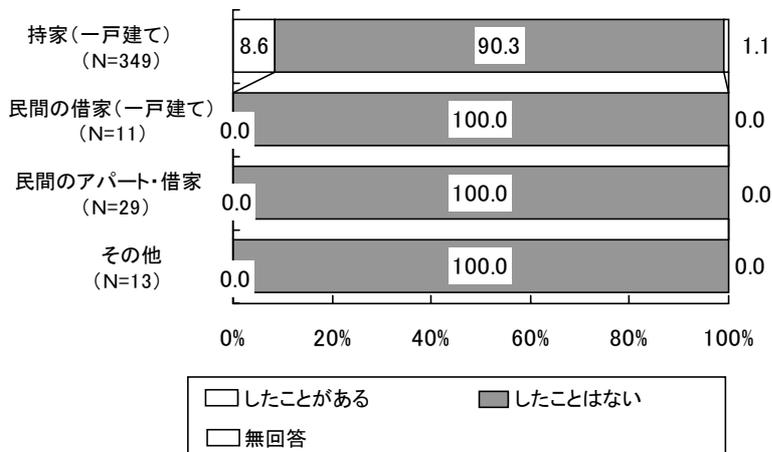
自宅の耐震補強については、「したことはない」が 91.5%とほとんどを占めている。「したことがある」住宅は 1 割に満たない。

< 居住地別 >



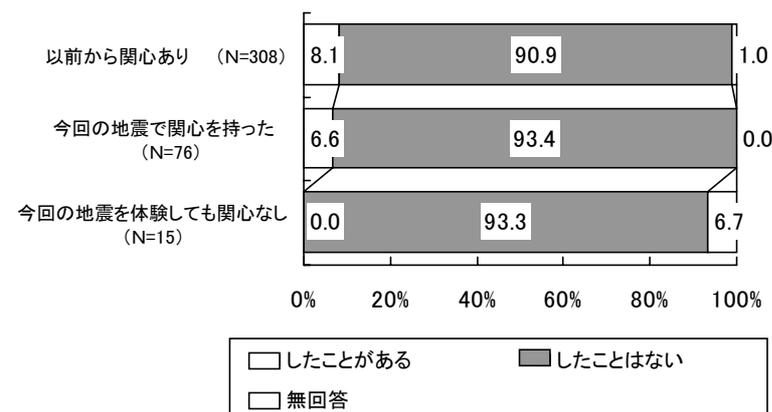
居住地別にみると、耐震診断意向の強かった清水・庵原地区では耐震補強を「したことがある」人が 1 割以上となっている。

< 住居形態別 >



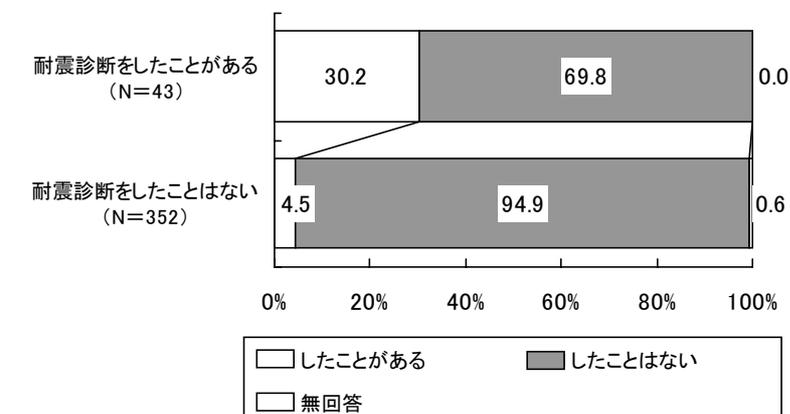
住居形態別にみると、持家のみに「したことがある」との回答があり、8.6%となっている。

< 東海地震の関心度別 >



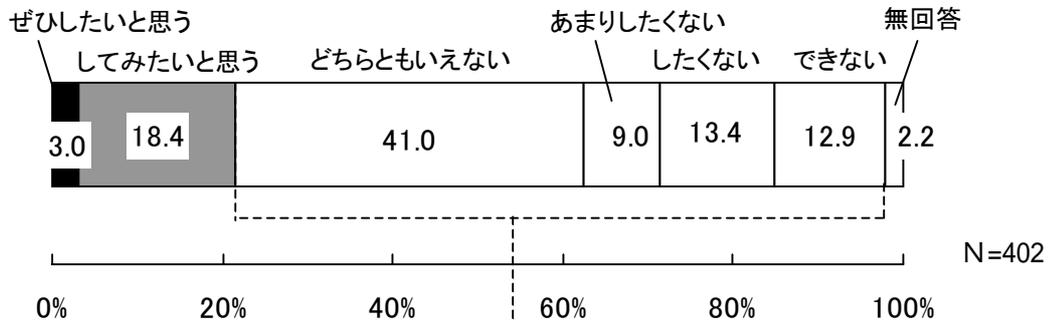
東海地震の関心度別にみると、『以前から関心あり』では8.1%が耐震補強をしている。また、『今回の地震で関心を持った』場合も、6.6%が「したことがある」と回答している。

< 耐震診断の有無別 >

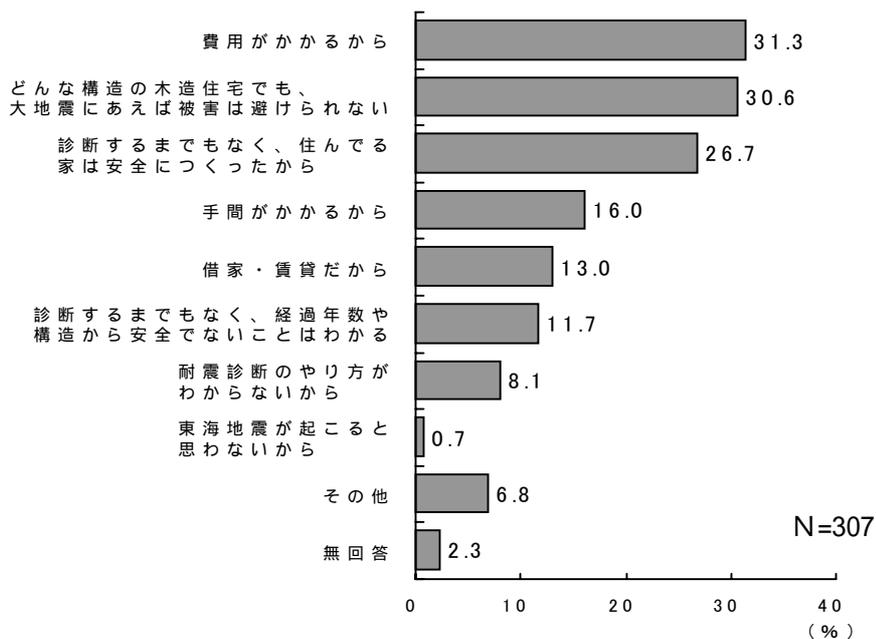


耐震診断の有無別にみると、耐震診断をしたことがある人においても、耐震補強の実施率は30.2%と、3割にとどまっている。また、耐震診断を行わずに、耐震補強を実施した人は4.5%となっている。

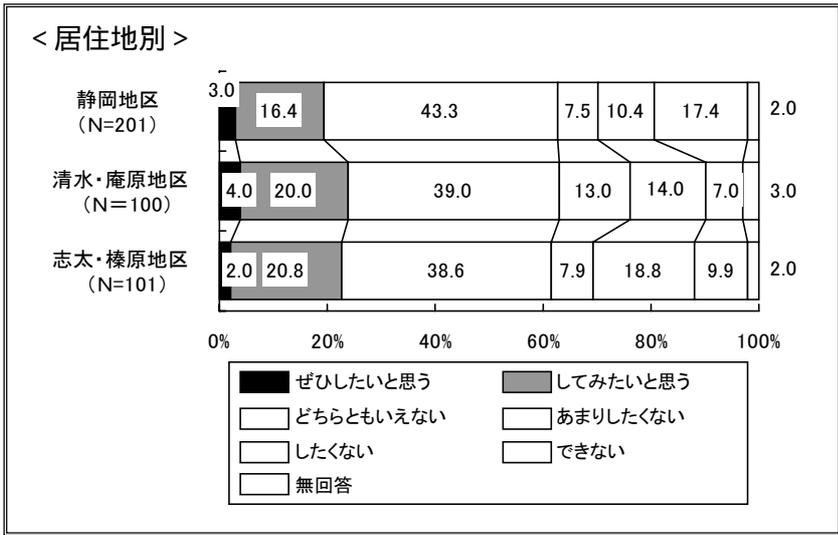
問 25 あなたは、今回の地震を経験して、自宅の耐震補強をしようと思いますか。



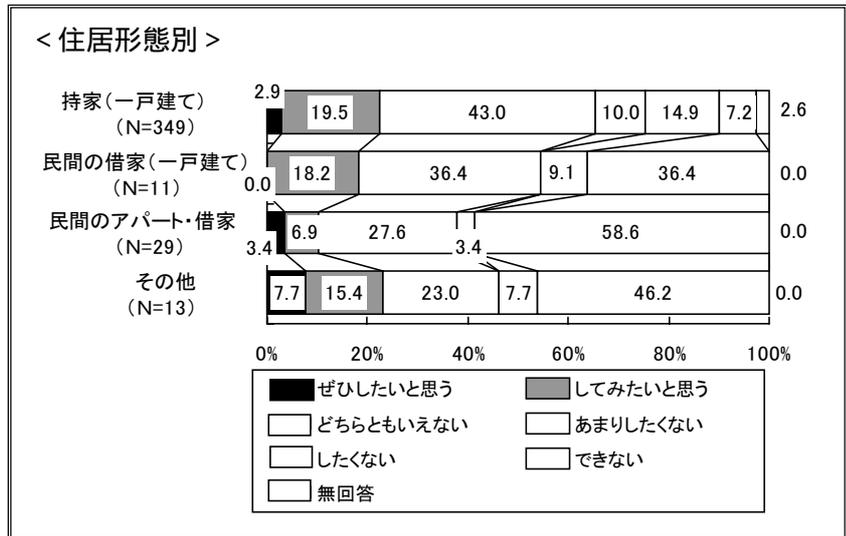
問 25 - 1 ご自宅の耐震補強をしようと思わないのはどのような理由からですか。次の中からいくつでもお選びください。



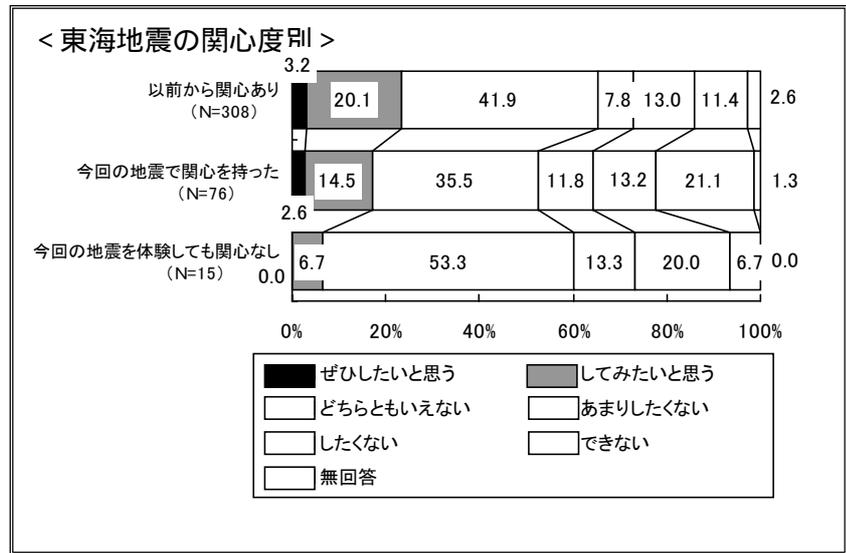
今回の地震を経験して自宅の耐震補強を「してみたいと思う」人は「ぜひ」を含めて 21.4% にとどまっている。「あまり」を含む「したくない」もおおよそ 2 割となっているが、「どちらともいえない」を含む「したくない」「できない」は 8 割弱で、その理由を尋ねたところ、「費用がかかるから」が 31.3% で最も多く、次いで「どんな構造の木造住宅でも、大地震にあえば被害は避けられない」が 30.6%、「診断するまでもなく、住んでる家は安全につくったから」が 26.7% の順となっている。



居住地別にみると、耐震補強への意向は清水・庵原地区で強く、「ぜひしたいと思う」が4.0%、「してみたいと思う」が20.0%となっているが、「あまりしたくない」も13.0%と高く、1割を占めている。

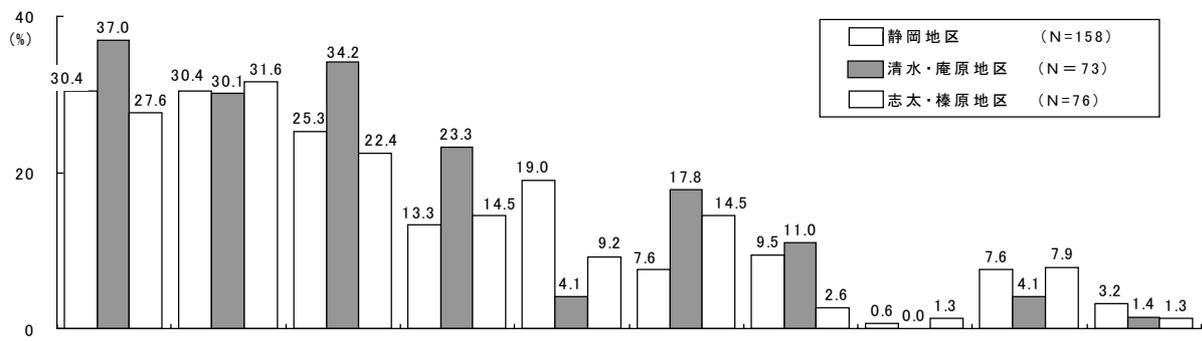


住居形態別にみると、耐震補強への意向は借家などでも見られ、民間の借家では18.2%が「してみたいと思う」と回答している。しかし、「できない」は36.4%と多く、民間のアパート・借家及びその他の形態に関しては、半数前後を占めている。



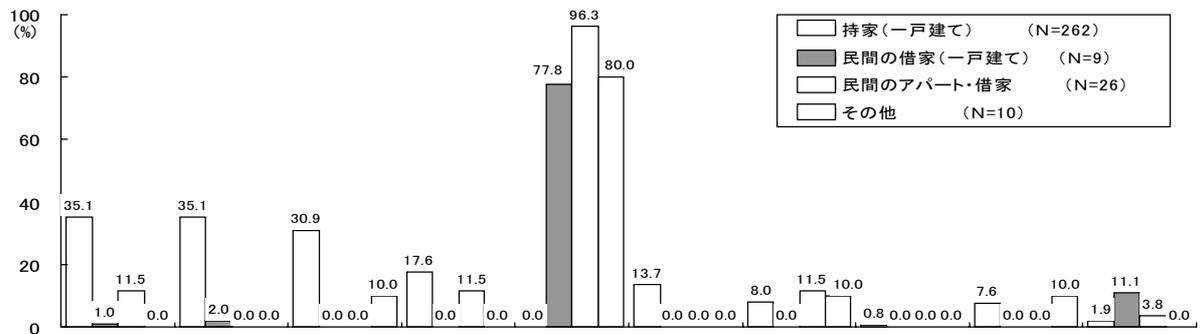
東海地震の関心度別では、関心度の高い『以前から』の場合で耐震補強への意向は強く、「ぜひしたいと思う」は3.2%「してみたいと思う」は20.1%となっている。

< 居住地別 >



居住地別にみると、多くの項目で清水・庵原地区が他の2地区に比べ、高くなっている。また、「耐震診断のやり方がわからないから」は志太・榛原地区が2.6%であるのに対し、静岡地区では9.5%、清水・庵原地区では11.0%と、ともに約1割を占めている。

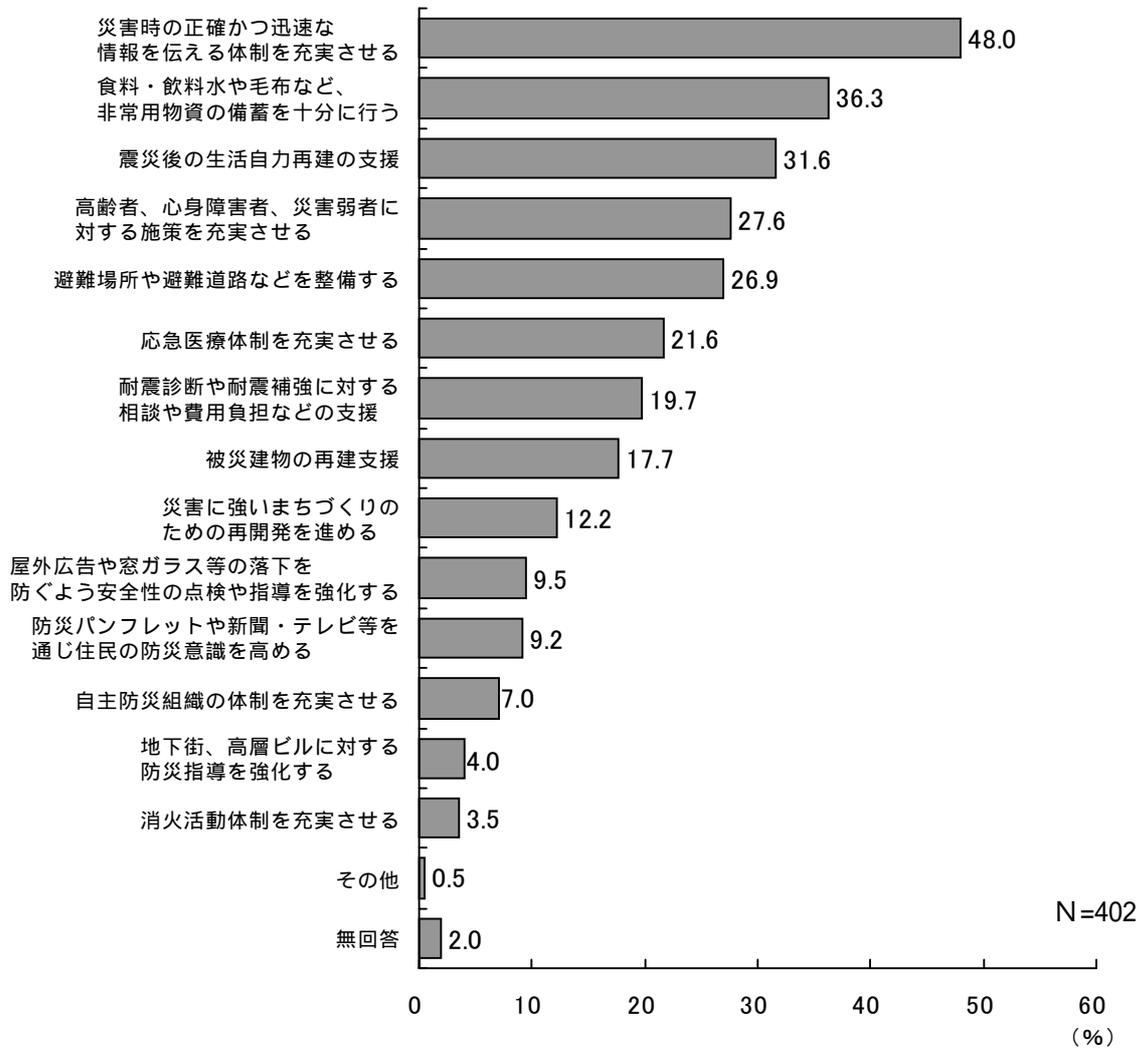
< 住居形態別 >



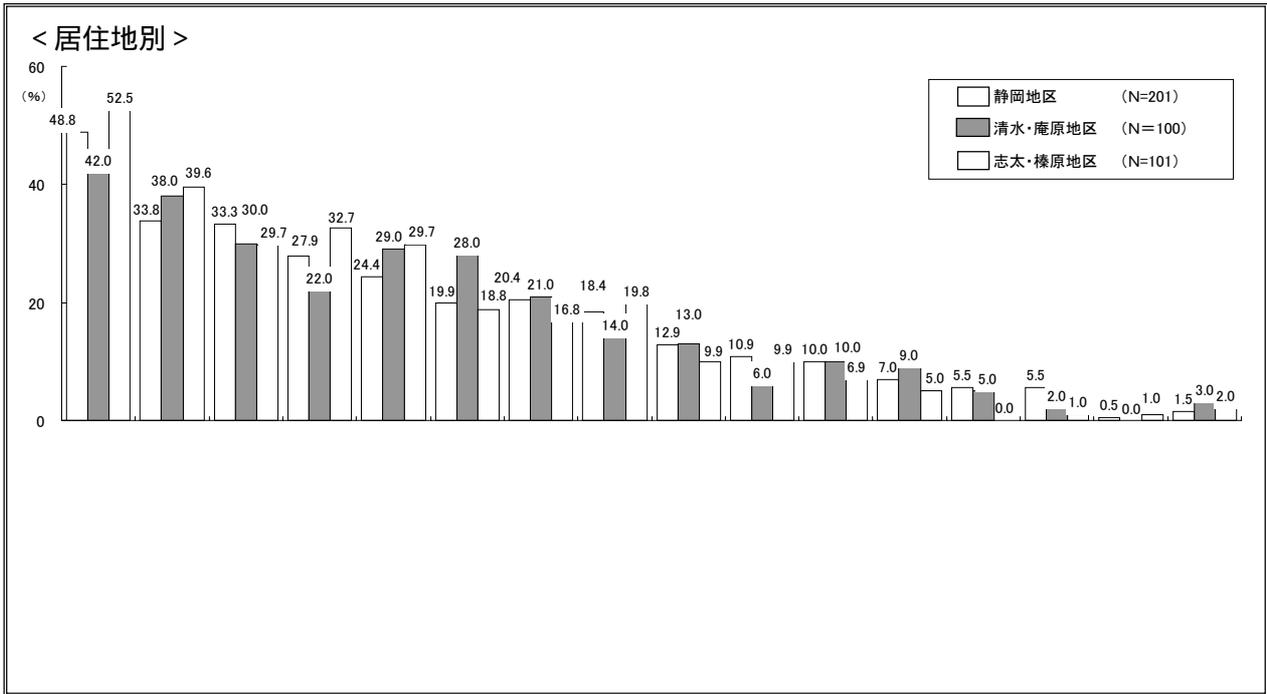
住居形態別にみると、持家はある程度回答が分散しているが、民間の借家・アパートに関しては「借家・賃貸だから」が大半を占めている。

16. 地域防災に関して行政に望むこと

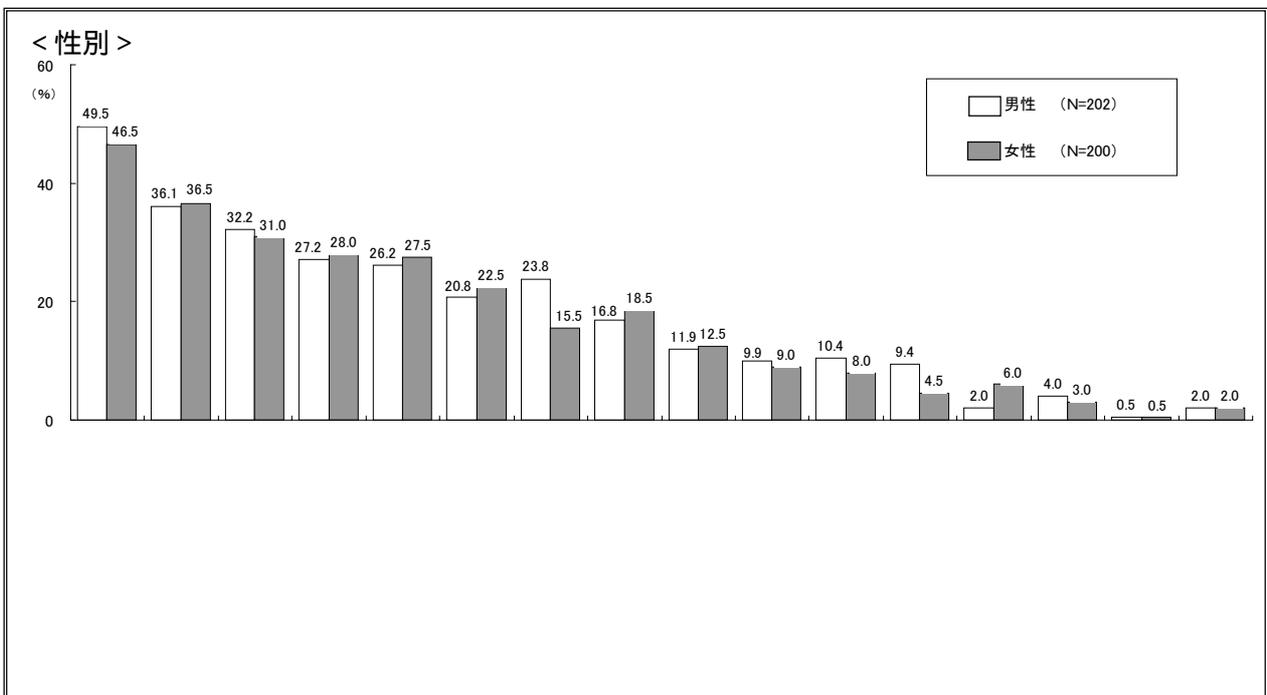
問 26 それでは、防災対策で、特に行政に力を入れて取り組んでもらいたいものを3つまでお答えください。



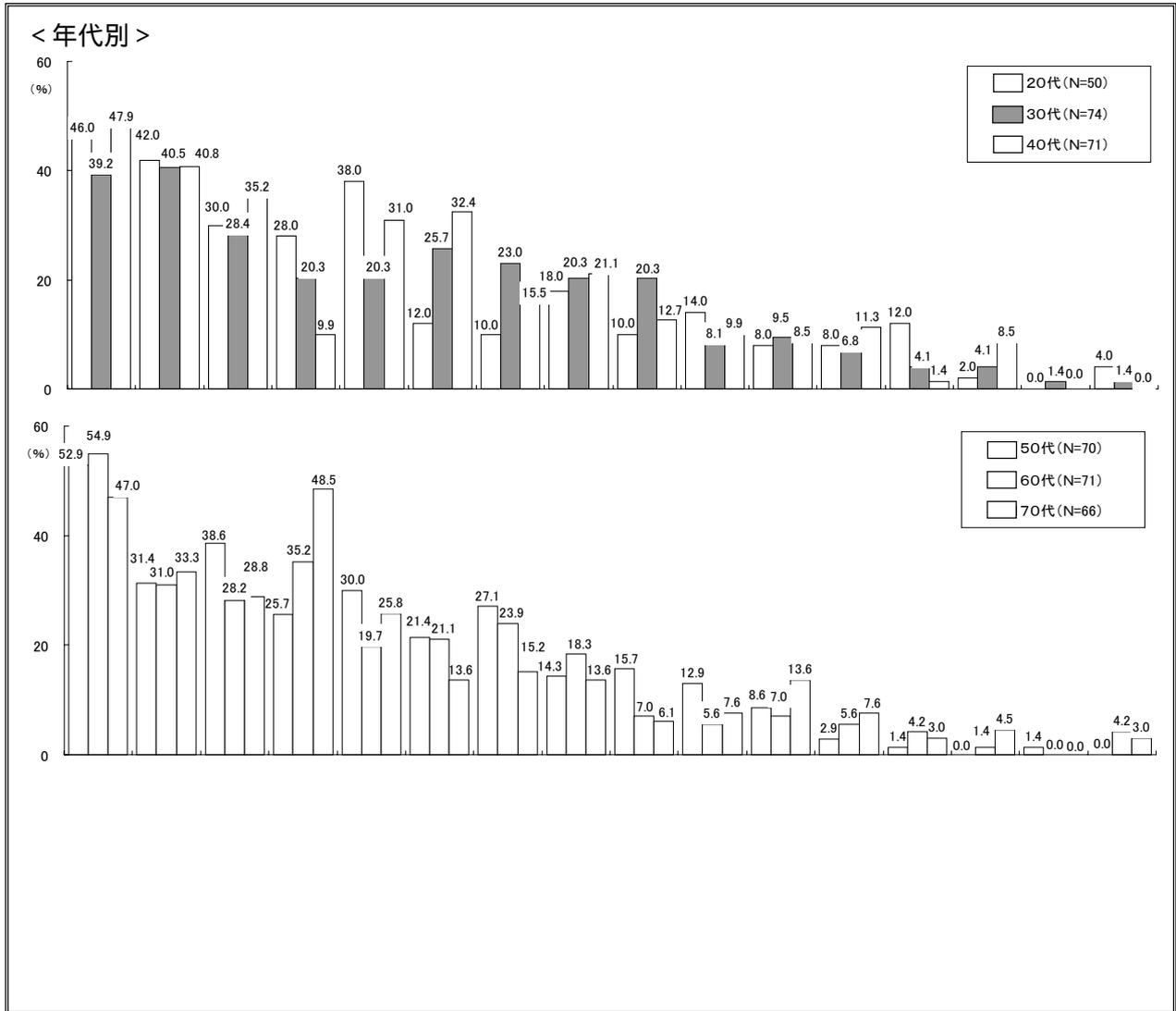
地域防災に対して行政に望むことは、「災害時の正確かつ迅速な情報を伝える体制を充実させる」が48.0%と半数近い回答を得ている。全体的に災害発生後の避難生活への支援に関する項目が2～3割で上位を占め、防災事項への要望はほとんど1割以下にとどまっている。



居住地別では、震源に近かった志太・榛原地区で要望が高い項目が多く、特に、「災害時の正確かつ迅速な情報を伝える体制を充実させる」においては 52.5%と、震源から遠く、震度を小さかった清水・庵原地区に比べて、10.5 ポイント高くなっている。



性別でみると、「耐震診断や耐震補強に対する相談や費用負担などの支援」において 8.3 ポイント男性が上回っているが、その他の項目に関しては、さほど大きな差はみられない。



年代別にみると、上位にあがっている「災害時の正確かつ迅速な情報を伝える体制を充実させる」は50代と60代で半数以上を占めており、「食料・飲料水や毛布など、非常用物資の備蓄を十分に行う」は20代～40代で高くなっている。

また、「高齢者、心身障害者、災害に弱い人に対する施策を充実させる」は70代で48.5%と、最も低い40代(9.9%)と比べると38.6ポイントの差がみられる。

自由回答一覧

問7 - 1 どのようなものがどのくらい破損及び転倒しましたか。その物ごとにお答えください。

物	どのように	いくつ	住居形態	住居構造	地区
花瓶	倒れた	1	給与住宅	S R C造	静岡市
保存食のうどん	落下	1	給与住宅	S R C造	静岡市
カップ	倒れた	3	給与住宅	不明	静岡市
グラス	倒れた	2	給与住宅	不明	静岡市
陶器の置物	破損	1	給与住宅	不明	静岡市
人形	倒れた	2	公営の賃貸住宅・アパート	不明	静岡市
折たたみイス	倒れた	1	持家	R C造	静岡市
パズル	倒れた	1	持家	S R C造	静岡市
額	落下	2	持家	S R C造	静岡市
人形	落下	1	持家	S R C造	静岡市
健康器具	倒れた	1	持家	その他の非木造	静岡市
小物	落下	3	持家	その他の非木造	静岡市
置時計	落下	1	持家	その他の非木造	静岡市
C D	落下	50	持家	不明	静岡市
写真たて	倒れた	2	持家	不明	静岡市
置物	落下	3	持家	不明	静岡市
C Dケース	落下		持家	木造	静岡市
こけし	倒れた	1	持家	木造	静岡市
こけし	倒れた	1	持家	木造	静岡市
こけし	倒れた	1	持家	木造	静岡市
こけし	落下	1	持家	木造	静岡市
こけし	落下	1	持家	木造	静岡市
ジグソーパズル	落下	1	持家	木造	静岡市
スプレー	落下	2	持家	木造	静岡市
ビデオテープ	落下	6	持家	木造	静岡市
ワイングラス	倒れた	1	持家	木造	静岡市
ワイングラス	破損	1	持家	木造	静岡市
化粧品	倒れた	2	持家	木造	静岡市
化粧瓶	落下	2	持家	木造	静岡市
花瓶	倒れた	1	持家	木造	静岡市
花瓶	倒れた	1	持家	木造	静岡市

物	どのように	いくつ	住居形態	住居構造	地区
花瓶	落下	1	持家	木造	静岡市
懐中電灯	落下		持家	木造	静岡市
絵	ずれた	3	持家	木造	静岡市
額		1	持家	木造	静岡市
額	ずれた	1	持家	木造	静岡市
額	傾いた	1	持家	木造	静岡市
額	倒れた		持家	木造	静岡市
額	落下	2	持家	木造	静岡市
瓦	ずれた	15	持家	木造	静岡市
鏡	落下	1	持家	木造	静岡市
空箱	落下	3	持家	木造	静岡市
時計	落下	1	持家	木造	静岡市
写真	倒れた		持家	木造	静岡市
写真たて	倒れた	1	持家	木造	静岡市
写真たて	倒れた	2	持家	木造	静岡市
小さな鏡	落下	5	持家	木造	静岡市
小物など	落下	4	持家	木造	静岡市
人形	倒れた	3	持家	木造	静岡市
人形	落下	1	持家	木造	静岡市
人形等			持家	木造	静岡市
人形等	落下	6	持家	木造	静岡市
水槽の水	零れた		持家	木造	静岡市
瀬戸物の人形	割れた	4	持家	木造	静岡市
洗面所のホース	外れた	1	持家	木造	静岡市
台所洗剤	倒れた		持家	木造	静岡市
置物	倒れた	2	持家	木造	静岡市
置物	倒れた	3	持家	木造	静岡市
茶筒	落下	1	持家	木造	静岡市
電器	落下	1	持家	木造	静岡市
湯のみ	落下	2	持家	木造	静岡市
鉢植え	落下	1	持家	木造	静岡市
仏具	落下	1	持家	木造	静岡市
仏具	落下	1	持家	木造	静岡市
本	倒れた	3	持家	木造	静岡市
本	落下	3	持家	木造	静岡市

物	どのように	いくつ	住居形態	住居構造	地区
本	落下	10	持家	木造	静岡市
木刀	落下	1	持家	木造	静岡市
テレビの上の物	落下	5	民間のアパート・借家	S R C 造	静岡市
人形の置物	傾いた	1	民間のアパート・借家	S R C 造	静岡市
コップ	落下	3	民間のアパート・借家	不明	静岡市
トロフィー	倒れた	2	民間の借家	木造	静岡市
額	ずれた	5	民間の借家	木造	静岡市
人形	倒れた	2	民間の借家	木造	静岡市
写真たて	倒れた	3	木造一戸建て2階借家	木造	静岡市
コップ	倒れた	1	持家	S R C 造	清水市
植木	落下	1	持家	S R C 造	清水市
人形	落下	3	持家	S R C 造	清水市
温室	棚がはずれた	1	持家	木造	清水市
額	倒れた	1	持家	木造	清水市
時計	倒れた	1	持家	木造	清水市
写真たて	倒れた	4	持家	木造	清水市
置物	落下	1	持家	木造	清水市
額	落下	1	持家	木造	焼津市
額	落下	1	持家	木造	焼津市
小さい置物	倒れた	2	民間の借家	木造	焼津市
茶筒等	倒れた	10	持家	その他の非木造	島田市
額	倒れた	1	持家	木造	島田市
人形	倒れた	1	持家	木造	島田市
店の商品	落下	4	持家	木造	島田市
突っ張り棚	倒れた		持家	木造	島田市
ヘアスプレー缶	落下	1	持家	木造	藤枝市
携帯ラジオ	落下	1	持家	木造	藤枝市
写真たて	倒れた	1	持家	木造	藤枝市
ぬいぐるみ	落下	2	民間のアパート・借家	R C 造	藤枝市
小さな人形	倒れた	2	民間のアパート・借家	R C 造	藤枝市
スピーカー	倒れた	1	持家	木造	川根町
スプレー	落下	3	持家	木造	川根町
スプレー缶	落下	2	持家	木造	川根町
置時計	落下	1	持家	木造	川根町
置物	落下	1	持家	木造	川根町
本	倒れた	2	持家	木造	川根町
目覚し時計	落下	1	持家	木造	川根町

問 27 今回の地震にあわれて、家庭や地域の地震対策で、どんな事が大切と感じましたか。

原 文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
今回の地震でいつどこで、東海地震が起こるかもしれないと自覚して、家族同士避難場所の確保、非常持ち出し品を用意しておく必要があると感じた。	男性	20代	静岡市	持家	S R C造
気が付かない程度なので特に感じたことはない。	男性	20代	静岡市	持家	不明
家から火を出さない事。	男性	20代	静岡市	持家	木造
情報が少ない。自分の地域でどうなっているのか…。	男性	20代	静岡市	民間の アパート・ 借家	非木造で あるが構 造は不明
自分で備える事の出来るものなど、持ち出しにもう少し気をつけたい。	男性	20代	静岡市	持家	木造
備蓄。	男性	30代	静岡市	持家	木造
非常食や荷物を用意しておくべきだと思いました。	男性	30代	静岡市	持家	木造
町内会費を払っていない(大家さんがまとめて一括している)ので、地域の情報が全く分からないし、広報静岡もないため、自分の住んでいる町の事が分からない。日頃から近所の方と情報の交換や、どのような方が住んでいるのか、知っておく事が大事。家族(子供達)の避難場所を知っておく事。	男性	30代	静岡市	民間の アパート・ 借家	木造
地震後の二次災害の予防。	男性	30代	静岡市	民間の アパート・ 借家	R C造
大きな地震がくれば、なるようにしかならない。最小限の被害で収まるような対策は各人が考えるべきことだ。	男性	40代	静岡市	持家	木造
1.揺れたらすぐに安全な場所にかくれたり行動を取ること(自分は様子を見てするしかないを判断しようとしたが、それでは遅いと思う) 1.家内の点検(タンス等) 1.着る服、くつ、懐中電灯等	男性	40代	静岡市	持家	不明
年2回半年毎に防災用品の確認をしているが。	男性	40代	静岡市	民間の アパート・ 借家	S R C造
震度5強というが、震度計設置の所が5強であったので、自宅の所はそんなになかったと思う。ガスのマイコンメーターもとまらなかった。	男性	40代	静岡市	民間の アパート・ 借家	不明
東海地震も視野に入れ、地震の危険性はもとより、二次災害、三次災害防止の為の情報網の整備、電話のつながりにくさ、喚起していたのにも関わらず、不通になったときいている。対応策のすそのは広いが、今回の地震を好機と捉えて早期なる対応の再検討を望むものです。	男性	40代	静岡市	持家	その他の 非木造
非常用物資を充分にする。そして持ち出しがしやすいようにする	男性	40代	静岡市	持家	木造
静岡に住んでいる人の方が、地震の怖さを忘れてしまっているのではないかと思いました。実際に地震が起こった時、何も出来ませんでした。それはやはり地震に対する危機感が薄れていたのが原因だと思います。普段の生活でもいつ地震が起こってもおかしくないという事を常に念頭におき、防災訓練に真剣に取り組んだり、それぞれの家庭での準備が大切だと思いました。	男性	40代	静岡市	持家	木造
・地震に対する備え(必要最小限度の)・地震直後の情報を早く知り、どう行動するか。	男性	40代	静岡市	社宅・公 務員住宅 など 給与住宅	S R C造
あわてないこと。自分の身は自分で守ること。	男性	50代	静岡市	持家	その他の 非木造

原文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
パニックにならないよう、冷静に落ち着いた判断と行動。	男性	50代	静岡市	持家	木造
慌てずに、すばやい行動。情報の収集。	男性	50代	静岡市	持家	その他の非木造
正確な情報・津波・余震・被害状況・ホットラインの確認 広報の活用、確認・消防・警察・市、県	男性	50代	静岡市	持家	木造
寝室に家具等を置かない方が良かった。	男性	50代	静岡市	持家	木造
今回は被害がなく幸いです。家庭で出来る防止策を確実にし、あわてず冷静な行動を取る事が大切と、常に用心する心掛けが必要と思います。	男性	60代	静岡市	持家	木造
・家庭内の不要な物品は処分する・家具の上に余分な物は置かない・食器棚は常に整理しておく・壁掛け額はしっかりと固定する	男性	60代	静岡市	持家	木造
・非常用物資の再確認をしなくてはならないと思った。(年・月・日の確認)・寝ている上の物の確認(落下注意)	男性	60代	静岡市	民間の借家	木造
自分の所では変化がなかったので、正直いって切迫感がない。	男性	60代	静岡市	持家	木造
避難場所が遠いので近くにあれば安心だと言う事を考えました。	男性	60代	静岡市	持家	木造
家の耐震構造をすすめること。地震情報をすぐに流すこと。家具が倒れないようにとめておくこと。	男性	60代	静岡市	持家	木造
地域、家庭の人が各自連絡しあうこと。	男性	70代	静岡市	持家	木造
・あわてない事・家具を固定するなど、対策をしっかりする。	男性	70代	静岡市	持家	木造
冷静に状況判断し、行動に移る事。	男性	70代	静岡市	持家	R C造
火災発生防止と避難対策。	男性	70代	静岡市	持家	木造
倒れるものの無いところで寝る。下より上に寝る(2階)。	男性	70代	静岡市	持家	木造
避難場所、家族の落ち合う場所の確認	女性	20代	静岡市	持家	木造
自分たち個人個人で出来る事はしておく。水、食料、貴重品のまとめ。家具などの固定 etc .	女性	20代	静岡市	持家	木造
最近子供を出産したばかりなので、改めて真っ先に守らなければならないものを確認できた。	女性	20代	静岡市	民間の借家	木造
防災袋を作りたいと思った。	女性	20代	静岡市	持家	木造
準備と避難場所、経路の確認。	女性	20代	静岡市	社宅・公務員住宅など 給与住宅	S R C造
家具の補強。外出中(勤務中)の連絡方法。	女性	20代	静岡市	持家	その他の非木造
すぐに情報が欲しい。	女性	30代	静岡市	持家	木造
冷静に対処する。万が一の備えをしておく。	女性	30代	静岡市	持家	木造
常に地震が起こる事を意識した生活(家具を倒れないように固定しておくなど)いつ起こるかわからないので、寝ていても家具が倒れて動けなくなったなどのないようにしておく。	女性	30代	静岡市	民間の アパート・ 借家	S R C造
備えをしなければ...と思いながら、何もしていない自分がありました。自分、家族の事は自分達で守るという気持ちが大切で、家具の固定、非常持ち出し袋等の準備、避難場所の確認など、もう一度、見なおしたいと思います。	女性	30代	静岡市	持家	木造
今回の地震は揺れている時間が10秒位ということで幸い被害も少なく済みましたが、これがもっと時間が長かったら、もっと被害が大きくて、想像もつかない程すごい事になっていたかも知れないと思うとこわい気がします。最低限、自分の家の中の点検は、日頃からしておいた方が良かったと思いました。	女性	30代	静岡市	持家	木造
いつでもすぐに着る物、履物を手元に置いておくようにしたいと思う。	女性	30代	静岡市	持家	木造
自主防災組織について、あまり分かっていなかったなので、体制について、知識の啓発が必要だと思いました。	女性	30代	静岡市	民間の アパート・ 借家	木造

原文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
今回は夜全員が家にいる時で良かったが、昼間に発生すると、自宅、夫の会社、小学校、鷹匠の幼稚園と離散する為、大変な事になると思った。連絡方法、誰が誰を迎えに行くかをきちんと決めて、冷静に行動することが必要と感じた。西島地域はなぜ、海に近い中島小が避難先なのでしょう？ガンコに学区の小学校にこだわらず、より安全な、例えば高松中、市立商業高校等の地域が、あらかじめ避難先とはならないのでしょうか。	女性	30代	静岡市	持家	木造
・非常袋を購入してないので、非常袋を購入しようと思った。・何年か前に神戸で大きな地震があった時、神戸の人たちがこういう揺れを感じ、怖い思いをしたんだと感じた。火事が出なかったのも、不幸中の幸いだった。・昼間、子供達に、学校にいる時は学校の支持にしたがって、登下校中は公園へ避難するように話をした。	女性	30代	静岡市	持家	木造
水は用意してあるので、非常食等も用意が必要だなあと思いました。	女性	30代	静岡市	社宅・公務員住宅など 給与住宅	不明
・家具の固定・食料、飲料水の用意	女性	30代	静岡市	民間の アパート・ 借家	不明
いつ地震が起きても何をすべきかを、一人一人が自覚して行動出来るようにしておく事が大切。	女性	40代	静岡市	持家	R C造
就寝中だったので、びっくりして様子を見ている事しか出来なかったのですが、被害がほとんどなかったのも、すぐ冷静になって、家の中を点検する事が出来ました。日頃は地震時にはあししよう、こうしようと思っているのですが、寝ているのを起こされると、何も出来ない事を実感しました。家具の固定、ガラスの飛散防止など、ケガ人がでないためには重要だと思いました。直後に窓を開けて、近所の様子を見たのですが、全体的に静かで、どの家でもほとんど問題はなかったように思いました。もう少し強い地震であったなら、声を掛け合って、安否等の確認をすべきだと思いました。	女性	40代	静岡市	持家	木造
まずは日頃からいつ地震が起きても不思議ではないという自覚を持つ事が大切だと思う。	女性	40代	静岡市	民間の 借家	木造
揺れている間はどんな行動を取ったらいいのか、あるいはじっとしていた方がいいのか。その点をよく話し合った方がいいと思う。防災意識を今まで以上に持った方がいいと思う。(避難場所の確認、非常食の用意など)	女性	40代	静岡市	持家	木造
・来る時は来る、と思い、日常生活の一部と考えるようにする。・束縛にならない程度の行き先を家族に知らせておく。	女性	40代	静岡市	持家	木造
毎日の寝る場所の位置を考えなくては、又家具、TV、本棚の固定が必要かなと感じた。	女性	40代	静岡市	持家	木造
お互いばらばらな場所にいた場合の対処の仕方を確認しておく事。	女性	40代	静岡市	持家	木造
・今はみんなが携帯ばかり持っているのも、何かあった時は通信不能になるので困る。・私は病院で透析をやっているのも機械が止まるのではないかと心配。・交通信号機。	女性	40代	静岡市	民間の アパート・ 借家	R C造
・火の元の確認・家族の避難場所の確認・すぐ外へでない事	女性	50代	静岡市	持家	木造
近所の方達との連絡。お互いに安否を確認する。	女性	50代	静岡市	持家	木造
震度5でもビックリしたけど、実際何が出来るのか、日頃用意が必要だと思った。	女性	50代	静岡市	持家	木造
地震保険に入りたいと思っはいるが、静岡はその危険性から、保険料がたいそう高く、思いとどまっていた。でも、やはり必要と考える。	女性	50代	静岡市	持家	木造
この地域には避難する場所、広場がないので、とても不安、中島小学校が地域の避難場所となっているが、津波の心配の時にわざわざ海の方に行くのもどうかと思う。	女性	50代	静岡市	持家	木造

原文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
今回はおかげで被害がなかったものの、同じ規模の地震でも、揺れ方、震源の深さで様子の違う地震と思われるので、家庭においてはまず、家族全員の身の安全の確保の為の避難方法、場所、連絡方法を定める事。又、家具の固定、非常持ち出し品のチェック、食料の備蓄の点検も定期的に行う事と、正確な情報を基に冷静にかつ機敏に行動出来たらと思う。“備えあればうれいなし”の言葉通り心掛けたい。	女性	50代	静岡市	持家	その他の非木造
今回は地震の大きさに比べて、揺れたのがドスンと落ちた感じと、時間が短かった気がして(余震も感じなかったし)後ですごかったんだと改めて感じました。地震対策は全くしていなかったのも、せめて非常持ち出し袋と水だけは確実に用意しなければと感じました。備えあれば...の格言が頭に浮かびます。	女性	50代	静岡市	持家	木造
東京から引っ越して数ヶ月しか住んでいませんが、日頃から地震の話はしている。家族が減って家具も少なくなり、気配りも少なくなったが、やはり、テレビが倒れないか、食器棚が倒れたら危ない、と不安になります。又、2階なので階段がなくなったら飛び降りるしかないのかとも思ったりします。	女性	50代	静岡市	一戸建ての2階のみ借家	木造
ブロック塀が倒れた場合、危険ですから、行政指導をしていただきたい。	女性	60代	静岡市	持家	その他の非木造
物が落ちてくる事があるので、外には出ないでじっとしていることが大切と思う。	女性	60代	静岡市	持家	木造
日頃から家族で話し合う事。	女性	60代	静岡市	持家	木造
いざ地震にあってみると、一步も動かせません。かえって家の外に出るより、家の中にいる方が安全かと思えます。防災訓練にも何度か出席しましたが、いざとなると動けなくなると思えます。	女性	60代	静岡市	持家	木造
物が倒れてこない安全な場所で寝よう心掛ける必要がある。倒れやすい家具を固定する必要がある。	女性	60代	静岡市	持家	木造
テレビ・ラジオの早い情報有り難いと思う。離れて生活している子供達より、気遣って電話をすぐくれた事は嬉しく思う。	女性	70代	静岡市	持家	SRC造
落ち着いて行動する事。あわてて外にでない。	女性	70代	静岡市	持家	木造
家のすぐ裏が小学校です。避難場所なので先ず「其処」へ避難します。夜なら家族一緒に、昼なら私一人で場所へ行きます。	女性	70代	静岡市	持家	木造
高い所に物を置くときは特に注意を。家族で改めて充分相談すること。家具の置き方。急な時に逃げるような事が起こったら、すぐに持ち出せるよう、小さいラジオ、靴、懐中電灯、ヘルメット、水、集合場所を話し合う事。	女性	70代	静岡市	持家	木造
常に備える。	男性	20代	清水市	持家	木造
被害を最小限に食い止めるように各家庭で防災対策を充分にする。	男性	30代	清水市	持家	木造
防災訓練に参加した事がないのでこれからは参加してみようと思った。	男性	30代	清水市	持家	木造
とっさに何をどうすればいいとか、何をやればいいのか、落ち着いて考える事が出来なかったのも、日頃からの防災意識を持ち、準備しておくものを揃えておく。	男性	30代	清水市	持家	木造
自宅における飲料水の確保。家具の固定。	男性	30代	清水市	持家	木造
家屋等(公共施設)の耐震補強の充実(行政支援による)	男性	40代	清水市	持家	木造
いざという時に冷静に対処できるよう各家庭や各地域でマニュアルを作成し、意識を高めておくことが、大切と思う。	男性	40代	清水市	持家	SRC造
家具の転倒防止等、身の回りを整備しておくことが見を守る最善の方策だと感じた。	男性	40代	清水市	持家	SRC造
家具類の固定。又、夜遅くの地震発生であった為、子供たちが就寝していた事もあり、そういう状況の中での避難の仕方を再度話し合うことが必要であった。	男性	40代	清水市	持家	木造
揺れている時は何も出来ないのも、揺れても大丈夫なように家具の配置や固定をしっかりとしておく。	男性	40代	清水市	持家	その他の非木造

原文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
いつも冷静に行動を取ること。家族とよく話し合う事。	男性	50代	清水市	持家	SRC造
個々に（家族が）避難したときの避難場所の再確認。	男性	50代	清水市	持家	木造
1.住居の構造にもよるが、今までの地震の教訓として、地震が納まってから住居外へ避難する方が安全性が高いかと思われる。 2.余裕のある場合は設定されている避難場所への避難は可能であるが、緊急の場合は近くの避難場所（当地区の避難場所ではない）に避難する柔軟な対応が必要と思われる。3.避難場所へ避難する安全道路等再確認が必要と思われる。（道路に面したブロック塀の危険度チェックも検討の要あり）	男性	60代	清水市	持家	木造
自分の身は自分で守る。	男性	60代	清水市	持家	木造
地震の大きさの程度により、個人で不可能な事もあり、備蓄しても持ち出せない事もある。一定の場所に必要な物を確保して欲しい。	男性	60代	清水市	持家	木造
私は清水に住んで76年、大きな地震に2度合って居ります。今回の地震は県の情報から5という事ですが、清水市は3～4位だと思います。1.あわてない事、2.揺れがなくなるまで座るなり伏せるなり、つかまるなり、なくなってから行動する。早まって動くとケガのもと。家具が倒れ、割れたガラス、揺れがなくなつてから外に出る。私も毎年自主防災に参加しておりますが、いつも感じる事は6.5～7の地震の場合、皆様何にも出来ないのではないのでしょうか。皆様各人が防災意識を持つ事が大事だと思います。（大勢の人に）又、地震後の生活再建が必要と思います。	男性	70代	清水市	持家	木造
東海地震に対する正しい知識を伝えることの必要性 非常用飲料水、食料品の準備 家具の固定（やってあることの効果を確認した）	男性	70代	清水市	持家	木造
地震の揺れがおさまるまでは外に出ないこと。	男性	70代	清水市	持家	木造
・家具が倒れないように固定する。 ・非常持ち出し品の用意。	男性	70代	清水市	持家	木造
自分が地震に対して、意識が低いと思った。家族任せの所があるな、と感じた。	女性	20代	清水市	持家	木造
「備えあれば憂いなし」と思った。	女性	20代	清水市	持家	木造
家族や衣類、食料などが大切だと思う。	女性	30代	清水市	民間の アパート・ 借家	木造
今は隣近所の付き合いが少ないため、誰かわからないことがあるので、顔と名前くらい分かる程度でもいいから、コミュニケーションが欲しいと思います。	女性	30代	清水市	持家	木造
家の中では高い棚などに、割れ物を置かない。家具転倒防止に固定する。家族で地震の時の心構えや、行動を話しておく。そして、地域での防災訓練で消火活動の練習などを実施する。地震が何時起きてもおかしくない地域なので、大勢の人たちが心構えと対策は考えた方が良い。	女性	30代	清水市	持家	木造
常に家族で避難場所や連絡方法を確認しておくことが大切だと思いました。	女性	30代	清水市	持家	木造
地震発生時間が就寝中、寝てすぐだった為良かったが、ぐっすり寝ている時だとどうしていいかわからないのではと、怖くなりました。地域の連絡（放送）など入れればもっとよかったです。夜遅いがみんな聞くと。家庭でいろんなことを話し合っ、大きな地震が来ても大丈夫なように備えたいと思いました。	女性	30代	清水市	持家	木造
家で食料の備蓄が必要だ。地域での防災訓練を行って、地震に備えた方がいいと思う。	女性	40代	清水市	持家	木造
あわてて屋外に出ない事。食事のしたくの時間（火を使っていない）でなくてよかった。	女性	40代	清水市	持家	木造

原文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
テレビ・ラジオ等の情報や緊急持ち出し品の準備等、個人の防災意識によって対応の仕方が異なると思うが、東海地震がいつ発生しても対応出来るよう日頃から準備をしておくこと。	女性	40代	清水市	持家	木造
以前騒がれたことがありましたが、その時はリュックなどに詰め、目に入る所に準備していましたが、だんだん緊張が薄れて、今ではどこかに入ってしまったままです。時々地域の回覧等で注意を促していただければと思います。	女性	40代	清水市	持家	木造
あわてないこと。	女性	40代	清水市	持家	不明
ケガをしないようにするにはどうしたらいいか。3日間の食料、水の確保。	女性	50代	清水市	持家	SRC造
常に備えていればあまり心配しなくてもよいと思った。	女性	50代	清水市	持家	木造
この地区では一番心配なことはどの程度の津波が来るかということです。家の構造には一応安心していますので、津波から逃れることが出来るかが心配です。	女性	50代	清水市	持家	その他の非木造
地震に対する備え、情報、知識を身に付けておく事が大切だと思います。	女性	50代	清水市	持家	木造
自治会で毎年、防災訓練を実施しているが、日頃から近所同士の助け合いが大切だと思う。壊れ物の置き方、倒れ易い家具等の固定も今一度考える必要がある。災害時の物資の準備も点検する。	女性	50代	清水市	持家	木造
地震が起きた時、家族の中で良く話し合っておくこと。揺れている間は絶対動かない。	女性	60代	清水市	持家	木造
非常持ち出し品を確認し、懐中電灯の数を多くした。	女性	60代	清水市	持家	木造
・寝ている場所(部屋)には家具等倒れ易い物は置かない。・電気が止まる事を考えると、トランジスタラジオの必要性。・靴、スリッパ、逃げる時の履物用意。	女性	60代	清水市	持家	木造
3日深夜の地震では、一時間前に就寝。ゆれを感じたものの沈着冷静というか、鈍感というか、布団を被ってそのまま寝てしまい、翌朝テレビ、ラジオで事の重大さを知りました。翌朝娘にTEL、恐怖感におそわれ、生きた心地がしなかった。幸い茶筆筒は突っ張りポールがしてあったので転倒は防げたが、それでもコップが中で倒れたという。ここへ来て防災用品や保存食の売れ行きが急に伸びているようだ。薄れ行く東海地震、ここへきて備えあればうれいなし、もう一度すべてにチェック！又、最も大事な家族との連絡方法等、すべてに改めて見つめなおそうと思っています。	女性	60代	清水市	持家	木造
・あわてて外に飛び出さない。・水は常に用意しておく。・防災用具は常に枕もとに置く。	女性	70代	清水市	持家	木造
「大地震がいつ来てもおかしくない」とかそういう心構え。	男性	20代	由比町	持家	木造
食料や水の確保。家具の安全性。	男性	30代	由比町	持家	木造
家具の固定。家族が離れている時の連絡方法の確認。	男性	40代	由比町	持家	その他の非木造
結論は、身の安全が大事であるという事を痛切に感じました。	男性	50代	由比町	持家	木造
地震対策を軽く考えない事。	男性	60代	由比町	持家	木造
家族間でいざという時の場合について、よく話し合っておかなくてはいけないと感じた。	女性	20代	由比町	持家	木造
違う場所においても連絡出来る様にしたい。家族の安全！	女性	30代	由比町	持家	木造
就寝中にあったので、判断が遅かったので、どう行動をとったらよいか常に頭に置いておく事。家具転倒防止対策の必要性。	男性	30代	焼津市	持家	SRC造
時間帯が全く予想もつかないので、家族が全員揃っている時なら行動が一緒に出来るのだけど、そうでない場合のお互いの安否の確認方法等を改めて徹底するよう感じた。	男性	40代	焼津市	持家	非木造であるが構造は不明
食料、飲料水、非常用物資の備蓄を行う事。	男性	40代	焼津市	持家	木造
東海地震が叫ばれた当時にもう一度戻って考えなおしたい。	男性	50代	焼津市	持家	木造

原文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
今回の地震では幸いにも被害がなくて良かったですが、私共の住まいは、間近に海を控えておりますので、津波には非常に神経質になっております。地震が起これば津波の有無が最大の関心事です。今回の地震で思った事ですが、地震のおさまったあと、テレビでは津波の心配は無いとの報道でしたが、地域でも消防車とか広報車を使って知らせて廻っても良いのではないのでしょうか。	男性	60代	焼津市	持家	木造
東海地震が来たかと思った。この世の終りと思った。	男性	70代	焼津市	持家	木造
・家族がバラバラでいた場合の連絡方法のとり方。食料、飲料水など非常用物資の備蓄を行う事。	女性	40代	焼津市	持家	木造
いつ来るかわからないので、家族で話し合う必要があると思った。	女性	40代	焼津市	持家	木造
近所の人達との協力。	女性	50代	焼津市	持家	木造
もう一度、水とか最低の物は揃えておく必要があると感じた。家の中も安全を再確認したいと思う。	女性	50代	焼津市	持家	木造
よその県より焼津市は出来ていなかった。	女性	70代	焼津市	民間の借家	木造
家具などはきっちり固定しておかなければいけないと思った。家族の中で役割分担を決めておいた方がよい。家具やテレビがある部屋などでは就寝しない方がよい。	男性	20代	島田市	持家	木造
家具や絵画、花瓶等の倒落防止策。	男性	30代	島田市	公団・公社・公営の賃貸住宅・アパート	SRC造
日頃の防災訓練など、大切だと思った。いつ地震がやって来るかわからないので、その場その場で対応していかなくてはいけないと思った。	男性	30代	島田市	持家	木造
家族で地震対策の話し合いが必要だと思った。	男性	40代	島田市	民間のアパート・借家	その他の非木造
日頃から家族の避難方法を確認しておく事。	男性	40代	島田市	持家	木造
火による二次災害は大変怖いと思いますので、火の元対策は常に心掛けなければと感じております。	男性	50代	島田市	持家	木造
いざ地震が来ると、何をしたらいいのかかわからず、ただ茫然としてしまい、揺れがおさまるのを待つしか出来なかったので、日頃の防災訓練などの強化が今後いっそう大切になるのではないかと思います。	男性	60代	島田市	持家	木造
・正確な早い情報。・就寝場所の安全確保。	男性	60代	島田市	持家	その他の非木造
あわてないこと。	男性	70代	島田市	持家	木造
昼間老人や子供だけの家は室内での避難場所を決めておきたい。地区の身体不自由な人・高齢者などに対する気配りが必要。	男性	70代	島田市	持家	木造
いつ地震が来るかわからないので、急にあわてたりしないように、日頃から気をつけて備えておきたいと思いました。	女性	20代	島田市	持家	不明
主人の仕事が不規則で、いない時に、地震にあったらどうすればいいのか、今回の地震ですぐ電話がつかなくなったりしたので、電話以外の連絡方法、どこで会うようにするのかとか、しっかり家族内で話し合う事は大切だと思いました。	女性	30代	島田市	公団・公社・公営の賃貸住宅・アパート	不明
地震の際、昼なら、夜なら、というように家族の状況を把握して、いざという時の行動イメージを自分の中に持っているようにする。とりあえず落ち着いて行動する。寝室に靴を置いておく方がいいと思った。	女性	30代	島田市	持家	木造
各地域で倉庫を持って、その中に最低の必要品を用意した方が良かったと感じた。(例えば毛布、水、食料)	女性	50代	島田市	持家	木造

原文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
家人をみんな起こして（又、皆元気であるか）確かめて出来るだけ一緒に居所を話し合って行動する。	女性	60代	島田市	持家	木造
発生時にはあわてず落ち着いて行動をする。	女性	70代	島田市	持家	木造
持ち出し品の準備。	男性	30代	藤枝市	持家	木造
持ち出し品、食料品の用意。	女性	20代	藤枝市	持家	木造
冷静さと日頃の準備。	女性	40代	藤枝市	持家	木造
防災用品の準備	女性	40代	藤枝市	持家	木造
防災用水。飲物。	女性	50代	藤枝市	持家	その他の非木造
水・食料の準備	女性	60代	藤枝市	持家	木造
・衣類など布団の近くに用意しておく。・家族の連絡方法を考える。・家具転倒を防止する。	男性	20代	川根町	持家	木造
・今回は深夜だったので、火の元はそれほど気にならなかったが、特に火の始末には気をつけるようにしたい。・持ち出しの簡単な荷物を作った。	男性	30代	川根町	持家	木造
あわてずに正確な情報を得る事。	男性	30代	川根町	持家	木造
自分の身は発生時は自分で守る事が一番大事。	男性	50代	川根町	持家	木造
高い所に重い物を置かないようにする。家具が倒れないように固定する。	男性	50代	川根町	持家	非木造であるが構造は不明
・全員の居場所。・火災を起こさない。・揺れが止まるまで周囲の状況を落ち着いて把握して、行動をとる。・通信で現状を確認する。	男性	60代	川根町	持家	木造
情報伝達。	男性	70代	川根町	持家	木造
情報はやく伝達する。個々の意識をしっかりと確認していざという時オロオロしないようにしたい。	女性	40代	川根町	持家	SRC造
迅速な行動。	女性	50代	川根町	持家	木造
本当に自分は自分で身を守る事ですね。地震予知の確かな情報が必要と思う。	女性	60代	川根町	持家	RC造

問 28 今回の地震に関して、感じたことや行政などに対する要望がありますか。あれば具体的に教えてください。

原文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
自分が住んでいる地域の危険性についての情報がもっと欲しい。	男性	20代	静岡市	持家	不明
市の広報が流れましたが、聞き取りにくかった。	男性	20代	静岡市	持家	木造
いち早く市民に情報を知らせるべき。それが一刻一刻始めと少しずつ違って来てもその都度知らせるべき。	男性	20代	静岡市	民間の アパート・ 借家	非木造ではあるが 構造は不明
NHKをはじめとする民放、マスコミを使った情報の徹底。	男性	30代	静岡市	持家	木造
正確な地震情報を速く知りたい。地震予知に関する研究を進めて欲しい。かつて地震予知連は、大阪、神戸地区を特定観測地域指定していたが、ほとんど無防備のまま、あの地震に見舞われた。つまり、東海地震の騒ぎの影にかくれた、犠牲となったとも言える。日本全国どこでも地震の可能性はあると言った方がよい。地震予知は現段階では、全く出来ないから。	男性	30代	静岡市	民間の アパート・ 借家	木造
地震に関する情報は文章だけでなく、図、表などを用いて、分かりやすくして欲しい。	男性	30代	静岡市	民間の アパート・ 借家	R C造
広報無線にて地震の詳細を報じて欲しい。	男性	40代	静岡市	持家	木造
テレビ・ラジオ放送を早くする。	男性	40代	静岡市	持家	木造
震度計をもっと多く設置を望む。できれば予知の研究を早急にしてもらいたい。予知出来なければ対応や自然災害が人災に変わってしまう。	男性	40代	静岡市	民間の アパート・ 借家	不明
今回の地震は倒壊地震の引き金と頭によぎりました。テレビ報道では、無人カメラでの放送局（NHK）の繰り返し映像でした。地震の様子。被害状況、報告、震度 etc 繰り返し事も大切であるが、一歩踏みこんで、火の確認、窓の開け閉め、車の対応等、不安招かぬ程度の喚起はテロップを流すなどで対応してはいかがだろうか。事実かという私も適切な対応にはいたらなかった。東海地震が叫ばれている昨日、今回の地震は気を引き締めるに値する良きカンフル剤であったと思う。	男性	40代	静岡市	持家	その他の 非木造
とくに NHK テレビですが、地震の被害状況を伝えようとするあまり、被害がたいしたものではないのに騒ぎ過ぎのような放送でした。行政はマスコミに被害を探し出して大きく伝えようとするような放送はやめさせるべき。	男性	40代	静岡市	持家	木造
夜地震があり、外に逃げた時、電気が止まっていると、外は真っ暗になってしまいます。そんな時の為に、非常灯のようなものが各電柱にあると良いと思います。	男性	40代	静岡市	持家	木造
耐震診断を早急にやって欲しいです。	男性	40代	静岡市	持家	木造
正確な情報をより早く知りたいと思った。	男性	50代	静岡市	持家	木造
縦揺れと横揺れの被害状況の違い。（今回マグニチュードが大きい割には実質被害が少なかった）	男性	50代	静岡市	持家	その他の 非木造
行政側の市民に対する安全性の発表及び確認行動がなく、不安になる 市内パトロール。災害時行政の対応内容、及び方法。	男性	50代	静岡市	持家	木造
正確な地震情報を速く知りたい。地震予知に関する研究を進めて欲しい。かつて地震予知連は、大阪、神戸地区を特定観測地域指定していたが、ほとんど無防備のまま、あの地震に見舞われた。つまり、東海地震の騒ぎの影にかくれた、犠牲となったとも言える。日本全国どこでも地震の可能性はあると言った方がよい。地震予知は現段階では、全く出来ないから。	男性	60代	静岡市	持家	木造
広報静岡のスピーカーの情報をもう少し詳しく説明して欲しいと思う。	男性	60代	静岡市	民間の 借家	木造

原文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
あの時はNHKテレビで確かに行政（県庁内）の画は映っていたが、その人たちが何をしているのかわからず、ただ県知事がテーブルに座っている所の画が多く、バカバカしく思ったし、行政としての情報が何もなかったと思う。もう少し細かな情報を。NHKテレビもただ各地の震度の放送が多く（それも必要だが）もう少し地域の様子も映して放送して頂きたかった。	男性	60代	静岡市	持家	木造
家の耐震構造を推進すること。電信柱を地下に埋めること。	男性	60代	静岡市	持家	木造
発生直後、拡声機による放送があったようですが、全く判らず、意味がなかった。誰もが聞いて判断出来る放送設備にして頂き、範囲を狭くするなど、聞き取れるか再調査してください。	男性	70代	静岡市	持家	木造
NHKなどで地域の情報を多く放送して欲しい。	男性	70代	静岡市	持家	木造
地域の避難場所が安倍川近くの、海に近い所なので、津波が心配で。本当に避難場所として適切なのか、疑問を感じる。	男子	70代	静岡市	持家	木造
危機管理をしっかりとして欲しい。	女性	20代	静岡市	持家	木造
何をどう準備すべきなのかチェックリストを欲しい。防災心の準備、実施編と簡単にまとめた冊子が欲しい。（避難する時にさっと見れる最低限のもの）	女性	20代	静岡市	社宅・公務員住宅など 給与住宅	R C造
阪神クラスの地震（被害）が起きた場合、本当に的確に動いてくれるのか不安。	女性	20代	静岡市	持家	その他の非木造
その時は“どうしよう”とまっているんなこと考えたけど、結局、その時だけで、余震などないし、何となくもう大丈夫なのかな...って思うと、またあまり関心をもたないもとの生活に戻ってしまう...。もっと度重なる危機にせまらないとよくわからない...	女性	30代	静岡市	持家	木造
水道水ににごりが出たと広報車で知ったが、そのあと、情報がなかったので、水道水の飲用に迷ったので、周知する情報には責任を持ってフォローして欲しい。	女性	30代	静岡市	持家	その他の非木造
地震 110 番など地震に対して、備えに対して、細かく説明してくれるTEL受付があると嬉しい。	女性	30代	静岡市	持家	木造
情報は必ずすぐに入れるようにしておいて欲しい。	女性	30代	静岡市	民間の アパート・ 借家	S R C造
家の倒壊などがとても心配ですが、補修にはどうしても費用がかかります。今の家計の中での出費はとても無理です。行政の補助支援をお願いしたいです。	女性	30代	静岡市	持家	木造
森総理の行動について何を考えているか聞きたい。自分が地震にあわないと何もしないで待っているだけなのだろう。	女性	30代	静岡市	持家	木造
食料や飲料水の備蓄をもっと充実させておかなければと思いました。	女性	30代	静岡市	持家	木造
“広報静岡”が少し聞き取りにくい。非常袋の値段。	女性	30代	静岡市	持家	木造
短い時間の揺れだったので、震度5でも恐怖心はなかったけれど、あれ以上揺れが続いていたら...と思うと怖いですね。	女性	30代	静岡市	社宅・公務員住宅 など 給与住宅	不明
広報静岡があまりよく聞こえません。スピーカーを増やすことは出来ないのでしょうか。じっと耳をすまसानければわかりにくくて何を言っているのか、はっきりしていません。大岩町です。	女性	30代	静岡市	民間の アパート・ 借家	不明
テレビ等で見る限り、かなり訓練が活かされているように思えたが、職員が少々あわてすぎではなからうかと思う。あと、小嶋市長がすぐに市役所に来ないとは、とんでもないと思った。石川知事が地震直後に県庁に来ていたのだから、市議会で徹底的に追及して欲しいと思う。	女性	40代	静岡市	民間の 借家	木造

原文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
私は観測情報が解説情報が出るはずだと思って、直後よりずっとNHKテレビをつけていましたが、1時頃になってもそれらしい情報がなく、あきらめて寝てしまいました。1時頃までの情報も同じ事が何度も繰り返されるだけのように感じて、しまいには飽きてしまいました。もっと被害が大きい場合には、情報も絶えず変化するのですが、それほどでもなかったため、皆比較的冷静にしているのに、かえって不安をあおっているように感じられました。観測情報と解説情報は、静岡県民にとっては大きな意味を持つ情報なのでできれば30分位で、長くても1時間位で出せるよう、あるいは「何時頃には情報を出します」などの予告などして頂けたら、情報を待つ身としてはありがたいと思います。	女性	40代	静岡市	持家	木造
机の上で考える事も大切かもしれませんが、現実が同じには限らない。(事実、市長さんは理屈抜き、行動していなかった)(同じ震度5でも深さ場所によっても違う)(昔の防空壕など地下道などの所で地割れがあったりしたら)など...	女性	40代	静岡市	持家	木造
やはり前ぶれもなく大きな地震は起こるものなんだと思う事と、いざという時に体が動かなくなってしまうものだと感じました。揺れがおさまるまでじっとしているしかなかったです。	女性	40代	静岡市	社宅・公務員住宅など 給与住宅	不明
食料や飲料水の備蓄をもっと充実させておかなければと思いました。	女性	40代	静岡市	持家	木造
道路の混みよう(交通)渋滞。病人の動けない、体の弱い老人をどう動かして良いのか? 自転車やバイク、車での移動(逃げる)火事場ドロボー(コンビニ)銀行他。	女性	40代	静岡市	民間の アパート・ 借家	RC造
地域ごとのもっと細かな情報が必要だと思った。静岡中部が震度5強と、テレビで放送されたが、自分で経験した限り、とてもこの程度の揺れが震度5強とは信じられなかった。	女性	40代	静岡市	持家	木造
市の広報が流れたが、聞き取れなかった。深夜で、静かな時でも聞き取れなかったため、もう少し改善してもらいたい。	女性	40代	静岡市	持家	その他の 非木造
広報の放送を聞き、落ち着いた。	女性	50代	静岡市	持家	木造
避難場所におけるトイレ対策。衛生対策を充分にして欲しい。いざ、という時、車での移動をいつから許可するか、規制のマニュアルを知りたい。	女性	50代	静岡市	持家	木造
防災訓練を今よりも多く実施。	女性	50代	静岡市	持家	その他の 非木造
広報静岡での屋外放送は、ほとんど聞き取れない。	女性	50代	静岡市	持家	木造
対策をどの程度してくれるのか心配。	女性	60代	静岡市	持家	木造
地震予知をもう何年もやっておりますが、予知は出来ないでしょうか? 全住宅に耐震を行政にやって欲しいと思います。(無料で)税金の無駄を無くしてみんなの命を守ってほしい。	女性	60代	静岡市	持家	木造
・NHKからの連絡が、県の総務課につながっても意味がない。防災課と早急に連絡を取り、正しい情報を流して欲しい。・市役所から流れる広報は全然聞こえない。	女性	60代	静岡市	持家	木造
予知をしっかりとお願いします。	女性	70代	静岡市	持家	木造
なるべく自分の出来る限りの速やかな行動をとって、他人に出来る限り迷惑を掛ないようにする。いつも体調に気をつけて、まわりに又、なるべく人に迷惑を掛ないようにする事。	女性	70代	静岡市	持家	木造
問26の事(避難場所や避難路の整備、災害に強いまちづくり、防災指導、防災意識の高揚)が大部あると思います。	女性	70代	静岡市	持家	木造
市の広報が何か言っていたが窓を開けて聞いたが良く意味がわからなかった。後で聞いたら「火の元を気を付けよう」といったのか? 分かりやすく広報して欲しい。	女性	70代	静岡市	持家	不明

原文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
地震の恐怖がわかり、地震の後の心のケアを大切にしたい。	男性	30代	清水市	持家	木造
広報（清水では広報しみず）放送がよく聞こえる所とあまりはつきり聞き取れない場所があるので、スピーカーをもっと増やすか、もしくは聞き取れない所は広報しみずの内容を FM ラジオに入れるとかしないと聞き取れない地域の人は行動が遅れ、2次災害などに巻き込まれてしまう可能性が出てくると思う。	男性	30代	清水市	持家	木造
テレビの地震情報が役立ったが、電気が切れた時の情報の確保。	男性	30代	清水市	持家	木造
詳細な地域の被害報告（号外、広報等で）	男性	40代	清水市	持家	木造
行政に要望することはありません。各自が防災意識を高めていく以外ないと思う。	男性	40代	清水市	持家	SRC造
正確な情報を早急に伝える体制を確保してほしい。	男性	40代	清水市	持家	SRC造
住んでいる地域が津波の発生地域であり、地震発生の情報、各地の震度などは早くテレビ等で流れたが、津波の発生があるかないかの情報は遅かったように思う。もう少し各地の震度情報と同時に津波に対する警戒情報を早く出していただきたい。	男性	40代	清水市	持家	木造
小学校が避難場所になっているが、老朽化していても避難場所とは考えられない。	男性	40代	清水市	持家	木造
地震状況を広報で早急に。	男性	60代	清水市	持家	木造
災害に弱い人（高齢者等）の住居マップが必要と思われ、地区隣組内に徹底を図る防災対策が必要不可欠である。	男性	60代	清水市	持家	木造
地震の大きさによっては、県のみならず、国の援助が必要と思われる。	男性	60代	清水市	持家	木造
私は長年自主防災の役員をしている関係から、今回の地震は歪計の変動の無いことから局地的なものと判断し、テレビによる情報を聞くにとどまりましたが。中には起きて防災服を着た人もいたと聞いています。揺れの時間その他から東海地震がどんな形で起きるのか。そんな事も周知しておくことが必要と思われ、地震、即東海地震ではないことも知っておくこと、正しい情報・知識も必要のように思われました。これは清水の住民だから言えるかもしれませんが、揺れの時間からも判断出来ると思います。	男性	70代	清水市	持家	木造
弱者に対して早急に支援、処置を望む。	男性	70代	清水市	持家	木造
正確、迅速な情報の提供を望む。	男性	70代	清水市	持家	木造
各自治体において、非常用物資を備蓄する施設、小屋に対する費用の補助が必要と思う。	男性	70代	清水市	持家	木造
ここ何年かあちらこちらで地震が起きていますが、身近で起こると人事ではないと思った。	女性	20代	清水市	持家	木造
夜おそかったせいもあり、子供達は気づかないで寝ていました。私もしばらくは起きていましたが、その後寝てしまっ、「東海地域の地震・地殻活動に関する情報」をやったことを知りませんでした。速報の時などに「情報」を何時頃やる予定です。とか流して欲しかったと思いました。	女性	30代	清水市	持家	木造
情報やニュースを早めに流して欲しい。	女性	30代	清水市	民間の アパート・ 借家	木造
すばやい対応を望む。	女性	30代	清水市	持家	木造
大地震で危険なもの、ブロック壁や、大きな窓ガラスなど、なるべく避けた方が良いと思う。（これから新築する人）地震に強いもののPRをして、教えてほしい。新築する人が高値でも安全なものを購入してくれるかもしれない。隣近所から安全な建物の方が良い。地域ぐるみの防災訓練、避難訓練、消火訓練などを面倒でもやった方が良いと思う。震災後の生活自力再建の支援をして欲しい。	女性	30代	清水市	持家	木造
地震が来てその後のケアなどすぐに対応できるようにして欲しい。今回は大きな事にならなかったのがよかった。	女性	30代	清水市	持家	木造

原文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
地震発生直後にニュースを流して欲しい。耐震診断、耐震補強を行う為の費用の負担を2割程度にした方が補強などする人が増加すると思う。	女性	40代	清水市	持家	木造
地震が起きたら、いち早く広報清水でどんな状況が知らせて欲しい。	女性	40代	清水市	持家	木造
既に行政では、実行されていることと思うが、過去大地震に見まわれた地区の行政の対応がどうであったか見習うべき点や取り入れたいアイデア等、比較検討、検証して万が一に備えていただきたいと思います。過去から学ぶことは大切ですから。	女性	40代	清水市	持家	木造
夜中で火を使っていない時間帯で良かったと思いました。ガスの元栓を締めることまで頭がまわらず反省しています。	女性	40代	清水市	持家	R C造
行政からの情報が無かった。	女性	50代	清水市	持家	木造
三保地区は高い場所がないので津波に対する安全対策が必要。	女性	50代	清水市	持家	その他の非木造
飲料水や生活に必要な水の確保を希望する。	女性	50代	清水市	持家	木造
地震直後 NHK より県の防災課に被害状況を聞いていたが、詳細を即答出来ないことは辱しい気持ちだった。怪我人の性別、年齢は確かめておくのは係として当然のことだと思う。一刻も早く市町村の状況を知る、そして情報を知らせて欲しい。	女性	60代	清水市	持家	木造
仮設住宅の対応...早さ。	女性	60代	清水市	持家	木造
もしもこの地で阪神のような大地震が来たらどうだろうか。パニックは必ず起こると思う。日頃訓練、用意は成されていても、いざその時は、一刻も早い対応をお願いするのみです。	女性	60代	清水市	持家	木造
市の広報（放送）が聞き取りにくい。	女性	70代	清水市	持家	S R C造
発生地域の情報をより早く。	女性	70代	清水市	持家	木造
事前に予知があれば良いと思いますが、それは無理と思います。	女性	70代	清水市	持家	木造
東海地震の予知技術の向上。	男性	40代	由比町	持家	その他の非木造
町の防災無線で広報が出来れば「午前0時」という時間だがどうであったか？	男性	50代	由比町	持家	木造
地震直後に広報などですぐ情報を流すなどして欲しいと思った。	女性	20代	由比町	持家	木造
家具転倒防止器具に対する資金援助及び器具の推奨。	男性	30代	焼津市	持家	S R C造
現在の建物（住宅）は、きみつが良いので流しても聞こえない事が多い。できれば車でスピーカーを使って走って欲しいと思った。（安全確認をしてから地域を廻って欲しい）その時に今回の情報も一緒に...	男性	40代	焼津市	持家	非木造であるが構造は不明
電話がすぐにつながらない事。	男性	40代	焼津市	持家	木造
焼津の震度が出なかったので震度4～5はこの程度かと正直思いましたが、後に焼津、松崎の震度の伝達が出来なかったとの事、常に点検が必要と思われまます。	男性	50代	焼津市	持家	木造
地震はいきなり来るので何をしていたかわからない。自分の身を守るのが精一杯だった。	男性	70代	焼津市	持家	木造
いつ来るかわからない地震なので、テレビしか情報を聞く事が出来ないなので、詳しく伝えてください。	男性	70代	焼津市	持家	木造
・安全な避難場所の早急な確保。またそこまでの交通手段、などの整備。・家具転倒防止装置等の行政からの支給または補助金支給など。・広報やいつのアナウンスがあいまい。	女性	30代	焼津市	持家	S R C造
・家族、親類との連絡をとりたい場合に、すぐに電話が繋がらなく困りました。	女性	40代	焼津市	持家	木造
広報の呼びかけは、大変心強く感じた。	女性	50代	焼津市	持家	木造

原文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
焼津市の情報を知りたい。	女性	60代	焼津市	持家	木造
情報をしっかりして欲しいと思います。	女性	70代	焼津市	民間の借家	木造
地震の時にすぐテレビをつけたが、焼津の情報が少ないので困った。	女性	70代	焼津市	持家	木造
地震があつたらなるべく早くテレビやラジオで現在の状況を放送して欲しいと思いました。	男性	20代	島田市	持家	木造
一定以上の震度がある場合と警戒警報を発令する場合の明確な区分と市民への連絡・徹底。	男性	30代	島田市	社宅・公務員住宅など 給与住宅	SRC造
まわりがどのような状態になっているのか、早くわかるようにして欲しい。今回は翌日になって、分かった事が多かったです。	男性	30代	島田市	持家	木造
地域情報の伝達不足。	男性	40代	島田市	民間の アパート・ 借家	その他の 非木造
出来るだけ早く、正確な情報が欲しい。	男性	40代	島田市	持家	木造
現実に地震の恐ろしさを体験した事がないので、何を要望するのか、具体的にありません。とりあえず、今まで通りの事で良いのではないかと考えています。	男性	50代	島田市	持家	木造
地震に関する情報をテレビ、ラジオ等で伝える時、正しい内容は勿論だが、もっと地域ごとの細かい情報を伝えて欲しい。	男性	50代	島田市	持家	木造
各家庭単位で非常用物資の準備をするのではなく、その地域などでも、十分な物資などを緊急時に備え、準備していれば、安心だと思います。	男性	60代	島田市	持家	木造
今回の地震で島田は左右の揺れだったが、東海地震では県内の地域、地区、個別にどのような予測（上下動、左右の揺れ、液状化、山崩れ、津波など）をしているのか、その対策などを知りたい。浜岡発電は東海地震が起きても安全性は保障できているか。エネルギー放出（ガス抜き）をしたとみる人もいるのではないかと恐れ、何回でも十分な危険認識の説明が必要と考える。	男性	70代	島田市	持家	木造
こうしたアンケートは必要かもしれないが、東海地震がくれば、みんなパニックになってしまうので、マニュアルがあっても？と...考えてしまう所はある。対策にお金をかけるより、地震や災害後の支援にお金をかけるべきだと思う。	女性	30代	島田市	持家	木造
地震についての情報が、テレビやラジオからのみで、特に詳しいものは見ていないと（聞いていないと）わからないので、よく不明者を探している“こうほう”で（外でよく流される情報）早めに、東海地震につながるか、避難はした方がいいかなど、昼夜問わず、情報を流して欲しいと思った。	女性	30代	島田市	社宅・公務員住宅 など 給与住宅	不明
藤枝市では発生直後に市民に向けて同報放送が入ったのですが、島田市ではそういった事はなかった。市町村によってその時の対応が違うんだと思った。島田市役所の被害が大きかったようで、もっと大きな地震が来たら役所が倒壊するかもしれない、そうしたらその後の対応が困ると思った。	女性	30代	島田市	持家	木造
情報をより早く伝えて、避難等の指示を何よりも早く伝えて欲しい。	女性	40代	島田市	持家	木造
大地震が来たら、その時その時で、と思っています。必ず大地震は来るのですから。まちがいなく...	女性	50代	島田市	持家	木造
緊急医療体制を充実させて欲しい。	女性	50代	島田市	持家	木造
何1つあわてて出来なかった。これからは大切な物を1つにまとめて地震に備えて、出来る限りあわてない様に、揺れがとまってから行動するようにする。	女性	60代	島田市	持家	木造

原文	性別	年齢	住所	住居形態	住居構造
避難すべきか連絡があるのか不安だった。	女性	40代	藤枝市	持家	木造
地域の被害状況を迅速に収集し、公表する事。	男性	30代	川根町	持家	木造
地域の情報を早く知りたい。	男性	50代	川根町	持家	非木造であるが構造は不明
・地震予知は正解はない。出来ない。・起きてからの絶対安全対策を設備、指導する。・すばやく国民に正確な情報を伝える。・各地に設置した地震確認装置を、きめ細かに設置を望む。	男性	60代	川根町	持家	木造
行政で情報を知らせるべきではないか。	男性	70代	川根町	持家	木造
情報伝達。高齢者、心身障害者等弱者対策。	男性	70代	川根町	持家	木造
東海地区に限らず、関東地方で地震が発生したり、火山の活動が活発になると、まず最初に「東海地震と関係はありません」と発表されます。この発表は、結果としてそのような判断をしたということであるのにも、最初に必ず言うということはおかしいと思います。東海地震と関係ないから「たいしたことないよ」といっているのですが、既に被害に遇った人から見れば、この発表は“知りたい情報”ではないと思います。	女性	30代	川根町	持家	木造
すばやい情報伝達、指示。	女性	40代	川根町	持家	SRC造
迅速な情報。	女性	50代	川根町	持家	木造
たまたま私は主人が入院中の為、地震の時は一人でした。本当に恐くて自然に声が出た「こわーい」淋しかった。でもさすが子供達が電話をくれた。答え「こわかったが心配ないよ」と返事。でもそんな時せめて行政より「心配ありません」とでもなんとかでもいいから力付ける言葉、放送が欲しかった。私は当時は1人でしたが、これからは一人暮らし、又在宅介護の家には後からでもいいから何かの連絡があることを望みます。	女性	60代	川根町	持家	RC造

● ● ● 静岡県中部を震源とする地震についてのアンケート ● ● ●

	\$3	23	57	5.\$
				400
\$3	\$\$			

*** ご記入にあたってのお願い ***

*** お問い合わせ先 ***

054-251-7100

054-251-3661

問1 平成13年4月3日(火)23:57分頃、静岡県中部を震源(深さ33km)とするM5.1の地震が発生しました。あなたは、この地震が発生した時にどこにいらっしゃいましたか。

1 自宅にいた 96.5	2 建物の外にいた 0.2
3 自宅以外の建物の中にいた 2.7	4 自動車に乗っていた 0.2
5 電車やバスなどに乗っていた 0.0	6 その他 0.2

問2 あなたは、この地震が発生した時、何をしていましたか。

1 自宅で起きていた 35.1	2 就寝中だった 60.2
3 勤務先で仕事をしていた 1.7	4 その他 3.0

問3 あなたは、この地震が起きた時、その時点で気がつきましたか。

1 起きていたので気がついた 39.1	2 寝ていたが気がついた 58.0
3 寝ていたので気がつかなかった 2.0	3 その他 0.7

問4 地震が起こってから揺れがおさまるまでの間、あなたはとっさにどんなことができましたか。あなたが行った行動を、最初にしたものから順に3つまで教えてください。

1 じっと様子を見ていた	62.2	14.6	12.6
2 歩けなかった(動けなかった)	5.7	10.5	3.4
3 ふとんをかぶった	4.2	3.2	1.5
4 机などの下にもぐった	0.2	0.6	0.8
5 就寝中の家族を起こした	8.5	13.1	3.4
6 火の始末をしたり、ガスの元栓を締めたりした		3.0	7.0 6.9
7 家具や壊れ物を押さえたりした	1.7	1.7	0.8
8 安全な場所にかくれたり、身を守ったりした		1.0	2.0 2.3
9 頑丈なものにつかまって身を支えた		0.7	2.3 1.9
10 子供や老人、病人などを保護した		3.2	6.1 3.8
11 戸、窓などを開けた	2.0	4.1	7.3
12 家や建物の外に飛び出した	0.0	0.3	0.4
13 建物のなかに飛び込んだ	0.0	0.0	0.0
14 安全な場所に避難した	0.0	0.3	1.1
15 車を止めた	0.0	0.0	0.0
16 まわりの人の安全を確かめようとした		1.2	18.7 19.2
17 無我夢中でおぼえていない	0.5	0.0	0.4
18 その他	2.2	4.7	8.4
19 何もしなかった	3.5	10.8	25.7

1 番目の行動	2 番目の行動	3 番目の行動
---------	---------	---------

問7 では、家具など家の中はどのような状況でしたか。次の中からあてはまるものを1つだけお答えください。

- | | | |
|---|-----------------------------------|------|
| 1 | タンス、食器棚、冷蔵庫、ステレオなど安定した大きなものが倒れた | 0.2 |
| 2 | 倒れはしなかったが、扉が開くなどして、中の食器やビン類等がこわれた | 1.5 |
| 3 | 花瓶や額縁、人形ケースなど比較的小さいものが倒れたり、落下した程度 | 15.9 |
| 4 | 落下・転倒などの被害はなかった | 77.4 |
| 5 | その他 | 2.5 |

問7 - 1 どのようなものがどのくらい破損及び転倒しましたか。その物ごとにお答えください。

物	どのように	いくつ
例) 茶碗	倒れた	5つ

問8 お宅では、地震に備えて家具の固定をしていますか。

- | | | | | | |
|---|-----------|------|---|----------|------|
| 1 | 大部分固定している | 10.2 | 2 | 一部固定している | 36.8 |
| 3 | 固定していない | 52.5 | | | |

問9 あなたは今回の地震で何が最も困りましたか。次の中からあてはまるものを3つ以内でお答えください。

- | | | | | | |
|----|--------------------------|------|----|--------------------|------|
| 1 | 逃げるべきか、そうでないのか、判断ができなかった | 33.6 | | | |
| 2 | 行政からの情報が少なかった | 11.9 | | | |
| 3 | 鉄道などの公共交通機関がストップした | 0.7 | | | |
| 4 | 道路が渋滞した | 0.2 | | | |
| 5 | 電気が止まった | 0.0 | 6 | ガスが止まった | 0.5 |
| 7 | 水道が止まった | 0.0 | 8 | 電話がかからなかった(一般加入電話) | 4.0 |
| 9 | 携帯電話がかかりにくかった | 9.5 | 10 | インターネットが使えなかった | 0.0 |
| 11 | 食料の備蓄等がなく困った | 2.5 | 12 | 何をしてよいのかわからなかった | 15.4 |
| 13 | 家族との連絡がとれなかった | 0.5 | 14 | 親戚・知人の安否がわからなかった | 1.5 |
| 15 | 何も困らなかった | 50.7 | | | |

問 10 地震直後、あなたはどのようなことを知りたかったですか。次の中からあてはまるものをいくつかでもお答えください。

- | | | |
|----|------------------------------|------|
| 1 | 今回の地震が東海地震に結びつくかどうか | 72.4 |
| 2 | まもなく大きな地震が来る前ぶれかどうか | 62.4 |
| 3 | 今回の地震についての、震源地や規模などの情報 | 51.7 |
| 4 | 余震の可能性や、その規模 | 50.2 |
| 5 | 自分や自分の家族が避難すべきかどうかという情報 | 23.9 |
| 6 | 自分の住む地域にどんな被害が起こっているかについての情報 | 21.6 |
| 7 | 家に戻らない家族の安否や居所 | 4.5 |
| 8 | 市町村や消防の応急措置の内容や指示・連絡 | 8.5 |
| 9 | 道路、通信、電気、ガス、水道が大丈夫かといった情報 | 19.7 |
| 10 | その他 | 2.5 |
| 11 | 特になかった | 4.0 |

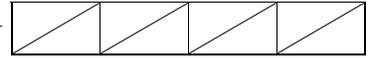
問 11 では、そのような情報を知るために役に立ったものは何ですか。次の中からあてはまるものをいくつかでもお答えください。

問 11 - 1 また、それらの方法で得た情報には、どの程度満足しましたか。方法ごとに下記から選んでお答えください。

	役に立ったものは	その満足度			
		十分な情報を得た	どちらかといえは十分な情報を得た	情報は得たが、どちらかといえは十分な情報であった	情報は得たが不十分であった
NHKテレビ	84.8	32.0	48.4	15.2	4.1
民放テレビ	33.6	21.5	40.7	25.9	8.9
ラジオ	13.9	32.1	37.5	25.0	1.8
市町村の防災無線	11.4	8.7	32.6	28.3	23.9
インターネット(ホームページ等) どのホームページ等ですか ()	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
インターネットメール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
電話	5.0	60.0	25.0	5.0	5.0
携帯電話	2.2	44.4	44.4	11.1	0.0
携帯電話メール	0.7	33.3	66.7	0.0	0.0
携帯電話のインターネット機能(iモード等) どのサイト等ですか ()	0.7	66.7	33.3	0.0	0.0
市町村の広報車	3.2	7.7	23.1	15.4	38.5
その他 ()	2.2	22.2	33.3	0.0	33.3

役立ったものは何もなかった

3.2



問 12 今回の静岡県中部を震源とする地震では、最も強い揺れは静岡市の一部で震度 5 強を観測しましたが、あなたはこの揺れを体験してどのように感じましたか。

- 1 非常に強い揺れで震度 6 や震度 7 になったらどうしようもないと思った 40.5
- 2 非常に強い揺れであったが、これで震度 5 強（場所によっては 5 弱）なら大丈夫だと思った 26.9
- 3 震度 5 強（場所によっては 5 弱や震度 4）はこの程度のなのかとやや安心した 27.9
- 4 地震が起こったのも知らないので、この程度の地震では問題ないと思った 2.0

問 12 - 1 そう思った理由はどのようなことですか。主なものを 2 つお答えください。

- 1 自宅での家屋の被害がない（ほとんどない） 65.8
- 2 家具の転倒や家財の破損がない（ほとんどない） 55.7
- 3 電気・水道・ガスなどの被害がない（ほとんどない） 22.4
- 4 がけ崩れや道路の破損などが無い 3.1
- 5 地震の揺れそのものが思ったほどでなかった 19.3
- 6 自分が冷静に対応できた 15.8
- 7 その他 1.3

問 13 気象庁は、今回の地震に関して、平成 13 年 4 月 4 日、深夜 2 時に「東海地域の地震・地殻活動に関する情報」（解説情報）を発表しましたが、このことをご存知でしたか。

- 1 解説情報であることも知っていて内容まで知っている 12.4
- 2 解説情報であることは知らなかったが、内容は知っている 15.7
- 3 解説情報が発表されたのは知っているが、内容まではわからない 11.2
- 4 知らなかった 59.0

問 13 - 1 あなたはそれを「いつ」「どのようにして」知りましたか。はじめに知ったものをお答えください。

- 1 平成 13 年 4 月 4 日未明のテレビの報道で知った 47.8
- 2 平成 13 年 4 月 4 日未明のラジオの報道で知った 2.7
- 3 次の日のテレビの報道で知った 31.9
- 4 次の日のラジオの報道で知った 0.0
- 5 新聞で見て知った 16.8
- 6 人から聞いて知った 0.0
- 7 役所等へ問い合わせで知った 0.9

問 13 - 2 その発表の中で、「今回の地震が東海地震と結びつくものではないと判断していません」との説明がありますが、このことをご存知でしたか。

- 1 知っていた 94.6
- 2 知らなかった 1.8
- 3 わからない 2.7

問 14 気象庁が平成 13 年 4 月 4 日午前 2 時に発表した内容は下記の通りです。

4 月 3 日 23 時 57 分頃、静岡県中部の深さ 33 km で M5.1 (暫定値) の地震がありました。この地震により、静岡県の静岡市で震度 5 強を観測したほか、島田市、岡部町、川根町で震度 5 弱、東海地方を中心に関東地方から近畿地方にかけて震度 1 以上を観測しました。

震度 1 以上を観測した余震は、2 時現在 3 回で、余震活動は順調に減衰しています。発震機構は、正断層型でフィリピン海プレート内部の地震と考えられます。なお、この地域では、1996 年 10 月 5 日に川根付近で M4.3 の地震が発生しており、今回の地震と同様の発震機構でした。

地殻変動については、地震と同時にステップ状の変化が観測されましたが、その後変化は観測されていません。

以上のことから、今回の地震は、想定される東海地震と結びつくものではないと判断していません。

(この情報を知っていた方も、今ここで初めて目にする方もお答えください)

問 14 - A 上記の発表を受けて、「静岡中部地域」の地震についてはどのように思われましたか。

- | | | |
|---|-------------------------|------|
| 1 | もう終息に向かっているが予断は許さないと思った | 72.4 |
| 2 | もう終息すると思った | 18.4 |
| 3 | 安全になると思った | 3.7 |
| 4 | その他 | 3.5 |

問 14 - B 上記の発表を受けて、「東海地震」についてどのように思われましたか。

- | | | |
|---|--------------------------------|------|
| 1 | 東海地震に結びつくものではないが、ひき続き注意すべきと思った | 63.7 |
| 2 | 東海地震の発生の可能性をより強く意識した | 29.6 |
| 3 | 東海地震にまったく結びつかないと思い安心した | 4.5 |
| 4 | その他 | 1.5 |

問 14 - C 地震発生から約 2 時間後に解説情報が発表されましたが、このことをどのように思いますか。

- | | | | | | |
|---|----------------------|------|---|-------------|------|
| 1 | 地震発生後間もなく発表があり参考になった | 38.6 | 2 | 翌日の朝の方がよかった | 21.4 |
| 3 | 参考にはしなかった | 8.0 | 4 | わからない | 28.9 |

問 15 あなたは、東海地震が切迫しているという不安を感じていますか。次の中からあてはまるものを 1 つお答えください。

- | | | | | | |
|---|-----------|------|---|------------|------|
| 1 | 強く感じている | 34.3 | 2 | 少し感じている | 50.2 |
| 3 | あまり感じていない | 12.2 | 4 | ほとんど感じていない | 2.5 |

*** 東海地震についてお伺いします ***

問 16 今回の地震が発生する前には、東海地震にどの程度の関心を持っていましたか。

- | | | | | | |
|---|------------|------|---|-------------|------|
| 1 | 非常に関心があった | 21.4 | 2 | 多少関心があった | 55.2 |
| 3 | あまり関心はなかった | 19.9 | 4 | まったく関心はなかった | 2.7 |

問 17 今回の地震を体験した現在では、東海地震にどの程度の関心を持ちましたか。

1 非常に関心がある

2 多少関心がある

3 あまり関心はない 2.5

4 まったく関心はない 1.5

問 18 あなたは、東海地震の起こる可能性について、どの程度に受けとめていますか。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 非常に深刻に受けとめている 18.4 | 2 深刻に受けとめている 29.4 |
| 3 多少は深刻に受けとめている 31.3 | 4 頭のすみにとめておく程度 10.4 |
| 5 日常はほとんど気にしていない 8.7 | 6 全く気にしていない 1.5 |
| 7 関心がない 0.0 | |

問 19 次にあげるものの中で、地震に備えてお宅で行っているものがありましたら、今回の地震前と地震後に分けて、次の中からいくつでもお選びください。

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------|
| 1 防災についての家族の役割を決めていた 3.0 | |
| 2 家族との連絡方法を決めていた 15.7 | |
| 3 突発地震の時に避難する場所を決めていた 24.4 | |
| 4 家族が離れ離れになったとき落ち合う場所を決めていた 17.4 | |
| 5 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認していた 7.2 | |
| 6 ガスを使わないときには元栓を締めていた 34.1 | |
| 7 火気器具のまわりを整理していた 13.7 | |
| 8 石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものを使用していた 47.8 | |
| 9 風呂にいつも水を入れていた 25.9 | |
| 10 消火器や水を入れたバケツなどを用意していた 23.6 | |
| 11 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めていた 15.7 | |
| 12 ガラス飛散防止をしていた 4.0 | 13 ガスボンベを倒れないようにしていた 13.9 |
| 14 家具が倒れないように固定していた 25.9 | 15 ブロック塀の点検や転倒防止を施していた 4.0 |
| 16 防災訓練に積極的に参加していた 24.4 | 17 非常持出品を用意していた 35.6 |
| 18 その他 0.7 | 19 何もしていなかった 11.7 |

- | | |
|--|--------------------------|
| 1 防災についての家族の役割を決めた 5.7 | |
| 2 家族との連絡方法を決めた 23.1 | |
| 3 突発地震の時に避難する場所を決めた 31.1 | |
| 4 家族が離れ離れになったとき落ち合う場所を決めた 23.6 | |
| 5 自宅や勤め先付近の安全な避難路を確認した 11.2 | |
| 6 ガスを使わないときには元栓を締めるようにした 39.8 | |
| 7 火気器具のまわりを整理するようにした 22.4 | |
| 8 石油ストーブは、耐震自動消火装置付きのものを使用しようと考えている 48.5 | |
| 9 風呂にいつも水を入れるようにした 29.9 | |
| 10 消火器や水を入れたバケツなどを用意するようにした 26.1 | |
| 11 幼稚園、小学校の児童の引き取り方法を決めた 15.7 | |
| 12 ガラス飛散防止をした 4.5 | 13 ガスボンベを倒れないようにした 13.9 |
| 14 家具が倒れないように固定した 30.3 | 15 ブロック塀の点検や転倒防止を施した 4.7 |
| 16 防災訓練に積極的に参加しようと考えている 31.8 | |
| 17 非常持出品を用意した 49.5 | |
| 18 その他 1.7 | |
| 19 何もしていない 7.7 | |

問 20 あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 入っている 54.5 | 2 入っていない 12.9 |
| 3 自主防災組織はない 3.7 | 4 わからない 26.4 |

問 21 あなたは、お住まいの地域の危険性について知っていますか。あてはまるものいくつかお選びください。

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1 津波の危険 27.4 | 2 山・がけ崩れの危険 9.0 |
| 3 火災の延焼の危険 31.8 | 4 液状化等の地盤の危険 10.2 |
| 5 危険かもしれないが何の危険かわからない 24.4 | |
| 6 知らない 16.9 | 7 危険はない 5.5 |

問 22 あなたは、これまでに自分が住んでいる住宅の耐震診断をしたことがありますか。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 ある 10.7 | 2 ない 87.6 |
|-----------|-----------|

問 23 あなたは、今回の地震を経験して、自宅の耐震診断をしようと思いますか。

- | |
|--|
| 1 早急にしようと思った 1.2 |
| 2 しなければいけないと思った 25.4 |
| 3 新しい耐震基準（1981年5月以降）に建てた家なので必要はない 32.3 |
| 4 古い耐震基準（1981年4月以前）に建てた家だが必要はない 12.7 |
| 5 借家・賃貸なのでできない 11.2 |
| 6 その他 13.4 |

問 24 あなたは、これまでに自分が住んでいる住宅の耐震補強をしたことがありますか。

- | | |
|----------|-----------|
| 1 ある 7.5 | 2 ない 91.5 |
|----------|-----------|

問 25 あなたは、今回の地震を経験して、自宅の耐震補強をしようと思いますか。

1 ぜひしたいと思う 3.0	2 してみたいと思う 18.4
3 どちらともいえない 41.0	4 あまりしたくない 9.0
5 したくない 13.4	6 できない 12.9

問 25 - 1 ご自宅の耐震補強をしようと思わないのはどのような理由からですか。次の中からいくつでもお選びください。

1 診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくったから 26.7
2 診断するまでもなく、経過年数や構造から見て、安全でないことははっきりしているから 11.7
3 耐震診断のやり方がわからないから 8.1
4 費用がかかるから 31.3
5 手間がかかるから 16.0
6 どんな構造の木造住宅でも、大地震にあえば被害は避けられないと思うから 30.6
7 東海地震が起こると思わないから 0.7
8 借家・賃貸だから 13.0
9 その他 6.8

問 26 それでは、防災対策で、特に行政に力を入れて取り組んでもらいたいものを3つまでお答えください。

1 避難場所や避難道路などを整備する 26.9
2 耐震診断や耐震補強に対する相談や費用負担などの支援 19.7
3 災害に強いまちづくりのための再開発を進める 12.2
4 高齢者、心身障害者、災害に弱い人に対する施策を充実させる 27.6
5 地下街、高層ビルに対する防災指導を強化する 4.0
6 防災パンフレットや新聞・テレビなどを通じて住民の防災意識を高める 9.2
7 災害時の正確かつ迅速な情報を伝える体制を充実させる 48.0
8 消火活動体制を充実させる 3.5
9 三角バケツや消火器の配布、防災訓練など、自主防災組織の体制を充実させる 7.0
10 応急医療体制を充実させる 21.6
11 食料・飲料水や毛布など、非常用物資の備蓄を十分に行う 36.3
12 屋外広告物や窓ガラスなどの落下を防ぐよう、安全性の点検や指導を強化する 9.5
13 震災後の生活自力再建の支援 31.6
14 被災建物の再建支援 17.7
15 その他 0.5

問 27 今回の地震にあわれて、家庭や地域の地震対策で、どんな事が大切と感じましたか。

(自由回答)

--

問 28 今回の地震に関して、感じたことや行政などに対する要望がありますか。あれば具体的に教えてください。

(自由回答)

--

*** あなた自身のことについてお伺いします ***

F 1 あなたの性別は

1 男性 50.2	2 女性 49.8
-----------	-----------

F 2 あなたのご年齢は

1 20代 12.4	2 30代 18.4	3 40代 17.7
4 50代 17.4	5 60代 17.7	6 70代以上 16.4

平成13年4月3日の静岡県中部を震源とする
地震についてのアンケート調査報告書

平成13年5月

株式会社 サーベイリサーチセンター

(本 社) 〒116-8581 東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
T E L 03-3802-6711 (代)
F A X 03-3802-6730

(静岡事務所) 〒420-0031 静岡県静岡市呉服町1丁目6番11号
T E L 054-251-3661 (代)
F A X 054-252-6544

本書の記載内容の無断転載を禁ず。
なお、記載内容の照会あるいは詳細資料については、
本社 企画開発部 もしくは 静岡事務所 調査グループ宛にお申し出ください。